

令和6年度

みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業 報告会講演録



令和7年3月
みんなでやるぞ
内水面漁業活性化事業
事務局

令和6年度

みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業 報告会講演録

目次

次第	1
出席者名簿	1
はじめに	3
原野谷川非出資漁業協同組合	6
宮城県内水面漁業協同組合連合会	14
長野県漁業協同組合連合会	20
栃木県漁業協同組合連合会	28
和歌山県内水面漁業協同組合連合会	39
三重県内水面漁業協同組合連合会	49
山形県内水面漁業協同組合連合会	59
米代川サクラマス協議会	71
講評	77

●報告会次第

令和6年度みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業 第4回検討委員会・事業報告会

日時：令和7年3月6日(木)13:00～17:00

場所：対面：TKP ガーデンシティ PREMIUM 東京駅丸の内中央 カンファレンスルーム 12B
(東京都千代田区丸の内1丁目9-1 丸の内中央ビル 12階)

Web (Zoom)：

次第：

1. 挨拶
2. 事業実施報告
 - ① 原野谷川非出資漁業協同組合
 - ② 宮城県内水面漁業協同組合連合会
 - ③ 長野県漁業協同組合連合会
 - ④ 栃木県漁業協同組合連合会
 - ⑤ 和歌山県内水面漁業協同組合連合会
 - ⑥ 三重県内水面漁業協同組合連合会
 - ⑦ 山形県内水面漁業協同組合連合会
 - ⑧ 米代川サクラマス協議会
3. 総合討議・講評
4. その他 (情報提供)
5. 閉会

●出席者名簿

令和6年度 みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業 第4回検討委員会・事業報告会 出席者

検討委員 (敬称略)

氏名	所属	役職	出席
矢田 崇	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門 沿岸生態システム部	副部長	WEB
工藤 貴史	国立大学法人 東京海洋大学	教授	対面
桑田 知宣	岐阜県 農政部 里川・水産振興課	水産振興企画監	対面
佐藤 成史	群馬県河川整備計画懇談会	フィッシングジャーナリスト	対面
佐野 昇	全国内水面漁業協同組合連合会 滋賀県河川漁業協同組合連合会	理事 代表理事会長	WEB

専門家 (敬称略)

氏名	所属	役職	出席
棟方 有宗	国立大学法人宮城教育大学	教授	対面

水産庁 (敬称略)

氏名	所属	役職	出席
丸茂 亮太	水産庁増殖推進部栽培養殖課内水面指導班	課長補佐	対面
日野石 竣	〃	養殖指導係	対面
稲田 圭佑	〃	内水面増殖係	WEB
鶴澤 麗	水産庁資源管理部管理調整課沿岸・遊漁室 内水面利用調整班	課長補佐	対面
大沼 史門	水産庁資源管理部管理調整課沿岸・遊漁室	遊漁調整担当総合係長	WEB

事業実施団体

(敬称略)

氏名	所属	役職	出席
高山 遼輝	宮城県内水面漁業協同組合連合会	コーディネーター	WEB
佐藤 正	〃 (江合川漁業協同組合)	事務局(参事)	WEB
高橋 義雄	〃 (鳴子漁業協同組合)	理事(代表理事組合長)	動画
湊屋 啓二	米代川サクラマス協議会(秋田県内水面漁業協同組合連合会)	会長(代表理事会長)	対面
田中 俊生	〃	コーディネーター(事務局)	対面
野宮 幸博	〃	コーディネーター(事務局)	対面
桂 和彦	山形県内水面漁業協同組合連合会	参事・コーディネーター	対面
青山 澄子	〃	会計主任	WEB
笠原 裕	〃 ((公財)山形県水産振興協会)	コーディネーター(業務執行理事)	WEB
余語 滋	〃 ((公財)山形県水産振興協会)	コーディネーター(業務部長)	WEB
加賀 豊仁	栃木県漁業協同組合連合会	専務	対面
田邊 宜久	おじか・鬼怒漁業協同組合	コーディネーター	対面
藤澤 孝男	長野県漁業協同組合連合会	参事	対面
藤池 俊太	〃	コーディネーター	対面
河合 宏一	原野谷川非出資漁業協同組合	コーディネーター	対面
齊藤 宏和	三重県漁業協同組合連合会(大紀町町おこし協力隊)	機構改革コーディネーター	対面
新海 佑太	〃 (雲出川漁業協同組合)	コーディネーター	対面
田口 喜美恵	〃	事務局	WEB
佐古 充	和歌山県内水面漁業同組合連合会	総務主任・コーディネーター	対面

都道府県担当者

(敬称略)

氏名	所属	出席
永木 美智子	宮城県水産林政部 水産業振興課	WEB
高橋 佳奈	秋田県農林水産部 水産漁港課	WEB
鈴木 悠斗	山形県農林水産部 水産振興課	WEB
小原 明香	栃木県農政部 農村振興課	WEB
丸山 瑠太	長野県農政部 園芸畜産課	WEB
日吉 菜々子	静岡県経済産業部水産・海洋局 水産資源課	WEB
赤松 佑哉	和歌山県農林水産部水産局 資源管理課	WEB

オブザーバー

(敬称略)

氏名	所属	出席
柿沼 清英	一般社団法人 日本釣用品工業会	対面
谷 剛	一般社団法人 日本釣用品工業会	対面
大浜 秀規	山梨県漁業協同組合連合会	対面
花井 孝之	静岡県内水面漁業協同組合連合会	WEB
大竹 一弘	愛知県内水面漁業協同組合連合会	対面
渡辺 智典	株式会社フィッシュ・パス	対面
黒川 千明	〃	WEB
西山 宗一郎	株式会社creato	対面
瀬川 貴之	〃	WEB
丸山 高範	〃	WEB

みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業事務局

(敬称略)

氏名	所属	役職	出席
瀧田 雅樹	公益社団法人 日本水産資源保護協会	部長補佐	対面
田角 由香	〃	主査	対面
安原 克哉	〃	事務局	WEB
中奥 龍也	全国内水面漁業協同組合連合会	専務理事	対面
三栖 誠司	〃	総務課長	対面
岩下 誠	〃	業務課長	対面

はじめに

令和6年度みんなでやるぞ 内水面漁業活性化事業 事業報告会

令和7年3月6日(木) 13:00~17:00
於 TKP東京丸の内

○岩下（事務局）

それでは令和6年度みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業第4回検討委員会・事業報告会を開催いたします。

本日は報告会として、今年度1年間、この事業に携わって来られた実施機関の皆さんに活動内容の報告をいただくということで半日時間を設けました。お忙しい中皆様お集まりいただきまして大変ありがとうございます。

それでは開会にあたり、水産庁栽培養

殖課の丸茂課長補佐から一言ご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願い致します。

□丸茂課長補佐

ただいまご紹介に預かりました水産庁栽培養殖課の丸茂と申します。

私は昨年の11月に内水面担当に着任して内水面のいろいろな状況を学ばせていただきました。組合員が減少して賦課金が減少しているとか、遊漁者が減っていて遊漁料収入が厳しくなっているとか、そのような様々な状況を学ばせていただきました。

この「みんなでやるぞ内水面事業」についてはそのような状況を改善していこうというものと認識しております。私も和歌山県と静岡県に視察に行かせていただいたのですが、他の地域の方々も、今回はいろいろ発表してくださるということで、どのような事業があるのか、やってきたのかということを楽しみにしております。この事業のタイトルにありますように「みんなでやるぞ」ですので、皆さんのいろいろなお知恵を拝借して、少しでも日本全体が良くなっていけば良いなと思っております。本日はよろしくお願い致します。

○岩下（事務局）

丸茂課長補佐、ありがとうございます。

続きまして、みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業事務局を代表いたしまして、全国内水面漁業協同組合連合会の専務中奥よりご挨拶申し上げます。

□中奥専務理事

皆さんこんにちは 全内漁連の中奥でございます。

本日は令和6年度みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業第4回検討会及び事業報告会を開催いたしましたところ、WEBでのご参加を含めまして、工藤座長をはじめ検討員の皆様、また実施機関の皆様から多数のご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

この事業は今年度が初年度ということであり、事務局としても手探りでやったようなところございまして、実施機関の皆様には色々ご面倒をおかけしたかと思っております。おかげさまで皆様のご協力を得まして1年間事業を進めてこられました。改めてお礼を申し上げます。また、実施機関の皆様におかれましても、

やはり初めての事業ということで試行錯誤しながら各地域地域でご検討いただいたと考えておりまして、今日はその成果を聞かせていただけるということで大変楽しみにしております。検討員の皆様にはどうか忌憚のないご意見をいただきたいと思いますし、また実施機関の皆様にとっても、他の実施機関の例を参考にさせていただくとともに、これを情報交換、情報共有の機会にさせていただきまして、また今後の活動に役立てていただければと思っております。本日は限られた時間でございますけれどもよろしく願いいたします。

〜〜出席者の紹介略〜〜

○岩下（事務局）

令和6年度のみんなでやるぞ内水面漁業活性化事業についての簡単にご説明をいたします。

これは令和6年度のみんなでやるぞ内水面漁業活性化事業目的として、公募要領の一番初めに書かれていたものです。

ご存じの通り、この事業の前に「やるぞ内水面漁業活性化事業」という事業がございました。令和元年から始まり、新型コロナの時期も含め5年間実施して一定の成果を収められました。その継続新規事業として、令和6年度より「みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業」としてスタートいたしました。

これまでの事業により導入されたICTシステムにより蓄積された知見情報を活用して漁業管理をさらに高度化させ、それをより多くの漁協へと拡大していくことが重要であります。多くの漁協にはそのような取り組みを企画実践するために不可欠な人材が不足しているため、とても有益なことをやってきたにもかかわらず、まだまだ課題があります。それをどのように解決していくのか。取り組みの核となる地域に密着した人材を「コーディネーター」として配置する、ということで、今回のみんなでやるぞ事業では、

令和6年度みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業

(I) 事業目的

我が国の内水面は、生業としての漁業だけでなく、食用魚等の種苗を生産する養殖業、レクリエーションとしての遊漁等様々な漁業活動が行われており、中山間地域の経済において重要な役割を果たしています。しかし、内水面水産資源の増殖と漁場管理を担う内水面漁協は、人口減少と高齢化による組合員や収入の減少等により運営が困難になってきています。

こうした状況を踏まえ、令和5年度までの「やるぞ内水面漁業活性化事業」では、内水面漁協の運営改善に資する効率的な漁場管理を推進するために、ICT遊漁券の導入や釣り人と連携した漁場管理等を支援してきました。今後、**これまでの事業により導入されたシステムや蓄積された知見・情報を活用して漁場管理を更に高度化させ、より多くの漁協へと拡大していくことが重要になります。多くの漁協にはそのような取り組みを企画・実践するために不可欠な人材が不足しているため、**取組を進めて行くことが出来ない状況にあります。

このため、本事業においては、そのような取組の核となる地域に密着した人材を**コーディネーターとして配置し、その人材の下で、釣り人との連携やゾーニングによる漁場管理の拡大、ICT遊漁券システムにより収集した遊漁者の動向等のデータを活用した漁場管理の高度化、ICT遊漁券アプリを活用した遊漁者の呼び込みなど、効率的な漁場管理や内水面漁業活性化の方法の検討・実行を推進**することを目的とします。

■補助の対象となる取組み

定額補助	① コーディネーターの設置	令和6年度 8団体
	② ゾーニングや釣り人と連携した漁場管理	
③ ICT 遊漁券システムデータの活用による漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化		
1/2 以内補助	④ ICT 遊漁券システム等の導入	7団体
	⑤ 検討会等の開催	

補助率は①～④の内容に準ずる

例：コーディネーター人件費、ICT遊漁券システム事業者によるデータの抽出等に係る費用、アプリを活用した釣り人へのアンケート実施に係る費用、漁場管理の取組に係る費用、漁場整備に係る費用

※①は単協での設置はできません。また、必ず②③の取組みとセットで実施してください。

例：電子遊漁券システムの導入、既存の電子遊漁券システムへの監視システムの追加 等

①～④の取組みに関する検討会の開催に要する経費等



各団体のコーディネーターという立場の方が重要なキーとなって各種の取組を行ってこられた次第です。

みんなでやるぞ事業は大きく分けて「定額補助の事業」と「2分の1の補助の事業」として実施いたしました。2分の1の方は「ICT遊漁券システムの導入」なので、以前のやるぞ内水面事業で実施したことと一緒です。今回の報告会でご報告いただくのは、この定額

補助で実施した事業となります。令和6年度は8機関にコーディネーターの設置、ゾーニングや釣り人と連携した漁場管理、ICT遊漁券システムデータの活用による漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化といった項目の中で様々な取り組みをされたことをご報告いただきます。

それではどうぞよろしくお願いいたします。

原野谷川非出資漁業協同組合

報告者：コーディネーター 河合宏一

原野谷川漁協

令和6年度みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業
(内水面漁場管理高度化に向けた連携体制構築支援事業)
取り組みについて

SLIDE-1

SLIDE-1：静岡県の掛川市にあります、原野谷川非出資漁業協同組合の河合と申します。よろしくお願いします。

久しぶりの東京で、しかもトップバッターということで、ものすごく緊張しています。準備もあまり完璧ではない中ですので、不手際はあると思いますけれども、どうぞよろしくお願いします。

まずは、解決したい課題、事業に応募に至った背景についてですが、やはりとても小さな漁協ということもあって、収入がどんどん減ってきているということ、高齢化によって漁協活動に携わる人員が不足しているということが、一番の解決したい課題です。過去には東京の方からバスを仕立ててハヤ釣りに来るといったような賑わった時期もあったのですが、今となっては、アユに関しては今回の漁業権更新の時に延長となったのですが、ハヤ釣りのお客さんはどんどん減っていく、減っていく中で、やはり何とかして収入を増やして放流量を確保したい、というのが今回報告をさせていただいた背景ということになります。

ちなみに私どもの漁協の義務放流量は、アマゴは1,700尾、ニジマスは4,000尾もしくは200キロ、これは約ですけども200キロということでものすごく少ないです。とても小さな漁協だということがお分かりいただけるとと思います。それでは今回の令和6年度みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業の取り組みについて報告させていただきます。

SLIDE-2：今回の事業では県内の他の漁協さんと協力しあってやっていこう、ということもあり、以前から交流があった、富士宮市の芝川漁業協同組合にご協力いただきました。原野谷川漁協と芝川漁協は過去10年ほどの間、芝川漁協の活動を原野谷川漁協が学ぶという形で行き来がありました。芝川漁協は過去何年もわたり発眼卵放流を実施され、そのノウハウも培ってこられていましたので、2017年に芝川の発眼卵放流の際に原野谷川漁協職員が赴き、直播きの方法を教わり、原野谷川でもその方法を試しました。し

原野谷川漁協と芝川漁協は過去10年ほどの間、芝川漁協の活動を原野谷川漁協が学ぶという形で行き来がありました。芝川漁協は過去何年もわたり発眼卵放流を実施され、そのノウハウも培ってこられていましたので、2017年に芝川の発眼卵放流の際に原野谷川漁協職員が赴き、直播きの方法を教わり、原野谷川でもその方法を試しました。しかしながら河川規模の違いから、原野谷川には適した場所も少なく、その後は発眼卵放流については中断していました。

SLIDE-2

かしながら河川規模の違いから、原野谷川には適した場所が少なく、その後は発眼卵放流については中断していました。

SLIDE-3：ここからは2017年の芝川での直播きの様子を写真でご紹介します。塩ビ管を川底に立てて、そこに直接発眼卵を入れていって、その上に石を置いて塩ビ管を抜くという方法です。今日ご参加されている方はよくご存知だと思うのですが、このような方法で育てていくことができました。それで今回、つりチケ様より提案をいただいた「企業の研修において漁協の活動を取り入れてもらう」という取組の説明をいたしますが、その前に、原野谷川の過去の活動について少し説明させていただきます。

原野谷川では2017年に直播きを教わった後、2019年よりアマゴのキャッチ & リリースの区間を設置しました。その後、川で生まれ育ったであろう稚魚を見る回数が年々増えていきました。これはキャッチ & リリースにより、以前よりも親魚の残る数が増えたことによるものと思われます。人が立ち入らず自然のままにすることで、自然が守られるという考え方もありますが、人里近くにあつて漁協が管理する原野谷川のような小規模河川は、ある程度人の手を入れ続けることで元々あつた再生産能力を引き上げることができるのではないかと考えています。



SLIDE-3

SLIDE-4：これら原野谷川で釣れた魚です。一枚目はちょっと成魚放流っぽいところもあるのですが、時にはこんなに小さい魚が毛鉤で釣れたりします。



それではここからは今回の取組についてご報告したいと思います。

SLIDE-5：第1回目、初回の打ち合わせは、令和6年8月14日掛川市生涯学習センターにおいて今回の取組に協力いただく、芝川漁協の役員の方々、静岡県内水面漁連の花井専務理事、静岡県水産資源課資源増殖班の日吉氏と今後の取組についての打ち合わせを行いました。そこで企業研修に応用できる活動についての洗い出しを話し合いました。芝川漁協の場合 発眼卵放流、これはニジマスとアマゴをやっておられます。時期については11月末から12月上旬、これは年によっても変わりますが、参加者はだいたい毎回20人から30人参加されるということで、過去には子どもの参加実績もあります。また、平日でも土日でも実施可能、対応可能ということです。あとバイバートボックスを使用した発眼卵の放流や直播きでも行っています。その他の活動として、放流のときに河川清掃も同時に実施しております。河川清

①初回打ち合わせ

8月14日、掛川市生涯学習センターにおいて、今回の取り組みに協力いただく芝川漁協役員の方々、静岡県内水面漁連 花井専務理事、静岡県水産資源課資源増殖班 日吉氏と今後の取り組みについての打ち合わせを行った。

企業研修に応用できる活動についての洗い出し

芝川漁協の場合

発眼卵放流(ニジマス、アマゴ) 時期：11月末から12月上旬
参加者20~30人、子ども参加も過去実績あり。平日、土日ともに実施可能。バイバートボックスを使用また、直播きでも行っている。
その他活動 河川清掃は放流時に実施、地域の団体が行うこともある。

SLIDE-5

掃は地域の他の団体が行うこともあります。

SLIDE-6：次に原野谷川漁協の場合ですが、発眼卵放流はアマゴのみやっております。時期は同じく11月末から12月上旬。100円ショップで買った「虫かご」を加工して作った孵化ボックスを、約20個から30個使用して発眼卵放流の確認を行っております。だいたい1班4人ぐらいでやるのが適切な規模です。というのは、これは川の規模がそれぐらいの小さな規模なのです。土日のみ対応が可能、あとは直播きに適した場所は少ないということですね。その他の活動としては、冬場にやるのであれば毛鉤作り教室、河川清掃といったものができる。

原野谷川漁協の場合

発眼卵放流（アマゴのみ） 時期：11月末から12月上旬
虫かごを用いた孵化ボックス20～30個を過去使用。1班4人ぐらいでやるのが適切な規模と思われる。土日のみ可能・直播きに適した場所が少ない。
その他活動 冬場にやるのであれば毛鉤作り。河川清掃。

以下実施内容についての意見交換

- ・1日中、漁協側で研修を行うことは難しい→企業にどのぐらいの長さで実施可能かを確認する。
- ・魚だけでなく、虫や植物に興味を持つ人がいるとも考えらる。
- ・研修という切り口だけではなく、福利厚生などの面も伝える。
- ・今後のアクションとしては、つりチケ(creato)側での企業訪問。

SLIDE-6

以下、実施内容についての意見交換をさせていただきました。一日中、漁協側で研修を行うというのは、時間的にも人力的にもちょっと難しいということで、企業にどれぐらいの長さで実施可能か、実施希望かということを確認するということですね。あと、魚だけでなく、水生昆虫、陸生昆虫も含めた虫や植物に興味を持つ人がいるとも考えられるので、そういった教室をするのはどうか？研修という切り口だけではなくて、会社の福利厚生にもなります、といった面も伝えてはどうか？という意見がありました。今後のアクションとしては、つりチケさん側で企業訪問を行っていただき、希望する企業さんを見つけていくという意見もありました。

②原野谷川漁協でのアマゴ発眼卵放流実施

11月23日、掛川市 原野谷川において。

参加者（敬称略）原野谷川漁協 鈴木久裕組合長、田中昌宏理事、河合宏一及び組合員。芝川漁協組合員の方々。静岡県内水面漁連 花井孝之専務理事。

・内容

リコージャパン株式会社静岡支社7名、イシグロ磐田店1名、釣り人1名が参加し、原野谷川漁協における発眼卵放流を実施。

アンケート5段階評価のうち、一番上の「非常に満足」が7名、その次の「満足」が2名という結果であった。

その後、掛川市生涯学習センターに場所を移し、現地調査の打ち合わせを実施。

SLIDE-7

SLIDE-7：次に現場での実施内容です。原野谷川漁協でのアマゴの発眼卵放流を実施しました。令和6年の11月23日です。掛川市原野谷川において、漁協側の参加者は原野谷川漁協からは鈴木久裕組合長、田中昌宏理事、私河合宏一および他の組合員です。また、芝川漁協の組合員の方々や静岡県内水面漁連の花井孝之専務理事にも参加していただいています。参加者はリコージャパン株式会社静岡支社の7名、イシグロ磐田店（釣り具販売店）の方が1名、一般の釣り人の方が1名参加し、原野谷川において発眼卵放流を実施

いたしました。終了後のアンケートでは、五段階評価の一番上「非常に満足」の方が7名、その次の「満足」の方が2名といった結果でありました。その後、関係者は掛川市の生涯学習センターに場所を移して、現地調査の打ち合わせ等を実施いたしました。

SLIDE-8：その時の様子ですけれど、これが100円ショップの「虫かご」を利用した孵化箱ですね。どのように使うのかという説明をしています。そして実際に川に赴いて設置しているところです。こんな感じで川はすごく良さそうに見えるのですが、良さそうなところだけ撮っていますので、本当はもっと水が少なく、今年は特に雨が少なくてカツカツの状態なのですが、ちょっとでも良い場所を写真に撮りました。



SLIDE-8

SLIDE-9：次に芝川漁協でアマゴの発眼卵放流を実施した時の報告です。11月30日、私も原野谷川の次の週です、富士宮市の芝川において実施いたしました。漁協参加者は原野谷川漁協からは田中昌宏理事と私、河合宏一が出席しました。芝川漁協からは長谷川三男組合長 長谷川洋二理事 城内司理事および組合員の方々が参加しました。参加者は、つりチケユーザーから募った釣り人の方です。就業者と書いてありますが、これはいろいろな業種の方々に来ていただいたということです。建築業の方が1名 アパレル業の方が1名 人材派遣業の方が1名

プラスその方のご家族が2名ということです。他にも3名の申し込みがあったのですが、これはキャンセルとなりました。アンケートでは五段階評価のうち、一番上の「非常に満足」という方が3名でちょっと少ないですかね。

③芝川漁協でのアマゴ発眼卵放流実施

11月30日、富士宮市 芝川において。

参加者（敬称略） 原野谷川漁協 田中昌宏理事、河合宏一。

芝川漁協 長谷川三男組合長、長谷川洋二理事、城内司理事及び組合員

・内容

つりチケユーザーから募った、釣り人（就業者）を対象に実施。建設業1名、アパレル業1名、人材派遣業1名（+家族2名）が参加。（他3名の申し込みがあったがキャンセル）

アンケート5段階評価のうち、一番上の「非常に満足」が3名。

SLIDE-9

SLIDE-10:実際の様子です。原野谷川と違って河川域規模が全然違いますし、水の透明度も全然違うので、すごいうらやましいです。こういったところで実施いたしました。



SLIDE-10

今回この企業研修プログラムに漁協の活動を生かしていただく、というアイデアを聞いた時には、はたしてうまくいくのかどうか半信半疑でしたが、今回参加していただいた企業様、つりチケのユーザー様の生き生きとした笑顔や、高評価のアンケートを見て、今後の内水面漁協の可能性を感じました。

次年度以降は、県内の各漁協も参加し、漁協経営の改善に生かしていただければと考えます。

SLIDE-11

SLIDE-11 :最後に、今回のこの企業研修プログラムについてです。漁協の活動に生かしていただくというアイデアを聞いたときには、果たしてうまくいくのか？と半信半疑だったのですが、今回参加していただいた企業様、つりチケユーザー様の生き生きとした笑顔や高評価のアンケートを見て、今後の内水面漁協の可能性を感じました。

次年度以降は県内の他の漁協さんにも参加していただいて、私どもも協力して、漁協経営の改善に生かしていけたらと思っております。今後の展望として、

釣り人はもちろん、釣りをしない方にも来ていただいて原野谷川のファンを増やしていくこと、他にも川の問題があったり、密漁者の問題もあったりするのですが、誰かしらが川にいることによって、そういったことを防げるのかなとも考えますので、いかにファンを増やしていくのかということが今後の課題かと思っております。

ありがとうございました。

～～～質疑応答～～～

□ 桑田委員

発表ありがとうございます。発眼卵放流って結構人がたくさん必要で、実施するのは大変だと思うのです。そういった中で、漁協以外の方が手伝いに来て、これを実施でき、かつそれが例えば企業さんで、企業の社会貢献のPRであるとか、従業員の福利厚生の一環として実施できたらとても素敵なことだなと思って、この発表を拝聴させていただきました。

そこで二つお聞きしたいのですが、一つは本事業の定額補助を受けての今回の取り組みだったと思うんですが、将来に向けて、定額補助が無くなった場合に、例えばこの取り組みが継続できるかどうか、見通しもしくは課題を教えてください。それからもう一点は、それ以前の話にも関連すると思うのですが、企業さんもしくは漁協さんの今回の取り組みの中での感触ですね、非常に良いという評価ということは伺ったわけなのですが、もしこれがやはり支援がない状況にあった時に、なおそれだけのメリットを感じてやっていけそうかどうか課題があるなら教えていただきたいと思います。

■ 河合コーディネーター

ありがとうございます。今ご指摘いただいた部分というのは、私どもも一番懸念しているところでして、今回は企業さんの方では金銭的な負担が無かったわけで、次年度以降お金を払っていただいて、それでも来たいと言ってくれるような内容だったかということは、真摯に漁協の内部でも話し合っていて考えていけない、大きな課題であるということは承知しております。また、先ほどもちょっと申しましたけれども、発眼卵放流に合わせてまた別のちょっとしたイベントを、例えば漁協内にはフライフィッシングをする人間もいますし、毛鉤を作る教室を簡単なものでもやってみたいとか、あとは水生昆虫を採集してどういった虫がいてこれが魚の餌になるんですよ、といった教室をやるとか、最近ちょっとお金を払ってそういった体験をしてみたいなという教室がいくつかあると思いますので、それらを参考にして組み合わせさせてやっていけたらと思っています。

□ 桑田委員

今後は続けていかれるのですか。

■ 河合コーディネーター

そうですね。今後も続けていきたいです。

この事業に応募した理由の一つに、やはり収入源を何とかして確保したい、というのがあったのと、あとはやはり遊漁の活動を手伝ってくれる人手が欲しいという、二つ願いがあります。そういったことを続けていくにあたり、本来ならお金を貰ってやるようなことじゃないのかもしれませんが、お金払ってでもやりたいと言っただけのようなサービスを提供していけるように話し合っていきたいと思っています。

□ 桑田委員

どこの漁協も抱えている課題だと思うので、今後も含めて課題と解決策がうまくいったなら、うまくいったところを発信いただけると、後に続くものの参考になると思いますのでよろしくをお願いします。

□ 丸茂課長補佐

発表ありがとうございます。私もこの発眼卵報流に参加させていただきました。どうもありがとうございました。その時に感じたのですが、アンケート答えたとお私も非常に満足しました。アンケートは皆さん「非常に満足」だったと思うのですが、アンケートに出てこない感想というのも結構あるかと思っております。私、水産庁の職員として参加したわけではなくて周りの人たちと一緒に雑談していましたが、やはり結構年配の方だと大変だった、川を登るのとか川に入っていくのはとても大変だったと、結構もう来年はいいかなぁとぼやいてる方もいたのです。ですので、ちゃんと満足したという方が、その企業に戻って周りの同僚等に話すときに、満足した・良かったと言って、本当にそれが広がって、来年、再来年にどんな人が増えていくか？というところはしっかり把握というか、そこは検討されたのがいいと思っております。

■ 河合コーディネーター

ありがとうございます。確かに今回ちょっと年配の方の参加が多かったなど。丸茂さんが入溪されたあたりはそうでしたね。今回のこのプログラム以外の活動では、定期的な放流であったり、そういったことに最近の5年間くらいで若い人が手伝いに来てくれることが増えて、正直私たちもう年々足腰が弱っていく中でとても助かっています。今回企業さんの指導する側におられる方に参加していただいたのですが、それがどんどんもっと若い社員の方に広がっていけばいいのかと考えております。

□ 工藤委員

軽くコメントさせていただきます。今の研修のお話が出ましたが、教育や研修の効果分析の世界は結構進んでおりまして、今、農業とか漁業の研修の効果っていうのはかなり進んでいるので、そういう意味では内水面のこのような漁協の研修の特性のようなものを共通のテストで明らかにしていくと面白いかなと感じていて、それを実施しようかと思ったのですが、ちょっと時間がなかったので、来年度に実施してみて、内水面にはこういった研修の面白さがあるよ、というのが出てくれば、参加する側とか企業の側にもアピールできるかなと思いました。

□ 佐藤委員

放流というのは非常に誰の目にも見ても分かりやすく、そこにものがある、それをバックに入れるところを見せればいいことなのですが、その入れたものはその後実際どうなったか？という追跡も非常に大切な要素であり、それが確認できてこそSDGsということが言えると思います。実際この企業の研修の大義にもSDGsということが入っていたりするので、だから春には春で今頃に稚魚が孵化していればそれが泳ぎだして比較的見つけやすいところに入りますし、秋は秋でもっとお金をかけないで行える「産卵のウォッチング」といったこともできますから、それと関連して水生昆虫の話や釣り教室というのができれば面白いと思います。そんな形で地域社会や、そういったことに興味がある方を巻き込んで今後につなげていただければと思います。

■ 河合コーディネーター

今回報告には盛り込んでなかったのですが、2月に実際に孵化器を回収に行って、どれだけ孵化しているかという観察を、リコーの方も2人参加されて実施しました。これくらい孵化しておりましたお伝えしたところ「我が子のようなだった」という意見もありました。

宮城県内水面漁業協同組合連合会

報告者：コーディネーター 高山遼輝

理事 高橋義雄（鳴子漁業協同組合 代表理事組合長）

事務局 佐藤正（江合川漁業協同組合参事）

令和6年度 みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業 事業報告

宮城県内水面漁連



進行

動画での事業報告（漁連：高橋、佐藤）
レポートでの報告（コーディネーター 高山）

SLIDE-1,2

SLIDE-1,2：宮城県のやるぞ内水面令和6年度補助事業の発表いたします。

本日は動画での報告と最後にレポートでの報告を取りまとめたいと思います。今から動画を流しますが、その前に簡単に本事業の目的を紹介したいと思います。

目的

- 内水面漁協が行っている増殖活動等を、SDGs/生物多様性観点で再定義し、社会的な役割・重要性の認知度の向上と漁協収益の向上につなげる取り組みを行います。
- 漁協が行っている増殖活動などを、SDGs/生物多様性観点での【重要性】を再定義し、それらの活動に対して、主に企業参加者を募り、企業向け研修プログラムを開発します。
⇒漁協の収入面、人員面で協力してもらえるパートナーを見つける。

SLIDE-3

SLIDE-3：目的ですが、内水面漁協が行っている増殖活動の素晴らしさ・良さというものをSDGsや生物多様性の観点で再定義して、この内水面漁協が行っている活動、かつ社会的な重要な活動というものの認知の向上と、それに伴って漁協に新しい収益源の形を作る取り組みとして本事業を行いました。

もう一点として、漁協が行っている増殖活動を再定義し、研修プログラムというものを作り、それを企業に募集をかけて参加希望の企業を募り、実証として本事業の取り組みを宮城県で実施しました。

ここから動画に切り替えます。



左：漁連事務局 佐藤正氏（江合川漁業協同組合 参事）

右：漁連理事 高橋義雄氏（鳴子漁業協同組合 代表理事組合長）

～～～取り組みに至った背景～～～

高橋理事：今の漁協の体制というのはまず高齢化があります。それから人口減少もありまして、また環境の変化というものがあって漁協の衰退化が進んでおります。ここで次の世代に残すためには、組合の弱体化を今のうちに抑えなければいけないと思います。抑えるためには何が必要かという、自分たちの認識をもっともっと高く広げていかなければならないことがあると思います。では、そこで何をしなければならぬかということになってくると、従来通りのやり方ではどんどん衰退していきただけなので、新しい考え方、新しい人材というものをに入れていくためには、何かカンフル剤的なものが必要になってくる。

今回の事業というのは、ひとつ良い切っ掛けにもなってくるんじゃないかなと思います。これをやったことによって、誰かにものを教えるということは、自分たちの認識というものをもう一回再確認をすることになると思います。だから自分たちが何をやっているのか、どんな事業をしているのか、今後何を目指すのかというのは改めてこういう事業をやっていくことによって再確認できますから、次に進むことの重要性というのは分かってくると思いますね。

～～～これまでの県内で野取り組み（鳴子漁協の事例）～～～

高橋理事：イワナの遺伝子調査は平成17年から行いまして、今増繁殖させているところではありますけど、それはなぜやっているのかというと、もともと古来からいた魚というものを本当は残さないといけないんですが、今のこの漁協の取り組みによってで、増繁殖する方法が、養殖魚をどんどんどんどん入れることになって、従来あった遺伝子そのものが、どんどん消し去られていく状況になりました。それではその次の世代に引き継ぐということになった場合に、もともといた遺伝子そのものがない状態では、本来のそこに住んでいるような環境とは違ってきますから、元に戻すということになっていけば、もともといた遺伝子を調べなければいけないということになっていると思います。なので、調べたところでこれが在来種だね、原種だねというふうに解れば、突き止めていけば、それをどんどんどんどん増やしていって、それを次の世代に残していくことができると思います。

～～～漁協の役割について～～～

高橋理事：この漁協の役割というのは、漁業権を持って釣りをする・魚を捕るということだけの仕事ではないと思っていて、元々いた遺伝子の魚たちを復活させて、また次の世代に残していくというのが非常に大事じゃないか、重要じゃないかと思っております。

～～～ YKK AP が参加してくれたことについて～～～

高橋理事：今回、YKK AP さんの方はたまたま工場ということで、漆沢ダムという水源から水を引っ張って、その水を使って冷却をする作業をするということで、水を貯水している。その貯水した水を使って魚を増やしたり、自然環境に対して何か恩恵できないかという会社組織の中での関連取り組み、というのを考えていたようでしたので、たまたまそこに今回の事業がマッチしたということ。そこで視察をして、その貯水池で何ができるかということではありましたけれども、本質としては、その場でお話したのは、その池を使ってどうこうということよりも、その水が一番重要じゃないかとお話しました。その水の水質であるとか、漆沢ダム周辺の自然環境、何がどんな魚が生息しているのか？というのが一番重要であると。YKK AP さんの方からその自然環境に対してどのような方法ができるのか等、その方法を少し考えていたようなので、ここで何かお手伝いできるんじゃないか？というところでした。

実際、放流体験をしていただいた方は2人とも釣りをしているという話を聞きました。しかし漁協の取り組みだとか、遊漁券をなぜ買わなきゃいけないのかというところは全く知らなかったということもありました。それも今世の中に起きている現状なのかなと私たちも感じたので、やはりもっとも必要性というものを知らせていかなきゃいけない、教えていかなきゃいけないのかな。これがこの事業を通して理解していただくというのは非常に有効的であると思いました。

～～～次年度以降について～～～

高橋理事：宮城県内には水系がいくつかあり、その中で今回は北上水系の江合川を利用して事業をやりました。次回もし実施できるのであれば、例えば広瀬名取川あとは白石川ですね。各水系をまわって各企業がその水系に協力していただくというような取り組みができればいいのかなと思います。今回は一つの事例として、いい結果が出たんじゃないかと思うので、今後一番のメインは、おそらく仙台市内の大きな企業が取り組む、自然に対しての取り組み方というのをどのように考えるのか、漁協に対してどのように取り組んでくれるのか、そこは注目すべき点だと思います。メインは仙台近郊の企業の協力次第かと思えますね。

佐藤参事：今回は実証試験として実施しているわけですが、内水面漁協を取り巻く環境というのは非常に厳しいので、皆さん相当苦しんでいる内水面漁協の方々が多いと思うのです。こういう活動が一つの打開策になるような、門戸を広げて、いろんな選択肢を選べるような形の一辺として、こういう事業があれば助けになるかな。各漁協さんでも対応を考えているんでしょうけれども、こういう方策も一つあるんだということを認識していただいて、参加していただきたいと思っております。

社会的な背景

- 人口減少、過疎化などで漁協組合員になる人が減少。
 - 理事報酬なども他業界と比べると低い。釣り人対応、自然環境への配慮など、求められる労力・知識も一定以上必要。
- 漁協運営を推進できる人を置くためにも収入を得る必要がある。
または、外部とのパートナーシップで解決することも考えられる。
→どちらにしても【漁協の社会的な意義】を強化し、認知される必要

SLIDE-4

SLIDE-4：今見ていただいた映像を最後に取りまとめたいと思います。

会場の皆さんはご存知だと思うのですが、今、漁協、内水面漁協を取り巻く環境というのは、すごい課題だらけになっているところがあると思います。人口減少や過疎化というところで、内水面漁協の組合の数が減っていたり、あとは理事報酬など、他に比べて低くて、でも釣り人の対応も必要だったり、自然環境の配慮というところも求められるものは様々あります。その中で一つ、周りの企業と連携して外部のパートナーを作ることによって、漁協の今までの活動を維持していくということが大事だと思い、この企画を提唱しました。

SLIDE-5：イメージとしては森で増殖活動をしているような、植林活動みたいなものを河川でやるようなイメージで企業側にも巻き込んで内水面の活動に参入していただくようなイメージをしております。

イメージ

荒廃した森を再生することを目的にする活動は全国で行われていて、多くの企業（企業の関連団体）が関わっている。

林業→漁業にも応用できると考えて実施しました。



SLIDE-5

今年度の取組結果

- 11月3日にヤマメの親魚放流体験+意見交換を実施



SLIDE-6

SLIDE-6：今回の成果としては、11月3日にヤマメの放流体験と意見交換をいたしました。参加していただいたのがYKK APさんの宮城県の工場です。従業員が2000名ほどおり、工場内に池があって、河川に対する意識がとても強い会社さんであったので、今後の取り組みとしては、その周辺の魚の調査、あとは池があるので、その池で魚を飼ってみるような形で、現在提案しています。

SLIDE-7：今年度の目標としては、企業参加3社10名というところが、1社2名という形になってしまったのですが、先ほども言った通り、YKK APさんの取組の方にも参加させていただいて、今後連携していくような流れになっています。

今年度の取組結果

- 参加企業数：目標3社→結果1社（他、直前キャンセル1社）
- 参加者数：目標10名→結果2名（他、直前キャンセル2名）
- YKK PA東北製造所とは以下の取り組みを今後継続する
→漁連としてヤマメの育成をサポート

SLIDE-7

今後の構想

- 参加企業を増やす（関係者連携、シンポジウム・事例共有会）
- 参加漁協、河川を増やす
- 企業サポーター制度（例：1口5万円）
- 企業・市民参加型の遺伝子調査の実現可能性の検討

SLIDE-8

SLIDE-8：今後の構想として、参加していただける企業さんの数を増やすというところが必要だという話になっていて、そのためにも漁協ってどうしているのだったりとか、環境ってどのように大事なの？ということを知ることができるような、会合やシンポジウムを開いて、世の中にしっかり認知を広めていくというのは必要だと思っています。併せて企業から一口5万円というような形で協賛金をいただいて、周辺の環境を調査、環境保全をしていくような活動を今後展開できればと思っています。その

一環として、企業が河川に固有の魚の遺伝子とかあるので、そういったことを調査していく中で、地元根差して「この川ってすごい大事だね！」「こういうところで会社として活動しているのだね！」というところをアピールできるような、そういった形も作れていけたらと思っています。

以上で発表を終わります。

~~~~質疑応答~~~~

□ 桑田委員

先ほどの質問と同じになってしまうのですが、参加したYKK APさんの感触を一つ教えていただきたいのと、うまくいかなかった点も明らかにした方が良く、目標3社だったけど来てくれたのがYKK APさんだけで、それが達成できなかったんですが、おそらくアプローチはされたのかと思うので、実際どれだけの会社にアプローチをされて、何が評価されてYKK APさんは来てくれた、何がダメで他の会社はダメだったのかということをお教えいただけるとありがたいです。

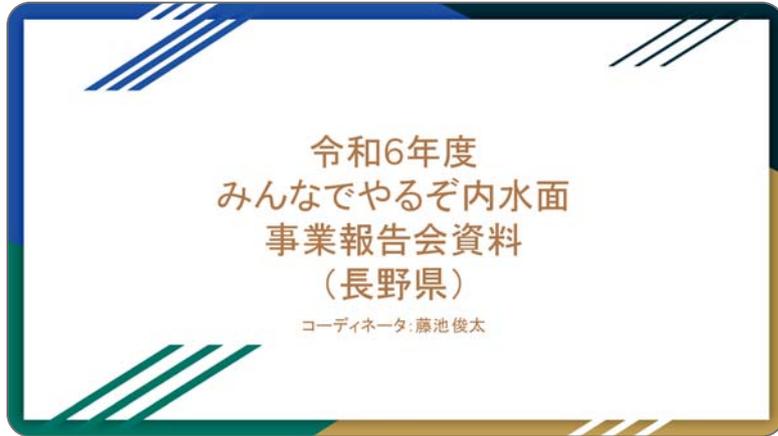
■ 高山コーディネーター

ありがとうございます。

YKK APさんの感触としては、地域の河川での取り組み、環境保護の取り組みをしたいという考えがあるようで、そこを今後も継続的にできるような形を構築できればと思っております。他の達成できなかったところについては、結構他の会社さんにも声掛けをして、大体30社から40社くらいピックアップして声掛けさせていただいたのですが、やはり最初にどのような形でやっているか？という実態や実績というのですか、研修制度にしてもそうなのですが、どんなメニューがあるのか？というところをなかなか伝えきれなかったということがまず一点あるかと思います。また、そもそも河川への環境意識が高い会社がなかなか多くないというところがあるので、会社が多いところで企業を絞ってやっていく必要があるのかなと思いました。

長野県漁業協同組合連合会

報告者：コーディネーター 藤池俊太



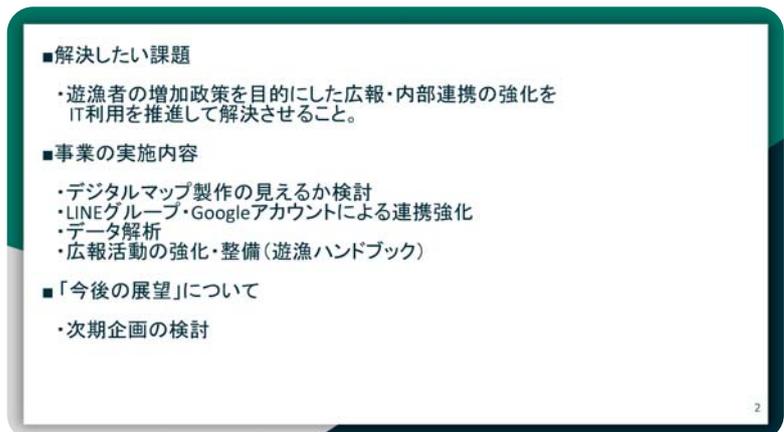
SLIDE-1：長野県で行いました「みんなでやるぞ内水面の事業」について報告いたします。

SLIDE-2：まずは解決したい課題です。

これは遊漁者の増加施策を目的にした広報や、漁協内部での連携を強化をして、ITの利用そのものを推進して解決に導くことです。

事業内容というのはデジタルマップ製作の「見える化」を進めること、みんなで使ってLINEでの連絡のやり取りを高速化させ、Googleアカウントを利用してGoogleドライブ等をもっと強力に使って、今あるデータを使ってどういうように、何か使えるものができるかなという検討をすること、最後に広報活動の強化ということで、「遊漁ハンドブック」という遊漁規則が書かれたものが長野にはありまして、その整備を行いました。

一番最後に今後の展開ということでまとめてみたいと思います。



SLIDE-3,4：解決したい課題 先ほどITの導入を何でやらなきゃいけないのか？といいますが、めちゃめちゃ議論すると、多岐に渡る施策の依頼が出てくるので、これは数回の会議じゃ絶対決まらないぞ！？といったことが起こりました。

なので、定期的に連絡が取れるように一般的なLINEツールを使ってやりとりを行ったり、資料を共有したりというようなものを意識しました。また単年度の成

長野県内では遊漁者の増加政策を目的に、多岐にわたる政策を実行したのですが、数回の会議では、なかなか決定事項を定めることができず、活動の状況報告ができるようIT技術を利用した内部連携の強化を意識して活動しました。

また、単年度の成果物に留めるのではなく、**持続的に利用できる状況**を念頭に置き、次年度以降も応用ができることを意識しております。

果物に留めるのではなくて、継続的に利用できる状況を念頭におきまして、次年度どうしようかという応用のことを一番意識しております。

SLIDE-5：事業の実施内容
このデジタルマップ、これ皆さんご存知の方いると思うのですが、Googleマップを利用して、どこの漁場は何々漁協が管理しています、というのを視覚化したものになります。
長野県ではこのマップの河川名データの強化だとか、あとは遊漁規則に含まれる経緯度情報などを入れてまして、「見える化」を推進しました。

事業の実施内容

- ・デジタルマップ製作の見える化検討
- ・データ解析
- ・LINEグループ・Googleアカウントによる連携強化
- ・広報活動の強化・整備(遊漁ハンドブック)

結果、デジタルマップは保守アップグレードの検討が必要。LINEグループの連携は継続させ、遊漁ハンドブックは配布先のネットワークを利用して今後新たに展開を検討することに。データ解析は、目的に応じて補足的に情報を提示するということになりました。

デジタルマップの導入と運用検討

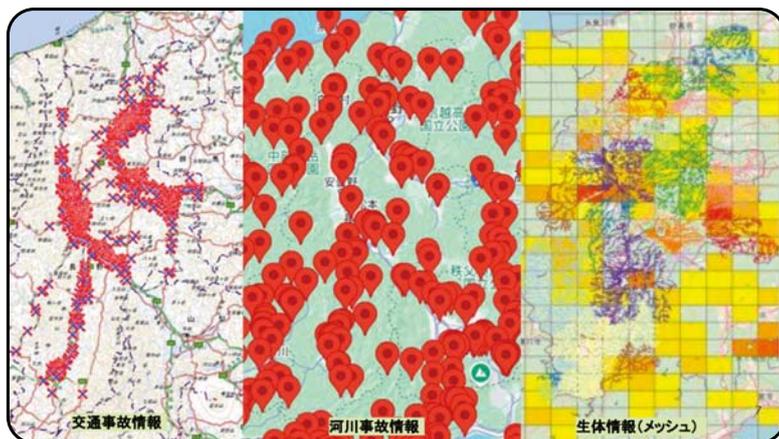
対象データ	対象団体	内容概要	データ型	利用要件
漁場図	都道府県	漁業権区画	ライン	利用可能。ただし、十分な都道府県単位でのチェック体制が必要
	河川財団	河川事故	ポイント	利用可能。ただし、ズームレベルの変更が必要。また、サンプル数が少ない。
安全管理	警察庁	河川事故	-	利用不可。経緯度情報を保持しない
	警察庁	交通事故情報	ポイント	利用可能。ただし、有用性が低いと判断
生態関連	国交省	河川の運搬調査	ポイント	利用が難しい。経緯度データに統一性がない。
	環境省 生物多様性センター	自然環境保全基礎調査	ポリゴン	利用可能。ただし、利用データの抽出が必要かつ、経緯度情報公開など、設計レベルでの検討が必要(注:注釈あり)
	長野県	外来種対策ハンドブック	ポリゴン	利用可能。ただし、更新が手間になりそう。

SLIDE-6：これの導入の検討にあたりまして実際にオープンデータという「勝手に使ってもいいですよデータ」というのが世の中にはいっぱいあるので、それをいろいろ工夫して、このデータに組み込めないか？と探したところ、河川財団というところから河川事故情報データというのがあったりだとか、警察庁では交通事故情報も出しています。

この警察庁では河川事故情報というのが沢山ありました。国交省から出ているデータは生態系情報も出ていますし、環境省の生物多様性センターでいろんな魚種の生態情報も出てます。あとは長野県では外来種情報を出しているということも分かりました。

この警察庁では河川事故情報というのが

SLIDE-7：これが交通事故情報で何か「見える化」したら、ちょっと役に立つのかなと思って調べたものなんですけど、結果として人口の集中エリア、町中に集中することが多く、山岳地域における事故というのは集中しない傾向にあったので、



溪流釣りはあまり使えないという結論を得ました。もう一つは河川事故情報で、実際に「酔っ払って堰堤から落ちた」というデータもあるのですが、こういう情報はサンプル数があまりにも少ないという状況と、利用にはズームレベルの制約があったので、ちょっと使いにくいなという状況でした。

もう一つ、これは生体情報メッシュで、例えばこれはアユに関する生体情報のメッシュ情報だったはずで、こんな感じで視覚化して出せます、というのが明らかになったので、今後デジタルマップをどのように応用しようかな、というのを考えていこうと思っています。



SLIDE-8：デジタルマップについてはその他に、これは先ほどの管理漁協の範囲を表示している状況で、例えば免許番号の切り替えにすれば、このようにに切り替えられるようにしました。許可番号1はこの範囲を整理して分かりやすくしました。あと、先ほどの長野県が持っていた外来種情報であるとか、このエリアに外来種が生息しています、や、市区町村ごと行政区画制御というのができるな、

というのが実際にやってみて分かりました。

SLIDE-9：デジタルマップは終わりにして、次のデータ解析についてなのですが、こちら FISHPASS さんといろいろ話をしまして、いろいろ何を使えるかというのを検討しました。

結論から申し上げますと、月別券種購入頻度によって、広報タイミングや放流の月を検討できるんじゃないか？もう一つはGPSのデータログ記録情報から釣り人の活動推定というのができるんじゃないか。

もう一つは既存のGPSの点線情報を基にヒートマップでどれだけ釣り人がこの河川に集まっているのかというのを、もうちょっと深掘りできるんじゃないか。逆に券種ごとにヒートマップの表示を切り替えるなどしたら面白いんじゃないかと感じました。

データ解析

結論として、FISHPASSとの連携で得られる情報は以下と考えます。

- ・月別券種の購入頻度における広報タイミング・放流月の検討
- ・GPSデータログの記録情報からの釣り人活動推定(月別・時間別・曜日別)
- ・GPS情報のヒートマップ情報(既存)

FISHPASSの保持するデータの偏りは、20代-50代のデータが多くとられる傾向にあり、これら世代を対象とする分析には利用しやすいことが分かりました。また、遊漁券の種類を全数取り扱う場合においては**何人の人がどれだけの頻度で来ているか**の推定が可能と考えられます。しかしながら、月別分析では、最低でも年間の販売実績がある点や、県内の全漁協さんを網羅したデータがないため、地理的条件・類型経営の漁協さんなど、抽出要件を設定するのに数回の高さを感じました。

このため、データ提供後の解析を行うためには、明確に**どのような目的に利用したいか**ということをあらかじめイメージしておく必要があります。

今回の結果からは、県内の遊漁情報配信を行う「長野釣り人ナビ」にて**広報タイミング**などに活用していきたいと感じております。



SLIDE-10：これ長野県のデータなのですが、まず全国のレジャー白書のデータと長野県の人口。あと内水面組合員数情報をこのようにデータに示して、単純にFISHPASSの売上データをこのように乗せました。その結果FISHPASSさんのデータというのは、おそらく10代のデータがう

まく取れていない。そして60代70代のデータもうまく取れていない、だけど、ここら辺(30~50代)は結構取れている。そして組合員数をこのオレンジのグラフ、こう見ると明らかに若手組合員がいないのに遊漁者がこんなに少なかったら賦課金も集まらないし、遊漁料も集まらない、これはもう絶望的だな、じゃあこれは弱年層対策をしなきゃいけないな！というような方向性が見えてきました。ちなみに、ここ長野県では、電子遊漁券における販売のパーセンテージが平均で2%か0.何パーセント程度なんです。なので、10代向けの弱年層対策として「10代は無料です」ってやったとしても、2パーセントぐらいの損害で、10代若年層の遊漁者をボコンって上げることができるんじゃないかなと、FISHPASSのデータから見えてきます。

SLIDE-11：ちょっとデータデータしてましたので、複雑なものを排除して言えることは、弱年層の組合員数が激減しているの、賦課金の収入を上げて遊漁料・賦課金の持続的な収入源が断たれる未来が見える、これに代わる商材や運用で、弱年層の遊漁者普及というのをもっと考えていきましょう！という流れになりました。個人的なアイデアはここ(発表資料下部)に書いたのですが、長野県では「共通遊漁券」がまだ導入されていないので、「共通遊漁券」を導入して商材を増やしましょう、ECサイトでコンテンツ販売をやりましょう、赤字経営の天然遡上がないアユ環境を効率化しましょう、ワカサギやフナをやって経営改善をしましょう、そういうことを書いています。

複雑なものを排除して、明確に言えることは....

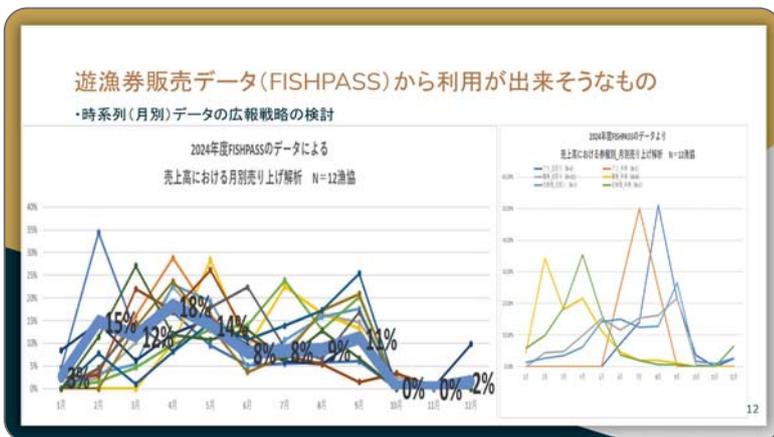
若年層の組合員数が激減し、賦課金収入を下げ、遊漁料・賦課金の持続的な収入源が断たれる未来が見えること。

組合員加入条件の変更が厳しいのであれば、賦課金に代わる商材や運用、持続的収益源となる若年層遊漁者の普及を“子育て支援”の様に強化する必要があること。

個人のアイデアとしては、...

- 商材：共通遊漁券(都道府県連携)、ECサイトを利用したコンテンツの販売(養魚・特産品・フィギュア&カード等)
- 運用：天然遡上のない環境で起こる赤字アユ経営の効率化、ワカサギ・フナなどの遊漁者増加政策、漁連の代替販売により全漁協の電子遊漁券の取り扱い、新たな補助金利用の検討、地元企業や観光機関との連携等。
- 若年層政策：学生または、20代までの遊漁料無償化、釣りの無料開放日を定める。河川の公共利用を高めるために、釣り場やガサガサ可能エリアを提示。遊漁ルールの複雑性を整理・修正する。

11



SLIDE-12：続きましてこれは広報戦略をどうしましょう？といった話のデータです。

遊漁者の売上げだけ見ると、こういうように波及しないようなものになるのですが、券種ごとに分けてみると・・・これはちょっとすみません、あまりはっきりやると恥ずかしいなと思ひまして、見えにくくわざとにこういうグラフにしているのですが、日釣券はこうなります、全魚種はこう

なります、雑魚券はこうなります、という傾向がある程度見えてきました。

全県でこういう傾向があるというのが見えてきたので、これに合わせて長野県で広報しているタイミングを今後使っていこうかと思っています。

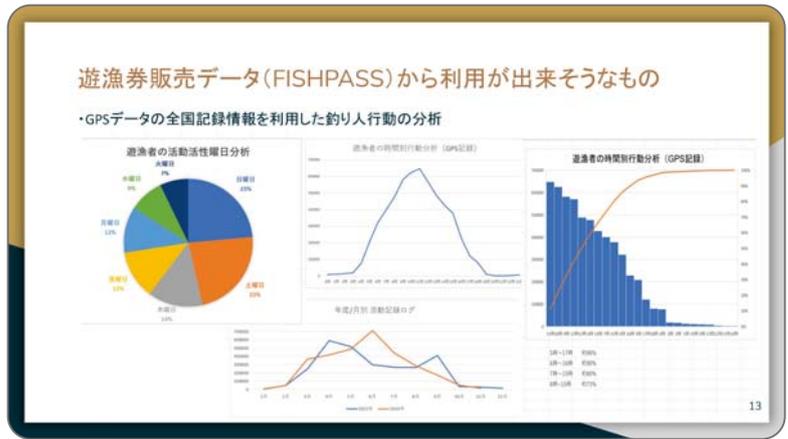
SLIDE-13：次にGPS データから何が読み取れるのか？について、いろいろ考えてみました。

これは遊漁者の活動のデータログの回数の解析で、560万くらいあるデータを全部解析したのですが、だいたい日曜と土曜が多い。金曜じゃなくて意外に木曜も多い。火曜、水曜、月曜はまあまあ少ないかな、といった情報になっています。

続きまして遊漁者の時間別行動分析、何時に遊漁者が動いているのかというのがこれです。だいたい

12時がピークになっています。昼の12時ピークにGPSが記録されていました。

これを結論としたのがこれとこのグラフなのですが、だいたい朝の5時から夜の17時までの時間に96%のGPS記録が見られました。朝の8時から午後15時まではだいたい73%の人間が動いている、釣り人が行動しているというのが見えてきました。



LINEグループ・Googleアカウントによる連携強化

- LINE
 - グループ機能
- GoogleWorkspaceアカウント(なくても利用可能)
 - Googleスプレッドシート機能
 - GoogleDrive機能(データ共有)
 - GoogleForms機能(アンケート作成・実施)

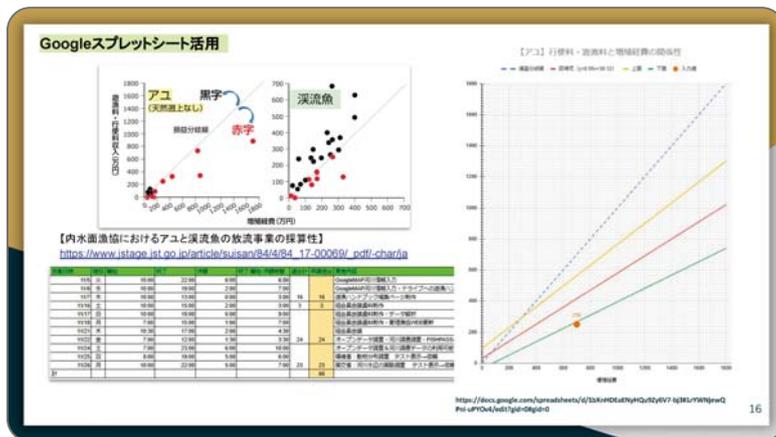
SLIDE-14：続きましてLINEグループとのアカウントの強化で行ったことです。皆さんご存知のLINEを使って連絡を取って、ハンドブックのデザインをどうしようかな？こんな報告しようよ！みたいなもので、小学校への遊漁普及や教育で、こういうのをやっているんですよというのを紹介してもらったりしました。ちなみに、雑談しながら一番盛り上がったのが「ウチダザリガニをどう食うか？」という話題で、とてもオシャレな料理をあげてくださる方がいっぱいいて、そういう楽しみもありました。

SLIDE-15：これはGoogleのアカウントでGoogleドライブを使って何ができたか？といいますと、長野県が持っている漁法の古い資料だとか、過去のしおりとか、あとは水産史だとか、漁連が発行しているのです。これをみんなで共有して、このページを何か使えないかな？といったものをみんなで共有できるようにしました。こういうふうにフォルダがパーッとあって、あとはこういうデータソースがあっ

GoogleDrive機能

長野県水産史
 遊漁のしおり
 長野県水産史

て、これフリーで使えるデータだぞ！っていうのを。みんなで共有できるようにしました。



SLIDE-16：今度はGoogle版のExcelでおなじみ「スプレッドシート」です。これはアユの議論をする際に中村(智幸)先生による「収支の経営状況を4段階で判断する」というのをスプレッドシートに埋め込んで、自分たちの漁協で放流

量と賦課金状況を入力すると、勝手に経営状況が見えてきて、俺ら最悪だ！？っていうのを全部の漁協で見れるようにして共有をさせました。

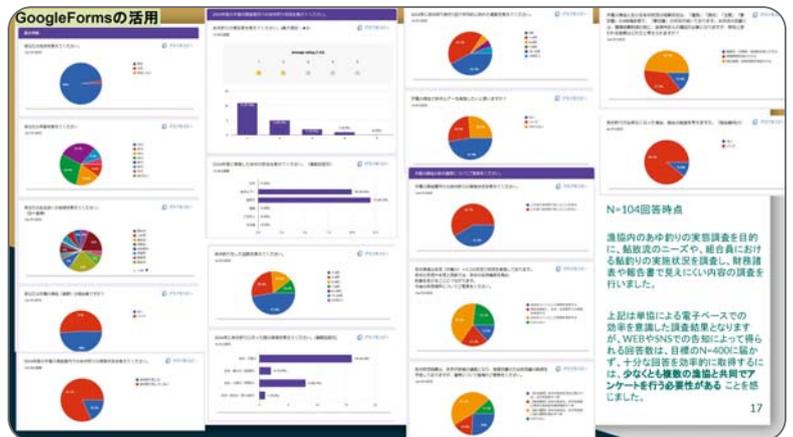
あと藤池の労働時間だとかを共有するのに、スプレッドシートを使って、今日は何時から何時まで何をやりましたっていう報告に使いました。

SLIDE-17：続いて Google の基本機能で Google フォームというものです。

皆さんおなじみのアンケート機能が使えるので、アユに関するアンケートを行いました。

長野県内の結構大きな漁協さんで実施したところ、現在まで約 150 回答を得ているものの、正直なところサンプル数としては 400 はないと全然使い物にならないですし、デジタルデータゆえ、ある程度

偏向があるっていう状況は変わらないので、効率的に何かをやるとしたら、何漁協かで連合を組んで、ある意図を持った集計をしないと、全体の意見を効率的に取ることができない、という結論が見えたように感じました。



SLIDE-18：広報の強化・整備 遊漁ハンドブックを発行することになった際、これ単協でルールだとかマナーとか、何冊いるんですか？っていうのをそれぞれ聞いてからリスト化し、何冊いりますか？他にはどこに配りますか？っていうのを、だーっと出して、そのネットワークを作りました。配布先のネットワーク整備と同時に、今、新しいカタログやパンフレットを作ってるのですが、これも同時に処理して、効率的に配布物を釣り具店に関わらず配布していくような体制を整えようとしています。

SLIDE-19：今後の展開について



SLIDE-20 : 今、LINE 上で多種多様な意見が出たからそれをまとめたり、今後の内容を検討しているのですが、みんなでやるぞ内水面のこのグループを、さらにメンバーを増強したり、漁協以外の視点も必要だ！とか、今そういった意見が出ているので、組織自体をまた少々変えるというのも考かと思えます。

あとは外部団体との連携強化ということで、先ほどの企業連携というのもとて

も大事だなと思うのですが、それと同時に、河川管理団体や観光業界や道の駅、行政だとかとの連携をどうやったらうまくできるのかな？というのが、考えている点です。

もうひとつは、先ほどの共通遊漁券を商材として作ってみようだとか、山梨県のように遊漁券の現場売り料金を検討したら本当に違法な遊漁者は減るのかな？とか、こういうを漁場管理委員会にもエスカレートさせていく必要があるのかな？とか、ということをかんがえております。また、先ほどの水産史のように、水産コンテンツを昔の水産に知見のある方々が沢山作ってくれていたのに、現代ではもうほとんど無くなってきている。だから、どんどんコンテンツを作って面白いことを増やしていけたらいいね！といった話をしたりとか、先ほどのアユのアンケートについては、どのように施策を継続していけば効率的になるのか？というのにアドバイスをいただく必要があるんじゃないかなと。

他には釣りイベントや、若年層普及の施策というのを考えていかなければならない。さらには広報力としてパンフレット・遊漁ハンドブック配布先リストの選定・デジタルマップ、こういったものをもっと強くやっていかないといけないね、というようなことがイメージとしてあります。

以上です。ありがとうございました。

長野漁連 藤澤参事

補足説明よろしいですか？申し訳ございません、資料配布資料 20 ページでございますが、20 ページの下の表の中で遊漁ハンドブックの表紙がカラーで写されております。これ実は校正段階でのプリントなんです、下段のところに長野県漁業協同組合連合会しか表示されておられません。最終的には長野県さんと長野県漁連との共同作成ということで発行し、その目的は行政が行っている窓口の観光機構さんの方への配布というのを広げるために、県にも入っていただいて発行しております。以上でございます。

~~~~~質疑応答~~~~~

□ 工藤委員

東京海洋大学の工藤です。どうもありがとうございました。12 枚目のスライドからですね、FISHPASS のデータを使って分析していますが、これって長野県全体のデータを使っているのですか？

■ 藤池コーディネーター

長野県全体のデータもあります。他のデータでの長野県全体解析の対象は、長野県全体で GPS の解析については、全体から取っています。

工藤委員

個人、釣人がどのようなところに行っているかとかそういうのも分かりますか？例えば1人の釣人がこの川にも行って、この川にも行って、この川にも行ってみたいなことも分かりますか？

藤池コーディネーター

分かりません。個人がどこの川に行ったかというのは、GPS情報から河川名が結びつかないので、河川名が分からないという状況なのです。

工藤委員

データとしてはあるのですよね？個人がどういうふうに釣り場を選択しているかという。

藤池コーディネーター

ただGPSのデータから、近くの川を見れば、もちろん何々河川だなということは分かるのですが、機械的にリレーショナルを行って、これら全てが何とか川だ！と出すことはできません。ただ、技術的に頑張ればもしかしたらできるかもしれません。

工藤委員

別のシステムですけれど、こうみるとリピートするようなタイプもいれば、いろんな川にいろんなところに行くような人もいたりとか、そういうのを県全体で集計して分析できると河川ごとに理解が深まるというか、こういうところがライバルになっているんだとか、こういうふうな釣り客が多いんだとか、客層もとか、そういうのも理解できるかなという感じがしたので、ちょっと伺ってみました。どうもありがとうございます。

丸茂課長補佐

水産庁の丸茂と申します。発表ありがとうございました。ちょっと気になった事項、もしわかれば教えてもらえればと思ったのですが、次回企画の検討の上の行の真ん中のところ、外部団体との連携強化について、他の取り組みで企業との連携という話があったんですが、観光/道の駅/河川管理団体/行政等どういったことを検討されているのかなというところを教えてくださいまして、お願いします。また、行政はちなみにどういったところでしょうか？

藤池コーディネーター

まず一つは道の駅だとか河川管理団体。アイデアとして出たのは、河川をうまく工事した人を表彰しようとか。道の駅だとか観光に関しては、パンフレットを置くところに自分たちが発信している、先ほどのようなハンドブックのようなものを設置してもらうための営業部隊を作ろうだとか、そういう話ですね。なので、ある程度（アンケート？）のパンフレットとかコンテンツっていうのをこちらで作つつ、こういうところのリストを作ってもパッと漁協からいっぱい出せるような状態を整理したいと考えています。

行政については、まだ明確なところは出てないのですが、例えば何かイベントをする際に、うまくつながったりだとかできたらなっていうところですね。すみません、ここはまだイメージができていません。

丸茂課長補佐

はい、そうですね。行政の職員に手伝ってもらえたら、人件費は必要ないと思うのですけど。

藤池コーディネーター

なるほど。

栃木県漁業協同組合連合会

報告者：コーディネーター 田邊宜久

令和6年度内水面漁場管理高度化に向けた連携体制構築支援事業
(みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業) 報告会

漁場管理の高度化等による漁協経営、漁場管理の安定化と「川釣り」を核にした地域経済の活性化への貢献

2025年3月6日

栃木県漁業協同組合連合会

SLIDE-1

SLIDE-1：栃木県漁連の田邊と申します。よろしくお願ひします。

我々、栃木県漁連としては、漁場管理の高度化による漁協経営、漁場管理の安定化と川釣りを核にした、地域経済活性化の貢献ということで今回の事業を進めました。

SLIDE-2：まず、解決したい課題の1点目は、漁協経営と釣り人のニーズの復元です。これがやっぱり漁協経営の安定化のための最大の課題だと。次が、利用者の確保です。それによって観光業と連携による誘客ですね。SDG'sにも着目した、新たな漁場利用者の誘致と漁協収益増大です。

2番目が漁場管理・漁場利用として、釣り人との連携やゾーニング管理の拡大です。遊漁者増大につながる情報の管理、共有によるゾーニング拡大、お客様目線・釣り人参加による漁場管理、漁場管理の

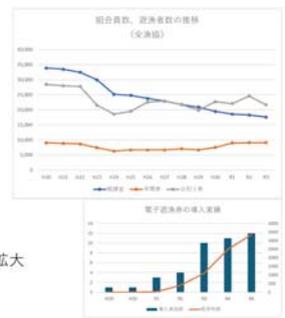
高度化、情報発信の強化、主にこの電子遊漁券のデータを活用した効率的な漁場管理と内水面漁業の活性化の推進、データツールの積極的活用による会員間の情報の共有と情報発信の強化、利便性の向上による拡大ですね。

SLIDE-3：事業の実施内容としては、課題解決の4つの取り組みを軸にして実施しました。これにより成功体験の横展開、これが成功すれば成功事例として、各漁協さんに共有（協力？）してもらい、それを落とし込むということです。

まず1番として、コーディネーターの設置です。これは自分のことですね。2番はこちら、ゾーニングや釣り人と連携した漁場管理、コミュニケーションツールの導入です。新たなゾーニングの展開は主にアユルアーの導入ということですね。3番が、ICT遊漁券のシステムを利用した漁場管理の高度化、内水面漁

【解決したい課題】

- 1 漁協経営
 - (1) 釣り人数の復元
漁協経営安定化のための最大の課題
 - (2) 新たな利用者の確保
観光業との連携による誘客
SDG'sにも着目した新たな漁場利用者の誘致と漁協収益増大
- 2 漁場管理・漁場利用
 - (1) 釣り人との連携やゾーニング管理の拡大
遊漁者増大につながる情報の整理、共有によるゾーニングの拡大
お客様目線、釣り人参加による漁場管理
 - (2) 漁場管理の高度化、情報発信の強化
電子遊漁券のデータを活用した効率的な漁場管理と内水面漁業活性化の推進
デジタルツールの積極的活用による会員間の情報共有と情報発信の強化、利便性向上による遊漁者の増大



SLIDE-2

【事業の実施内容】

課題解決のための4つの取組み → 成功体験の横展開

- 1 コーディネーターの設置
- 2 ゾーニングや釣り人と連携した漁場管理
 - (1) コミュニケーションツールの導入・運用
 - (2) 新たなゾーニングの展開
アユルアーの導入
- 3 ICT遊漁券システムを活用した漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化
 - (1) ICT遊漁券の利用者属性や行動履歴の数値化及び可視化
 - (2) 遊漁者向けデジタルマップの制作、発信
 - (3) レンタル釣具の配置と初心者向けガイドサービスの導入
 - (4) 企業研修プログラムの開発
- 4 協議会の開催

SLIDE-3

業の活性化。ICT 遊漁券利用者の属性や行動履歴の数値化及び可視化。遊漁者向けデジタルマップの作成や発信。レンタル釣り具の配置と初心者向けガイドサービス導入。「企業研修プログラムの開発」ですね。あとですね、協議会の開催です。

SLIDE-4：これは自分が8年前のときの写真です。違う人みたいですね（笑）

コーディネーターの設置については、私は「地域おこし協力隊」をやっていたので、そこで培った人脈とノウハウを活用して、漁協活動に内水面を取り組んでおります。

漁協理事としても事業をけん引しておりまして、まずは地元で成功体験を、ということで自分もテンカラ釣のガイドをしています。その関係から地元のガイドの仲間からも意見をもらっています。

【事業の実施内容】

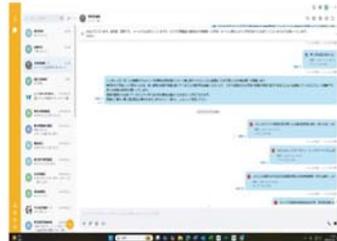
- 1 コーディネーターの設置
 - 地元に着着したコーディネーターの設置
 - 地域おこし協力隊で培った人脈とノウハウを活用
漁協理事として事業をけん引
→ まずは地元で「成功体験」
自らもテンカラ釣りガイド
 - 地元のガイド仲間からも意見



SLIDE-4

【事業の実施内容】

- 2 ゾーニングや釣り人と連携した漁場管理
 - (1) コミュニケーションツールの導入・運用
LINE WORKSを導入
全漁協の事務局PCや役員スマートフォンにインストール。使用方法もレクチャー。
事務の省力化：画像等の大容量ファイルの送信
会員からの情報提供により県漁連HPで情報発信

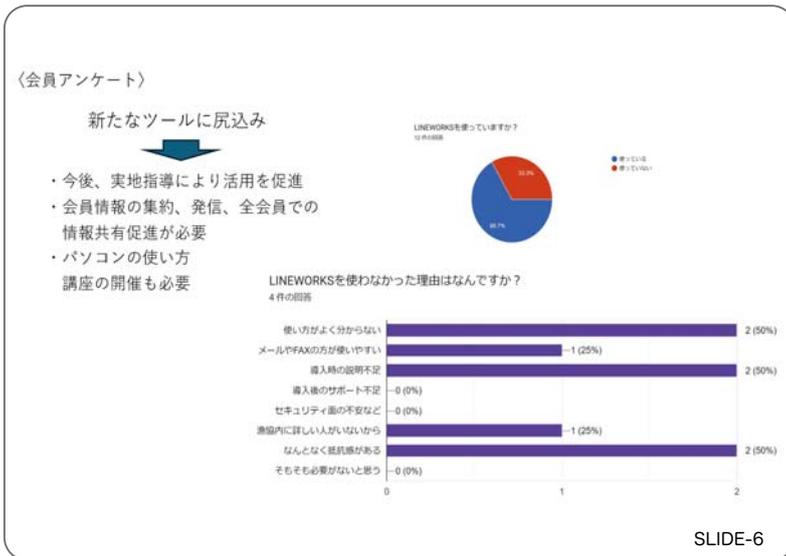


SLIDE-5

SLIDE-5：事業の実施です。

ゾーニングや釣り人と連携した漁場管理として、一番はコミュニケーションツールの導入としてLINE WORKSを導入しました。FISHPASSさんの協力を受けて、これを全漁協に導入しました。

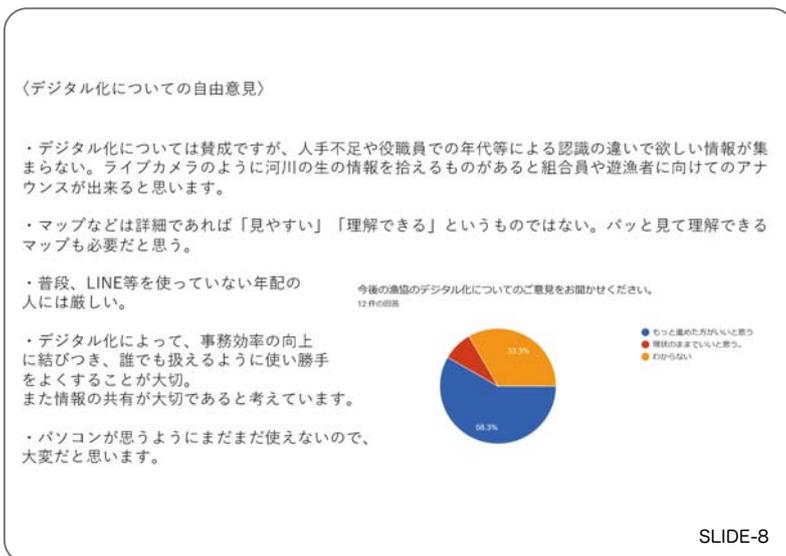
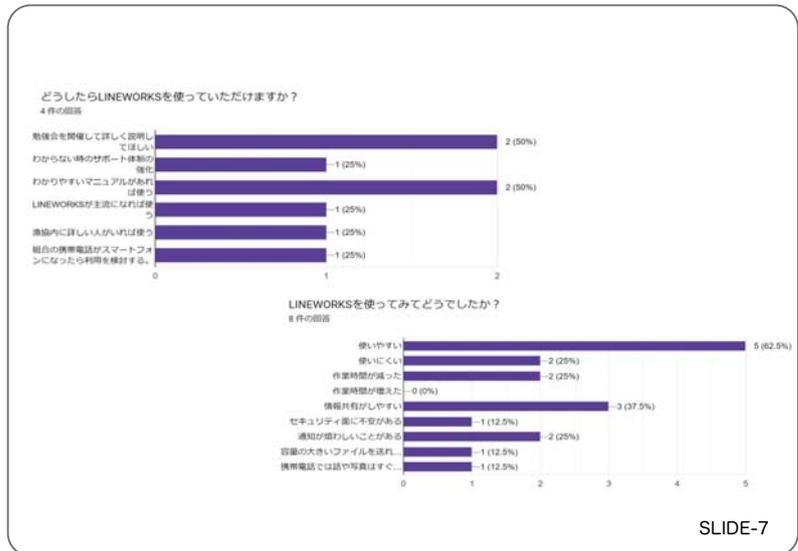
栃木県漁連自体のホームページも、現在リニューアルしております。



SLIDE-6：データツールを導入してアンケートを実施しました。結果は、結構年配の方が多く、皆さん抵抗感がある方が多かったです。新たなツールに尻込みされてしまうとか、今後の実施指導により活用を促進したいと思っております。現在も、私が希望する漁協さんに赴いてサポートをしております。LINEWORKSを使わなかった理由は何ですか？と聞くと、使い方がよくわからないね、とのこと。導入時の説明が不足しているらしいこと、なんとなく抵抗感がある、なんとなく抵抗感があるとやりたく

ないですね？これらのことは結構皆さんに言われました。

SLIDE-7：ここにもあるように、どうしたらLINEWORKSを使っていただけますか？との質問には、マニュアルがあれば使う、漁協で詳しく説明してほしいとか色々な回答がありました。LINEWORKSを使ってみてどうでしたかという問いに、結構使いやすいと答えてくれる組合は専任の事務員にいては使いやすいと言うのですが、それ以外ではやはりちょっと距離感ある、というのが結構多かったです。



SLIDE-8：これは自由意見です。デジタル化は賛成だが、人員不足や年代等による認識の違いで欲しい情報が集まらない。ライブカメラのように河川の生の情報が拾えるものがあると、組合員や遊漁者に向けてのアナウンスができます。マップについては、詳細であれば見やすいわけではない。パッと見て理解できるものも必要だと思う。その他、いろいろな意見がありました。全体的にデジタル化についてはもっと進めた方がいい、というのが基本的にみなさんの意見でありました。

SLIDE-9：ゾーニングについてです。アユルアーの導入に伴いまして、先進地調査として埼玉県の入間漁協さんに行きました。もう一カ所、現地講習会で鬼怒川漁協管内に行きました。

その結果、これまで1漁協だったのですが、なんと8漁協がアユルアーを導入します。先日、釣具の展示販売会でアユルアーの広報活動もしてきました。

みなさん結構アユルアーができるところがなかったという話が多かったので、かなりアユルアーには手応えを感じております。

【事業の実施内容】
 2 ゾーニングや釣り人と連携した漁場管理
 (2) 新たなゾーニングの展開
 【アユルアーの導入】

先進地調査（入間漁協）



現地講習会（鬼怒川漁協管内）



アユルアー広報活動
 (宇都宮市ろまんちっく村)

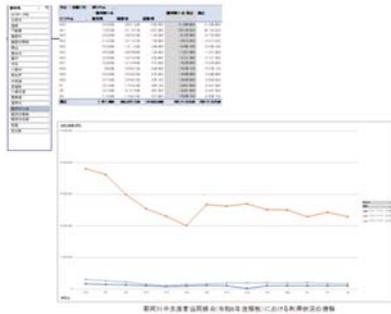


RTアユルアー解禁状況

期	期	解禁
鬼怒川	7月1日~9月19日	鬼怒川 鬼谷町五生池内湖野瀬から上流
都賀川	7月1日~9月19日	都賀川 黒川橋（宇上流）から上流、赤坂川合流点まで
都賀川北流	7月1日~9月19日	都賀川 東北自動車道橋から上流の区域（鬼谷ダムまで）
都賀川南流	7月1日~11月20日	都賀川 丸瀬橋から上流、大内川合流点までの区域
荒川	7月1日~11月20日	荒川 荒川合流点から上流、都賀川合流点までの区域
荒川	7月1日~11月20日	荒川 荒川合流点から上流、大瀬橋までの区域
荒川	7月1日~11月20日	荒川 千瀬橋から上流、水郷小学校までの区域
荒川	7月1日~11月20日	荒川 合流点から上流、小瀬小学校までの区域、9年の目黒橋から上流、赤坂川合流点までの区域
荒川	7月1日~11月20日	荒川 荒川合流点から上流、小瀬川地区千瀬橋までの区域
荒川	7月1日~11月20日	荒川 水郷橋（水郷小学校）から上流、赤坂川までの区域
荒川	7月1日~11月20日	荒川 荒川合流点から上流、おんろ川までの区域
荒川	7月1日~11月20日	荒川 荒川合流点から上流、荒川までの区域

【事業の実施内容】
 3 ICT遊漁券システムを活用した漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化
 (1) ICT遊漁券の利用者属性や行動履歴の数値化及び可視化
 ア 組合員及び遊漁者の利用状況の整理、可視化

- ・組合員及び遊漁者の利用状況の推移を1枚のシートに表示、分析作業が容易に。
- ・可視化された図表により値上げの判断、誘客策の立案の参考に活用。



SLIDE-10

SLIDE-10,11：次に ICT 遊漁券システムを活用した漁場管理の高度化です。こちらに関しましては FISHPASS の協力を受けて進めております。うまくデータを数値化・可視化をして漁協全体の販売状況がわかるようにしたいと思っております。

こういったデータをもとにしてプロモーションを検討するようにしていきたいと思っております。

【事業の実施内容】
 3 ICT遊漁券システムを活用した漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化
 (1) ICT遊漁券の利用者属性や行動履歴の数値化及び可視化
 イ ICT遊漁券の利用者属性や行動履歴の数値化及び可視化

ICT遊漁券の活用状況（鬼怒川管内）



データをもとにプロモーションを検討

SLIDE-11

SLIDE-12：先ほど報告された長野県漁連の藤池さんに今やっただいている「デジタルマップ」についてです。こちらは釣り人に直接見てもらったところ、かなり評判が良く、こういった情報が欲しかった、という意見がある一方、実際、このマップに入るまでが、どこから入っていいのか、認知度不足があったというので、その辺はちょっと課題があるので、来年以降このデジタルマップをしっかりと皆さんにPRできるようにしていきたいと思っております。

【事業の実施内容】

3 ICT遊漁券システムを活用した漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化
 (2) 遊漁者向けデジタルマップの制作、発信

- ・ 漁業権の範囲、管轄漁協、遊漁期間、禁止区域、特別区域、橋梁名称等を表示
- ・ 令和7年からのアユルアー解禁エリアも表示
- ・ 県漁連HPで発信



SLIDE-12

【事業の実施内容】

3 ICT遊漁券システムを活用した漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化
 (3) レンタル釣具の配置と初心者向けガイドサービスの導入

〈当初計画から変更〉
 アユ友釣用具
 → アユルアー、テンカラ釣用具

【レンタル拠点の設置】
 釣場に近いきりぎりし店及び溪流釣り場

【レンタル価格の検討】
 管理費用として2,000円支払い。
 今後、修繕経費も含め3,000円を想定。
 → アンケートでも3,000円程度は妥当

【ガイドサービス】
 テンカラレンタル：田邊コーディネーターがガイド
 アユルアー：レンタル拠点店主が釣り場へ案内



➡ ガイドは不可欠

SLIDE-13

SLIDE-13：レンタル釣具の配置と初心者向けのガイドサービスの導入についてです。当初はアユの友釣りの道具を検討したのですが、アユルアーとテンカラ釣用具に計画を変更しました。

こちらに関しては事業を採択されたのが7月で、かなりシーズン後半ということもあり、件数がとりづらいこともありまして、手軽なところでアユルアーとテンカラということで実施しました。

レンタルの拠点としては、釣り場近くのおとり扱店と溪流釣り場としました。

こちら、今回はモニタリングということで、アンケートに答えた方は無料ということで実施したところ、修繕費も含めて3000円を想定していましたが、アンケートでも3000円程度が妥当だという意見がほぼ100%得られました。

テンカラ釣用具のレンタルについては、私がガイドも兼ねてやりました。アユルアーではレンタル釣具の店主が釣り場案内できます。

レンタル釣具を使う人は初心者が多いので、初心者にはガイドがついて案内することが不可欠という結果が得られました。

SLIDE-14：アウトドアガイドとかスキーの指導員を集めて協議会を開きまして、来年以降に向けての意見交換会をしました。釣りガイドには資格などはないに等しく、釣りガイドは誰でもなれます。ガイドとしての必須の安全や話し方についての研修体制がない。スキーでは当たり前の有料でのレクチャーが釣りでは認知

【事業の実施内容】

〈インストラクター協議会での意見〉

- 釣りのガイドには資格制度などはないに等しい。
- ガイドとして必須の安全や話し方についての研修体制がない。
- スキーでは当たり前の有料でのレクチャーが釣りでは認知されていない。
- ガイド又はインストラクターのプロがない。
 釣りのうまい地元「おじさん」が教えている例がほとんどでシステム化されていない。
- モニターツアーを実施して今後の進め方を検討してはどうか。
- 釣りガイドを目指す人に対して初心者研修を受講させて認定するように制度化できないか。
 講師はアウトドアガイド等の有資格者。
- 認定した釣りガイドが実施したガイドに対するアンケート評価を行い、ガイドの評価を共有するシステムを導入してはどうか。
- SNSを活用して、地域の釣りガイドとマッチングしやすいようにできないか。

SLIDE-14

されていない、ガイドまたはインストラクターのプロがいない、釣りのうまい地元のおじさんが教えている例がほとんどでシステム化されていない。俺教えてやるよって感じでやっていて、基本的にはお客さまを迎えるって姿勢ではないということです。

次はこちらです。モニターツアーを実施して今後の進め方を検討してはどうか？。釣りガイドを目指す人に対して、初任者研修を受講させて認定するように制度化ができないか。講師はアウトドアガイド等の有資格者。認定したガイドが実施したガイドに対するアンケート調査を行い、ガイドの評価を共有するシステムを導入したり、あとは SNS を活用して地域の釣りガイドとマッチングしやすいようにできないか？という意見が出ました。

【事業の実施内容】

- 3 ICT遊漁券システムを活用した漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化
- (4) 企業研修プログラムの開発

〈目的〉

内水面漁協が行う水産資源の増殖活動を新たな収益源とするための仕組み構築と漁協活動への理解醸成

〈内容〉

- ・ ヤマメ発眼卵放流
- ・ 11月1日、5日の2回実施
- ・ 6社11名が参加
- ・ 全員が「非常に満足」又は「満足」、8名が「継続参加したい」又は「検討したい」
- ・ 「放流を通じて漁協の仕事を体験でき貴重」、「良い体験になった」、「トイレが近いと良い」、「朝早いと大変」、「渓流魚を食べる体験もセットだと嬉しい」



〈感想〉

- ・ 企画立案から実施までを担うコーディネーターが不可欠
- ・ 地域の農泊実施事業者やアウトドアや釣り具販売事業者とのコラボレーションにより漁協の負担が少ない方法の導入が必要

SLIDE-15

SLIDE-15：次に企業研修プログラムの開発です。目的として、内水面漁協が行う水産資源の増殖活動を新たな収益源とするための仕組み構築と漁協活動への理解醸成ですね。一番の肝としては、普段漁協でやっている活動を企業さんに売り込んでそれを収益化できないかということです。

今回、11月1日と5日の2回、1日は「おじか・きぬ漁協」、5日は「那珂川北部漁協」さんで実施しました。

合計で6社11名の方々に参加していただき、全員が非常に満足または満足と

いうことでした。「放流を通じて漁協の仕事を体験でき、貴重な良い経験になった」「トイレが近いとよい」「朝早いと大変」「渓流魚を食べる体験もセットだと嬉しい」といった意見をいただきました。

この2つの漁協さんを選んだ一番の理由は、まず受入れ体制ができていることと、特に駐車場から近いこと、長距離を歩くと大変なので、その辺がこの2つ漁協を選んだ理由です。

感想として、企画立案から実施までを担うコーディネーターが不可欠ということですね。実際にこれを全部運営するというのは漁協さん、特に単協さんでは難しいかなという意見になりました。地域の農泊実施事業者やアウトドア用品店や釣り具販売事業者とのコラボレーションにより、漁協の負担が少ない方法の導入が必要だと思っております。

また、今回は水産試験場や水産機構の研究者を招いて講師をやっていたただいたおかげでうまくいきましたが、単協で実施するのはなかなか難しいので、そこは来年以降の課題かなと思っております。

SLIDE-16：こちらは協議会の開催です。開催にあたってキックオフミーティングと実績報告と次年度のアイデア出しを各漁協さんと行いました。

【事業の実施内容】

- 4 協議会の開催
- (1) 運営協議会

- ・ 第1回 7月23日 キックオフミーティング 12漁協（18名）、県行政、水産試験場等
- ・ 第2回 2月7日 実績報告と次年度のアイデア出し 9漁協（12名）、県行政、水産試験場等



第1回



第2回

SLIDE-16

【事業の実施内容】

4 協議会の開催

(2) やったらいのに協議会

内水面漁業に関心のある学生等から漁協活動や漁場運営についての意見や提言をもらう

【第1回 11月17日 大田原市 栃木県なかがわ水遊園】

- ・東京海洋大学 4年次生3人、宇都宮大学農学部3年生、帝京大学3年生、国際医療福祉大学3年生各1人
- ・第1回 11月17日 大田原市 栃木県なかがわ水遊園
- ・「漁協を知ろう」をテーマに、内水面漁業の制度や栃木県の内水面漁業の現状、大学生や若者と漁協の協働についての意向調査結果を説明
- ・東京海洋大学の3人から研究内容を紹介
- ・内水面漁業についてのイメージ等の意見を聞いた。



SLIDE-17

SLIDE-17：この協議会は「やったらいのに協議会」というので、実際に内水面漁業に関心のある学生さんが参加し、若者と漁協活動や漁場運営について意見や提言をもらうということで開催しました。今まで内水面漁業を勉強していた学生さんや、方やまったく今まで内水面漁業を知らなかった学生さんが参加され、協議を行いました。副題は「川を元気にする作戦会議」です。私が代表として開催しました。

まず第一回は大田原市の「なかがわ水遊園」で開催しました。「漁協を知ろう」

というテーマで、内水面漁業の制度や栃木県の内水面漁業の現状、大学生や若者と漁協の協働についてのアンケート調査結果を説明し、参加者の東京海洋大学の3名からも、自身の研究内容を紹介していただきました。あと、参加した若者達から内水面漁業についてのイメージなどを聞きました。この会の模様は下野新聞の取材を受けて、新聞記事にさせていただきました。

SLIDE-18：第2回は宇都宮市で開催しました。「漁協と話そう」と題して、「栃木の川を元気にするためには？」をテーマに、学生と協議会の漁協役職員で意見を出し合うワークショップを行いました。実際に年配な漁協の方と20代の学生さんが集まり、いったいどうなるか？と思いましたが、ワークショップはかなり盛り上がり、いい方向に進んで行ったので、こういったことは刺激として良かったかなと思っています。

【事業の実施内容】

【第2回 12月22日 宇都宮市 パルティ男女共同参画センター】

- ・東京海洋大学 4年次生3人、宇都宮大学農学部3年生、帝京大学3年生、国際医療福祉大学3年生各1人
- ・「漁協と話そう」、「とちぎの川を元気にするためには」をテーマに学生と漁協役職員でのワークショップを開催
- ・ワークショップに先立ち、渡良瀬漁協、おじか・きぬ漁協及び西大芦漁協から漁協の現状や困っていること、若者に期待することを発表
- ・高齢化による漁協活動の継続が困難、近年のIT化への対応が困難、対応できる若い力に期待
- ・ワークショップでは参加者を3グループに分け、現状や課題、対応策等を話し合い



SLIDE-18

【事業の実施内容】

【第3回 1月19日 宇都宮市 河内地区市民センターほか】

- ・東京海洋大学 4年次生3人、宇都宮大学農学部3年生、帝京大学2年生2人、国際医療福祉大学3年生各1人
- ・2回の協議内容を踏まえ、栃木の川を元気にするための方策や、学生が協力できそうな内容を提言
漁場管理や増殖活動への協力、イベント等の開催、食体験、身体障害のある方やその家族を対象としたイベント開催にあたっての協力、インバウンド対応への協力
- ・鬼怒川フィッシングエリアでアユの塩焼きを体験
自分で串を打ち、焼いたアユを食べながら意見交換



SLIDE-19

SLIDE-19：第3回は、過去の1回目2回目を踏まえて、来年以降に何をしよう？ということで、色々やってみたいことをみなさんから提起いただきました。検討会の最後には、鬼怒川フィッシングエリアでアユの塩焼きを体験して、自分たちで串を打ち、焼いたりなどの体験を行いました。この写真、満足そうな顔をしていますね～。学生さんの中には1人3匹食べた人もいます。その最中には、インバウンド対応の協力や、身体に障害のある方やその家族を対象としたイベントへ

の開催の対応ができるよ！という意見も出ました。

これは今回の「やったらいいのに協議会」の中で肝となることなのかなと思います。来年以降、彼らのアイデアをもとに、一緒に彼らと協同して何かいろいろ取り組みたいと思っています。

SLIDE-20：その他、一番良かった意見として、東京海洋大学のこちら「アユ+電子地域通貨」です。アユ+電子地域通貨を使い、地域内経済循環の活性化を目指すということで、すごいです！学生さんはこういうことを考えられるのですね、先生の顔を見てみたいなあ（笑）、本当に素晴らしい意見です。

【東京海洋大学参加者からの提言】

アユと若者を結びつける「アユ+Youth」プロジェクト

東京海洋大学 沿岸域資源論研究室 (伊藤美保・川村孝ノ介・三輪誠仁)

放流体験 河川清掃
アユ釣り
BBQ

アユ+電子地域通貨 = 地域内経済循環の活性化

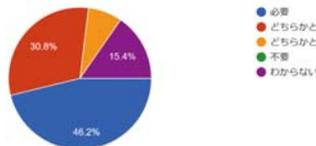
組合員・遊漁者、アユ、電子地域通貨で買取(電子決済)で買取、アユ販売、地元消費拡大、地域経済活性化

SLIDE-20

〈「若者に期待すること」のアンケート〉

- ・ やったらいいのに協議会に先立ち会員アンケート
- ・ 「若者の力を必要とするか」、「どのようなことに協力してもらいたいか」、「懸念されることは何か」、「考えられるメリット」

1. 今後の漁協の活動に外部からの学生や若者の力は必要だと思いますか？
13件の回答



SLIDE-21

SLIDE-21：漁協さんからも「若者に期待すること」についてアンケートをとりました。こちらは「若者の力を必要とするか？」の質問に関しは、約8割が「必要」「どちらかという必要」で、ほとんどの皆さんがやっぱり必要だと思っているということです。

SLIDE-22：他にはこちら、デメリットもありますよってことですが、漁協は学生や若者の協力が欲しいが、対応の仕方や事故について不安がある、また、受け入れ体制の整備が大変かな、という意見もありました。あとは、放流など日々の活動における協力も欲しいが、ウェブでの情報発信に期待大、人手不足解消と合わせ、人材不足解消にも期待、学生や若者と協働することで認知度の向上や新規釣り人の獲得になると期待している、という意見もありました。

2. 学生や若者が漁協に協力する場合、なにができると思いますか？
13件の回答

3. 学生や若者が漁協活動に参加した場合に懸念されることはなんだと思いますか？
13件の回答

4. 学生や若者が漁協に協力した場合のメリットはなんだと思いますか？
13件の回答

- ・ 漁協は学生や若者の協力が欲しいが、対応の仕方や事故に対して不安
- ・ 放流などの日々の活動における協力も欲しいが、WEBでの情報発信に期待大
- ・ 人手不足解消と合わせ人材不足解消にも期待
- ・ 学生や若者と協働することで、認知度向上や新規釣り人の獲得につながると期待

SLIDE-22

【事業の実施内容】

(3) とちぎの内水面水産業活性化セミナー

- 12月9日、栃木県水産試験場主催の「2024 とちぎの水産業活性化セミナー 釣りによる地域活性化を考える」において、田邊コーディネーターが本事業を紹介
- 会員漁協27名を含む76名が参加



主催 栃木県水産試験場
2024 とちぎの水産業活性化セミナー
釣りによる地域活性化を考える

開催趣旨
地域が抱える課題の解決に向けて、漁協が釣り人、観光客誘致から、釣り場活性化に釣り人への啓蒙的な活動、釣り場内の環境整備等を行い、釣りによる地域活性化を実現していく。

12月9日(月)
15:50-16:00
栃木県庁研修館講堂

お申し込み
栃木県水産試験場
TEL:0287-96-2885
FAX:0287-96-2885
yokozaki01@pref.tochigi.jp

講演
上野村漁協における増殖と釣り場管理
松元 平吉 氏
上野村漁協 会長

事例紹介
県内漁場の活性化に向けて
田邊 宜久 氏
みんまでやるぞ内水面漁業活性化事業 コーディネーター

釣り人が実践する地域活性化の取組
ウレコト・SAGANA 釣り場マップ(サダー)

稲塚 由華 氏 星野 晃宏 氏
代表者 代表者

SLIDE-23

SLIDE-23：こちらは、栃木県の内水面水産業活性化セミナーで、私が事例紹介をさせていただきました。

SLIDE-24：成果目標の達成状況です。

ゾーニングや釣り人と連携した漁場管理については、コミュニケーションツールの導入・運用は、目標の19漁協のうち、19漁協が参加しております。

ゾーニングの展開は、導入検討が2漁協、手続きが1漁協の目標に対し令和7年度以降の新規導入が7漁協もあります。ICTの遊漁券システムを活用した漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化の、遊漁者向けデジタルマップの作成・発信、レンタル釣具の配置では、目標が県漁連ホームページPV数の5%増でしたが、1月のPV数とサイトセッション数やUU数は前年比でちょっと減少なので、こちらはちょっと課題かなと思っております。

企業研修プログラムの開発は、目標実施漁協1漁協に対して実績は2漁協、参加企業は1～3に対して、6社ありました。

【成果目標の達成状況】

(2) ゾーニングや釣り人と連携した漁場管理

- ① コミュニケーションツールの導入・運用
目標：参加漁協数 19 → 実績：参加漁協数 19
- ② 新たなゾーニングの展開(アユルアー)
目標：導入検討 2漁協、手続き開始 1漁協 → 実績：令和7年度新規導入 7漁協

(3) ICT遊漁券システムを活用した漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化

- ① 遊漁者向けデジタルマップの制作、発信
- ② レンタル釣具の配置
目標：県漁連HP PV数5%増
実績：1月のPV数、サイトセッション数、UU数は前年対比減少
PV数増大には新たなコンテンツ導入の積極的周知(別媒体)が重要
事業効果測定のための指標には不適当

(4) 企業研修プログラムの開発
目標：実施漁協 1漁協、参加企業 1～3社、参加者数5～15名
実績：実施漁協 2漁協、参加企業 6社、参加者数11名

SLIDE-24

【今後の展望】

漁協の抱える課題の解決 ← 学生など若い“ちから”の活用
「アユースプロジェクトの推進と展開」

1 漁協経営

(1) 釣り人数の復元
潜在的な釣り志向者の発掘、魅力ある釣り場づくり等により釣り人数を復元
→ アユルアーによるアユ釣りへの誘客、レンタル釣具・ガイド(インストラクター)による釣り人の誘致、若年層の新たな釣り人の発掘等 → 釣り人を減らさない努力

(2) 新たな利用者の確保
地域や観光業との連携による誘客
SDG'sにも着目した新たな漁場利用者の誘致による漁協収益の増大
→ 「釣り」以外の自然体験、放流(含む発眼卵)体験 → 新たな釣り人の発掘
→ 身体障害者やその家族、年少者や釣りをしない人の理解醸成

+α 漁協運営に携わる人の確保と事務負担軽減
→ セントラル方式事務局

SLIDE-25

SLIDE-25：今後、漁協の抱える課題解決については、学生などの若い力を活用して、アユースプロジェクトの推進と展開をしていきたいと考えています。漁協経営に関しては、釣り人数の復元です。潜在的には釣り志向者の発掘、魅力ある釣り場づくりなどによる釣り人数を復元と、アユルアーによるアユ釣りの誘客、レンタル釣具・ガイドによる釣り人の誘致、若年層の新たな釣り人の発掘、釣り人を減らさない努力です。

あと、新たな利用者の確保として地域や観光業との連携による誘客、SDG'sにも着目した新たな漁場利用者の誘致による漁協収益の増大、釣り以外の自然体験、放流体験、新たな釣り人の発掘となっています。身体障害者や家族、年少者や釣りをしない人の理解醸成を目指していきます。最後、こちらの漁協経営に携わる人の確保と事務負担の軽減については、セントラル方式の事務局も検討したいと思っています。

SLIDE-26:こちら、釣り人との連携やゾーニング管理の拡大。遊漁者増大につながるゾーニングの導入。お客様目線、釣り人参加による漁場管理ですね。

ICTの遊漁券システムにより収集したデータを活用した漁場管理の高度化。電子遊漁券のデータを活用した効率的な漁場管理と内水面漁業活性化の推進。デジタルツールの積極的活用による会員間の情報共有と情報発信の強化、利便性向上による遊漁者の増大ですね。

2 漁場管理・漁場利用

(1) 釣り人との連携やゾーニング管理の拡大

- 遊漁者増大につながるゾーニングの導入
- お客様目線、釣り人参加による漁場管理
 - 漁協同士の情報共有と新たな展開
 - 釣り人、釣り業界との協働
 - 地域との協働

(2) ICT遊漁券システムにより収集したデータ等を活用した漁場管理の高度化

- 電子遊漁券のデータを活用した効率的な漁場管理と内水面漁業活性化の推進
- デジタルツールの積極的活用による会員間の情報共有と情報発信の強化、利便性向上による遊漁者の増大
 - 県漁連HP、ひと×コト×sakana栃木PRアンバサダーによる情報発信、
 - 県漁連HPリンク先の拡大
 - デジタルツールの活用促進

SLIDE-26

ご清聴ありがとうございました。

栃木県漁連及び会員漁協は釣り人、地域と協働して「とちぎの川や魚」を守り、未来に引き継いでまいります。

ご指導、ご支援、よろしくお願い申し上げます。

SLIDE-27

SLIDE-27: 以上をもちまして発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

~~~~~質疑応答~~~~~

□ 桑田委員

非常に盛りだくさんの内容で聞きたいことは実は山ほどあるのですが、内容を絞って2点聞かせてください。

一つはアユルアーです。実は岐阜県もアユルアー市場が非常に拡大しているなというふうに思っていて、その市場の拡大をうまく県に取り組みないかなと思って今頑張ろうとしているところ。今、話を伺って栃木県さんもやっぱり同じような取り組みをされているのだなと思って拝聴した次第です。ただ岐阜県も令和6年の切り替えを機に14漁協がアユルアー漁場に解禁したわけですが、実は遊漁者を集められているところと集められていないところがあるのです。やはりそこはその成否を分けているものは何か？というようなことを我々も考えながら次の手を打とうとしているところなのですが、今、8漁協がいろいろとやられたわけですが、その漁協間で成功事例・失敗事例、もしくは成功しているところはこういうところが良かったんじゃないかな？というところを、もし何か掴んでおられている情報がありましたら教えていただきたいということ。

沢山聞きたいことがあるのですが、もう一つは、さっきから企業連携の話があるので企業連携のどこ

ろだけ、結構前の発表の方々が企業連携で苦労しておられたのに、今回の栃木県では企業連携目標が1漁協で目標よりはるかに高い実績だったのは、これはどんな企業にどうやってアプローチしたらこの結果になったのか？、その2点を教えていただけますか？

■田邊コーディネーター

アユルアーですが、実際拡大して始まるのは今シーズンからなので、まだこの7漁協さん全部に広がっていないところがありまして、現状、まださっき言ったように2漁協ということで、その内容については我々も今後どういうところが集まるのかというのは、今おっしゃったように今後の課題としてアユルアー解禁の漁協さんだけが集まって連絡をしたいとかそういう話がちょっとでております。

企業連携の方なのですが、県漁連の取引先金融機関に声をかけて参加していただいた結果です。

■株式会社 Creato 西山氏

栃木県の取組と一緒に進めさせていただいた株式会社クリート「つりチケ」を運営している西山と申します。栃木県でたくさん人が集まったことにはいくつかの要因があると思います。

1つは、漁連さんの体制が全国的に見てもしっかりされているなというのが私の感想です。漁連さんがもともとお付き合いがあった金融機関に声をかけたら、そこの営業担当の方が興味を持って来てくれた、ということで金融機関の方が2名いらっしゃったところがまず一つ目です。

2つ目は立地的に首都圏、東京から近かったということもあるかと思えます。例えば、今回栃木県で参加してくれた方の中には、まさに釣り業界の「つり人社」さんに参加していただきました。これは首都圏にそういった企業さんがあると、今回我々もいくつかお手伝いさせていただいた中では参加しやすかったというようなどころもあると思います。

あとは3つ目の要因として、アウトドアショップ「WILD-1」を運営している、栃木県の企業「株式会社カンセキ」さんが参加していただいている、やはり栃木県にはそういった会社があって関心の高い方がおられた、といったいろいろな複合的要素があるかなと思います。

一方では、他でもそうなのですが、地元企業さんに声をかけていくと、さっき宮城県の発表の際に話しがあったYKK APさんのような形の協力の仕方というのは、非常にハードルが高いと思っています。ここに関しては、漁協さんと一緒に取り組むということも大切だとは思いますが、例えば和歌山県では「企業の森」事業として、企業が行う植林活動に対して県が認証制度[※]も設けています。それを行うと、会社としてそういった取り組みをしているんだね、というPR・アピールポイントになるような仕組みがあるのです。その内水面バージョンのようなものができると、企業としても参加するハードルが下がるんじゃないかなと考えています。以上です。

※和歌山県森林による二酸化炭素の吸収等環境保全活動認証事業

和歌山県内水面漁業協同組合連合会

報告者：コーディネーター 佐古 充

令和6年度みんなでやるぞ 内水面漁業活性化事業 成果報告会

和歌山県内水面漁業協同組合連合会

コーディネーター 佐古 充

SLIDE-1

SLIDE-1：和歌山県内水面漁業協同組合連合会の佐古です。よろしくお願いたします。

SLIDE-2：まずは和歌山県の紹介です。

和歌山県は紀伊半島のちょうど西側にあり、北は大阪府に接して、紀伊半島の中央部で奈良県、東側で三重県と接しております。温暖な気候ですが、県南部は特に雨がが多く、ここ数年、幸いにも被害は少ないものの、台風が度々接近して、時に大きな被害を受けている県でございます。

和歌山県内水面漁連は、会員数 13 河川漁協がありまして、組合員数が令和 5 年 12 月 31 日現在ですが、5,050 人、最盛期の昭和 61 年には 1 万 6,000 人ほどおりました。

和歌山県内水面漁業協同組合連合会

会員 13 河川漁協

組合員数 5,050人 (令和5年12月31日現在) …16,210人(昭和61年)

漁業権魚種：

アユ(13漁協)、アマゴ(9漁協)、うなぎ(6漁協)、こい(1漁協)、もくずがに(7漁協)



SLIDE-2

◎背景

- (1)河川環境の悪化
- (2)カワウや外来魚による食害
- (3)急速な過疎化→組合員の減少
- (4)遊漁者の減少
- (5)漁協役員の高齢化、職員の不足
→漁協事業が実施できない

⇒漁協経営の悪化が深刻

SLIDE-3

漁業権魚種としては、アユが全 13 漁協、アマゴ 9 漁協、ウナギ 6 漁協、コイ 1 漁協、モクズガニが 7 漁協であり、和歌山県はアユが最も主要な魚種となっております。

SLIDE-3：今回、みんなでやるぞ事業を実施した背景としましては、これは全国的にも同じではあると思いますが、各種河川工事、林道工事、大雨災害による復旧工事による河川環境の悪化が見られま

す。また、カワウや外来魚による食害も多いです。急速な過疎化により組合員が減少しておりますし、4番目に遊漁者の減少もあります。また、漁協役員の高齢化、職員の不足等により、漁協の事業が実施できないというような多くの問題が山積みでありまして、漁協経営の悪化が深刻となっております。

ということで、この事業を実施するにあたり、内水面漁協の活動を活性化させ、漁協の存続を目的に、この4番と5番の問題を重点において実施しております。

SLIDE-4：次、「ゾーニングや釣り人と連携した漁場管理」ということで、様々な釣り方の中でも、生きたアユを使って釣りをするというので、敷居が高いと言われている「アユの友釣り」について、「わかやま友釣り塾」と、友釣り体験教室の開催をし、少しでも遊漁者の減少に歯止めをかけたいとして開催しております。また、もう一つは、紀の川大堰の人工河川式魚道における産卵場整備作業の実施を行っております。

◎ゾーニングや釣り人と連携した漁場管理

(4)遊漁者の減少

⇒「わかやま友釣り塾」
「友釣り体験教室」の開催

(5)漁協役員の高齢化、職員の不足

→漁協事業が実施できない
⇒紀の川大堰の人工河川式魚道における産卵場整備作業の実施

SLIDE-4

「わかやま友釣り塾」

平成28年より実施（令和2年と3年は新型コロナウイルス感染拡大のため中止）
（第8期生募集）

〈対象者〉下記の条件を満たす方

○18歳以上で、今シーズンから本格的に友釣りを始める意思のある方

○全講習（4日間）を受講できる方

○アユタビ&タイツ(又はウェーダー)、帽子、服装(アユベスト等)を準備し、車で参加できる方。

※アユ竿、引舟、玉綱、ベルトはシーズン中レンタル可能

※レベルアップ講習ではありません。友釣りができる方は申し込みません。

〈参加費〉無料 ※無料に含まれるもの 講習代、アユ竿等レンタル、仕掛け・針等消耗品、講習日の遊漁券・オトリ代

〈募集人数〉20人

※希望者多数の場合は、書類選考の上決定し、メールで連絡します。

ドメイン「naisuimen.com」からのメールを受信できるようにしてください。

〈申込期間〉令和7年1月17日～3月31日まで

〈申込方法〉本募集説明下部の申込みフォームリンクより、必要事項を記入の上、送信してください。

〈講師〉喜多福 武、福田真也、宮井孝和、森岡達也（敬称略、五十音順）

〈塾長〉つり人社 会長 鈴木康友

〈講習内容〉5月の延3日間で、仕掛け作りや友釣りの基本的な知識・技術を指導し、10月に卒業検定を行います。



SLIDE-5

SLIDE-5：まず、「わかやま友釣り塾」ですが、これについて、本事業と対象外のところもあるのですが、平成28年より実施しております。この友釣り塾というのは、体験型というよりも実践型で、受講するハードルを少し上げております。当初はハードルを上げていたということで、受講者が集まるのか心配していたのですが、今は受講者が殺到する・絶えないような状況になっております。これは8期生の募集ということで、来年度の募集要項、令和7年度の募集要項を載せているのですが、これちょうど右のポ

スターは卒業生が作成してくださったポスターであります。

ハードルを上げているということですが、対象者は18歳以上で、このシーズンから本格的に友釣りを始める意志のある方、全募集4日間を受講できる方、アユタビ&タイツ、ウェーダー等、帽子、服装は準備して、車で参加できる方ということで、あゆの竿とか浮舟といった道具はシーズン中のレンタルが可能です。また、レベル講習ではないので、すでに友釣りができる方は申し込みないということで募集しております。

参加費についてはほぼ無料で、講習代や道具のレンタル、仕掛け・針と講習日の遊漁券・オトリ代も無料です。募集人員は一応20名ということで、希望者多数の場合は書類選考の上で決定しております。申込期間は来年度、令和7年度の募集にこれを書いているのですが、1月17日から募集を始めておりまして、3月31日まで募集して、今のところ20人のところ30人の応募があります。

講師先生は各メーカーのテスターさん4名、塾長は株式会社つり人社の鈴木会長さんに塾長を務めていただいております。

講習内容は、5月の3日間に仕掛けづくりから友釣りの基本的な知識・技術を指導するところから始めて、10月には卒業検定を行っております。また、協賛としまして各釣り具メーカーから、がまかつさんやDAIWAさん、SHIMANOさん、オーナーばり、カツイチ、サンラインさんから、講師先生を通じて仕掛けを提供していただいております。

SLIDE-6：次、6年度の7期生では、22名が受講しました。年代別にみると20代が2名、30代6名、40代5名、50代7名、60代2名が参加され、うち5人が女性であります。

1回目、2回目、3回目。1回目が机上講習、仕掛け作り、2回目、3回目が河川講習なのですが、これは5月に実施していることなので、このみんなで作るぞ事業の期間では対象外となってしまいますが、きかないには4回目からの腕試し講習とを実施しております。また5回目のこれが卒業検定ということで、7期生

22名が全員無事卒業いたしました。、第1期生から7期生まででは合計139名が無事卒業しております。

令和6年度(第7期生) 22名が受講

※20代…2名、30代…6名、40代…5名、50代…7名、60代…2名 女性5名

- 1回目：5月12日 開塾式、机上講習
(仕掛け作り) …対象外
- 2回目：5月19日 河川講習 (実釣) …対象外
- 3回目：5月26日 河川講習 (実釣) …対象外
6月～8月は自主練習
- 4回目：9月8日 腕試し講習 (大会形式)
- 5回目：10月6日 卒業検定 (実釣)

第7期生22名全員無事卒業
(1期生から7期生 合計139名卒業)



SLIDE-6

第1回目：机上講習（仕掛け作り）



SLIDE-7

SLIDE-7,8,9,10：これが1回目の机上講習、仕掛け作りです。この仕掛けを作っているのと、右側の写真が、自分で作った仕掛けを竿先につけて、竿を実際に担いでみて、おとりをつける練習をここでしているところでもあります。それも1回目で行っております。

2回目と3回目の講習、これは実際に河川で講習をしております。

4回目が腕試し講習ということで、今回初めて実施したのですが、卒業生を交えて38名が参加しまして、卒業生と7期生がペアを組んで、卒業生がアドバイスをしながら実際に大会形式の釣りを楽しんでおりました。

5回目の卒業検定は、実際に釣りをしまして、卒業の基準というのは特にないのですけれど、一通りの手順、オトリア

第2回目：河川講習（貴志川） 第3回目：河川講習（日高川）



SLIDE-8

ユの扱いから、鼻かんを通して泳ぎださせる、そういった一連の作業、動作、手順が一人のできることであれば合格という形です。やはり2回目の河川講習、3回目の講習、卒業検定と、必ず一匹は皆さん釣っ

4回目：腕試し講習（大会形式）



SLIDE-9

ておりますので、講師先生の助けや卒業生の助けで皆さん無事卒業をしております。最後は鈴木塾長さんから卒業証書を授与されます。

5回目：卒業検定（有田川）



SLIDE-10

友釣り体験教室



日置川
 実施場所：田辺市中辺路町近露
 実施日：6回実施計画
 7月27日、8月4日、
 8月18日、8月25日、
 （計4日間 37人参加）

SLIDE-11

SLIDE-11：次の「友釣り体験教室」というのは、これは「わかやま友釣り塾」とは違いまして、体験型で1日がかりの教室をやっております。この教室も竿などの道具は一切レンタルしております。体験型ということで親子で参加している方がいたり、子どもさん1人で参加している方もおりました。夏休み期間中に6回の開催を計画していたのですが、2回ほど雨で増水のため中止して、4回計4日間で37名の参加がありました。

SLIDE-12：続きまして、「紀の川大堰の人工河川式における産卵場整備作業」です。これは企業さんが参加する「企業研修プログラム」です。県北部を流れる紀の川の河口大堰として、紀の川大堰の本体というのが平成15年に完成して、平成19年から、地元の紀の川漁協では大堰に附設した人工河川式魚道に親アユを放流し、増殖活動を行っております。今回つりチケさんからのご提案もあり、自然環境の保全や自然を通じた社会活動を行いたいという理念を持った企業に、内水面漁協が行っている増殖活動を研修プログラムとして体験

紀の川大堰の人工河川式魚道における産卵場整備作業

自然環境の保全や自然を通じた社会活動を行いたいという理念を持った企業に、内水面漁協が行っている増殖活動を「研修プログラム」として体験させることにより、社会的な役割・重要性の認知度の向上と漁協収益の向上につなげる取り組みを行う。
 ※研修プログラム参加団体の募集やPRコードについてはつりチケに委託

実施場所：和歌山市有本（左岸）



SLIDE-12

清掃作業

実施日：令和6年10月26日

参加者：企業1社(2名)、釣り人、わかやま友釣り塾、流域の漁協関係者
紀ノ川漁協 など合計28名



SLIDE-13

させることにより、社会的な役割、需要性の認知度の向上と漁協収益の向上につながる取組を行うということで実施しております。研修プログラムの参加団体の募集とかPRコーディネートについては、つりチケさんに委託しております。

場所は紀の川の河口、和歌山市にあります。紀の川大堰があって、ここにあるのが人工河川です。右岸側にも小さい規模の人工河川があるのですが、主に左岸側の人工河川を使っております。



SLIDE-14

SLIDE-13,14：清掃作業は10月26日に行いました。参加して下さった企業一社と、釣り人であったり、ここにも「わかやま友釣り塾」の卒業生や第7期生の現役生徒さん、あと、流域の漁協関係者、支流の玉川漁協さんや貴志川漁協さん、さらに隣の奈良県の上流の吉野漁協さんからも参加していただきまして、合計28

名で河川清掃を行いました。

人工河川の長さというのが、およそ800メートルくらいあって幅6メートルのところを作業するんですが、これがなかなかの重労働でありまして・・・

今ちょうどこの写真はこちらが入り口ですが、上流側からずっと藻とか草が茂っており、これを清掃していくわけです。夏場はそのままだけなので、丸一年放っておくと、こういった具合にすごい量の藻が生えてしまいます。ここがちょうど最終地点くらい位置ですが、大変過ぎて後ろの方で腰を伸ばしている方もおりますね、こういう藻がたくさん生えているところでございます。

SLIDE-15：次がその清掃したところに親アユ、和歌山県の海産の親アユを1200キロ放流しまして、一部はこのように黒幕を張って遮光して産卵させております。

SLIDE-16：次にこれが産卵状況の調査として観察会を行っているのですが、11月20日に、人工河川に実際に降りて採集しました。中央に直径約1ミリくらいの卵が生まれているのがわかると思います。

親アユ放流 (親アユ1,100kg)

実施日：令和6年11月1日

参加者：11名



SLIDE-15

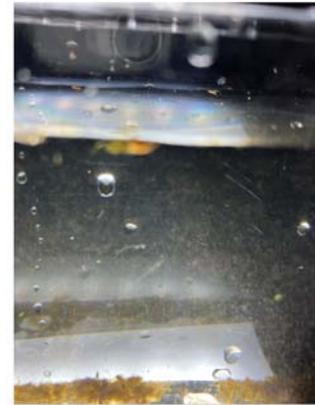
産卵状況調査
実施日：令和6年11月20日
参加者：13名（企業1名）



SLIDE-16

SLIDE-17: 次に流下仔魚の観察会ですが、アユの孵化というのは日が沈んでから孵化するものですから、実際この作業を行うのは夕暮れ時からの作業になっております。小さいプランクトンのネットで採集しまして、ちょうどここ、見にくいのですが、ここにへの字型にみえるアユの稚魚が一匹映っております。ちょっと写りが悪くて申し訳ないです。実際はもっとたくさん取れているのですが・・・。

流下仔魚調査
実施日：令和6年12月23日
参加者：8名



SLIDE-17

ICT遊漁システムを活用した漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化

- ・和歌山県内で発行されている紙券の購入者情報の実態を把握し、遊漁者の攻勢を把握することで今後の情報発信の基盤を作る ※(株)FishPassに委託
- ・遊漁者向けの情報発信強化
研修会を開催し、各漁協がSNS等を活用できるよう研修を行う
- ・遊漁者向けデジタル地図の検討と制作
※(株)FishPassに委託

SLIDE-18

SLIDE-18: 次に「ICT遊漁システムを活用した漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化」です。和歌山県はまだまだ電子遊漁券の販売があまり導入されておらず、主に紙券が中心になっております。紙券の購入者情報の実態を把握して分析し、遊漁者の構成を把握することで今後の情報発信の基盤をつくるということで、FISHPASSさんに委託しております。また、遊漁者向けの情報発信の強化では、

研修会を開催し、各漁協が SNS 等で活用できるよう研修を行って、情報発信の重要性を再認識していただくということで開きました。

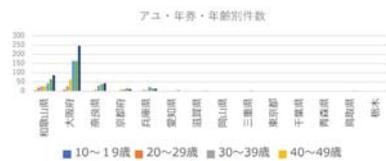
また、遊漁者向けのデジタル地図の検討の制作についても FISHPASS さんに委託しております。

SLIDE-19: 次が、紙の遊漁券について分析した FISHPASS さんからいただいた資料をそのまま使わせていただきました。この有田川は県北部にあって、非常に大阪に近いということもあって、また、こ

有田川漁業協同組合 R4シーズン | 年勢

郡市町村	件数	割合
和歌山県	270	23%
大阪府	672	56%
奈良県	124	10%
京都府	48	4%
兵庫県	62	5%
愛知県	2	0%
徳島県	5	0%
岡山県	1	0%
広島県	4	0%
東京都	1	0%
千葉県	1	0%
東京都	1	0%
東京都	2	0%
栃木県	1	0%
計	1,200	

年代	件数	割合
10~19歳	5	0%
20~29歳	26	2%
30~39歳	66	5%
40~49歳	120	10%
50~59歳	272	23%
60~69歳	324	27%
70歳~	396	33%
計	1,200	



SLIDE-19

ていきたいと思えます。

今後は、このホームページ上から電子遊漁券の販売や、FISHPASSさん作成の電子地図もアップしたいと思っております。また、最初に説明しました、「わかやま友釣り塾」のプロモーション動画等もアップする予定にしております。

まとめ

・「わかやま友釣り塾」

体験型の釣り教室よりも実践型の教室であるにもかかわらず、毎年入塾者が絶えない。講師、各釣具メーカー、釣具店、(株)つり人社の方々はもちろん、卒業生の協力が大きい。「わかやま友釣り塾」の輪(和)が年々広がっているのが実感できている。「友釣り体験教室」との連携強化を図る。

・紀の川大堰の人工河川式魚道における産卵場整備作業

自然の河川では体験できない産卵場整備から流下仔魚調査までの漁協が行う増殖活動が、身近に体験できるので「研修プログラム」として参加できる企業が少しでも増えるようにしたい。漁協の取り組みの社会的役割・重要性をもっと認識してもらいたい。

・ICT遊漁システムを活用した漁場管理の高度化、内水面漁業の活性化

遊漁券の分析の結果、和歌山県内及び近隣(大阪府)の遊漁者が多数を占める。県内及び大阪府の遊漁者へ重点的に誘致活動を進めたい。また、年齢層は50歳以上の方が6割以上を占める。20代30代の遊漁者を増やしたいが…。情報発信の重要性を再認識した。HPを持たない漁協の情報発信を積極的に行いたい。

SLIDE-23

SLIDE-23：最後です。

まとめとしまして「わかやま友釣り塾」というのは、体験型の釣り教室というよりも実践型の釣り教室であるにもかかわらず、毎年入塾者が絶えません。講師先生や各釣具メーカーや釣具店、株式会社釣り人社の方々からの後協力はもちろんのこと、やはりこの友釣り塾の特徴というのは、卒業生の協力が非常に大き

く、彼らにおんぶにだっこという感じになっております。卒業生同士の交流だけでなく、講師先生と卒業生、現役の塾生も繋がって、「わかやま友釣り塾」の輪が年々広がっているのが実感できております。引き続き友釣り体験教室との連携を図りながら、遊漁者、誘致に努めたいと思っております。

次に紀の川大堰の人工河川式における産卵場整備では、自然環境ではなかなか体験することができない、産卵場整備から流下仔魚調査までの漁協が行う増殖活動が、紀の川の人工河川では身近に体験できる。危険性も少なく、簡単に体験できるので企業の研修プログラムに適しているのではないかと考えておりますので、もう少し企業が増えればと考えております。

また、漁協の取り組みの社会的役割、重要性をもっと認識してもらい、そのことが漁協の活動の手助けになるのではないかと考えております。

次にICT遊漁システムを活用した漁業管理の高度化、内水面漁業の活性化については、遊漁券の分析の結果、やはり和歌山県内及び近隣、大阪府の遊漁者が多数を占めております。県内及び大阪府の遊漁者の誘致について重点的に進めてまいりたいと思っておりますし、また年齢層もやはり50歳以上の方が6割8割になっておりますので、若い方の遊漁者を増やしたいというのが現実だと思っておりますが、もう一つ、私の考えですが、若い方も大事ではありますが、やはり50歳60代の方、若い人に比べれば時間とか金銭的にも余裕がある方が多いのではないかとと思っておりますので50代60代の方にも誘致を図っていく方がいいのかなと思ったりもしております。

また、情報発信の重要性というのも再認識しておりますし、ホームページを持たない漁協の情報発信についても、今回ホームページ等で積極的に行ってまいりたいと思っております。

以上です。ありがとうございました。

～～～質疑応答～～～

□ 桑田委員

ありがとうございます。非常に内容が盛りだくさんで参考になりました。特にとても面白いなと思ったのがホームページの情報発信なのですが、やはり遊漁者を増やそうと思ったら、しっかり情報発信することが大事で、遊漁者の立場から見ると、やっぱり釣果情報だとか、川が今どんな状況だとか、駐車場一体どこに、初めての遊漁者だと駐車場一体どこに止めればいいのか、こういうのがやはり大事で、釣具店さんなんか聞いても、そういう情報をくれないとなかなか案内できないよと、やはりホームページを見

ながら来るか、釣り具店さんをご案内するかというところなのですね、初めてのお客さんというのは。そういう意味で、このホームページ、遊漁者さんが勝手に投稿して、重要な情報がどんどん集まってきて、しかも400万PVでしたっけ?!、もあるというのはとっても面白い仕組みだなと思って拝聴いたしました。

そこで2つ教えていただきたいのですが、まず、この大当たりおめでとうございます!!の、この面白い仕組みなのですが、これを管理するのにざっくりどれくらいかかるのか?というのが1点。漁協職員の方の、漁連さんが自らやっているのならどれくらいの時間かかっているかでも、どれくらいこれを維持するのにかかるのかということ。

もう一つは当然デジタルマップを作ると仰っておりましたが、デジタルマップってどんな内容のもの、例えば駐車場を含めたようなものを整備しようとしているのか、その辺ちょっと教えていただけるとありがたいです。

■ 佐古コーディネーター

年間に数百万くらいのお金を最初に作るのにかなりお金がかかりましたので、4百万だったかな?すいません、ど忘れして申し訳ないです。

もう一つ、地図については、ホームページに駐車場であったり、トイレであったり、そういうもの掲載したアユ釣りマップやアマゴのマップを掲載しているのですが、今回フィッシュパスさんをお願いして電子地図上にもそういう情報もアップする予定です。

友釣り塾の塾生さんにアンケートを取っているのですが、やっぱりトイレであったり駐車場であったり、和歌山県は山深い川が多いもので入川路、どこから入ったらいいのかわからないということがわからない、やっぱりそういう情報も聞いておりますので、その辺をもっと簡潔に載せられるようには考えております。

□ 桑田委員

なるほど、とても面白い仕組みだということと、そういったところが成功の肝なんだろうかと思うので、ぜひそういったところも事業の中で他が真似できるように教えていただけるとありがたいなと思いました。ありがとうございます。

□ 丸茂課長補佐

まとめの最後のコツのところにも書いてありますように、二、三十代の遊漁者を増やしたいが、というところに、もちろん若い人の遊漁者が増えればとても良いことだと思うが、50歳代以上の時間やお金がある人へアプローチするのも良いかと仰っておりましたが、まさにそういう視点も大事だなと思いました。というのも、私、学生時代は釣りもやっていたのですが、正直今はほぼやっていません。ギリギリ30代ですが、現在、水産庁の職員として平日はめちゃくちゃ忙しい中、土日に時間をかけてまで釣りに行く余力がないというか、気力が保たず……。ただし、興味はあるので、今後50歳を超えてから、引退してからやりたいなあと考えております。

だからそういった老後の趣味にしようと考えている方もおり、潜在的な需要はあるのではと思ひまして、若い人も大事だけでも、老後の趣味でどうですか?といった視点が本当に大事だと思いました。もし来年そういう50代より上の世代にアプローチされるのであれば、その結果やどんな反響があるのか、とても楽しみにしておりますので、よろしく願いいたします。

■ 佐古コーディネーター

今、実際に「わかやま友釣り塾」で、令和7年度8期生の募集をしているのですが、その中に募集応

募の動機というのも書いていただいているのですが、やはり50代、60代の方って、やっぱり老後の楽しみでアユ釣りを覚えたいというふうに書いて、すごく長文で書いてくださっている方もいらっしゃいますし、逆に若い方ももちろんあるし、結構各年代まんべんなく応募があつてですね、最初は若い人を重点的に友釣り塾を選ぼうかなと思っていたんですが、やっぱりこれやっぱり老後の楽しみ、私も50代なのですが、やっぱりそういうので友釣りを覚えていただくのも捨てがたいといえますか、あまり若い方を中心にアプローチするよりも、そちらのほうもやっぱり重要かなと最近思い出しております。

三重県内水面漁業協同組合連合会

報告者：コーディネーター 齊藤宏和（大紀町町おこし協力隊）
 コーディネーター 新海佑太（雲出川漁業協同組合）



令和6年度みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業 成果報告会 <三重県内水面の事例>

三重県内水面漁業協同組合連合会
 コーディネーター 齊藤 宏和
 新海 佑太

- ①解決したい課題 根本的な疑問・問題・提言
- ②三重県内水面の実施内容
 - ・活動組織を構成 コーディネーター + 小委員会
 - ・ゾーニング推進
 - ・釣り人と連携した漁場管理
 イベント「みえ鮎ルアー塾」
 公式SNSアカウントの開設・情報発信
 フィッシングショーOSAKA2025とインスタ
 - ・電子遊漁券システムデータの「見える化」
- ③今後の展望

SLIDE-1

SLIDE-1：三重県内水面漁業協同組合連合会のコーディネーターの齊藤と新海でございます。よろしくお願いいたします。

まず今日のお話では、解決したい課題の部分、次に三重県内水面漁連の実施内容、最後に今後の展望についてお話しします。事業の中では検討会も行っておりますが、今回はその報告は割愛させていただきます。

SLIDE-2：まずは解決したい課題です。

ここまでの皆さんの発表を色々聞いておまして、やはりどこも一緒かなということで、組合員の高齢化、それから後継不足、ここは間違いなくあると。それから実際に今日発表されている方は、そもそもこういった場に出られている方なので、何をしていくというビジョンがあるのですが、基本的には漁協の方々は何をしたいか、そこが思いつかないというのが実情だと。

それから、動かしようにも、たまたま私は元々行政の経験もあり、企業の経験もある中でいろいろなことやっていますけれども、そういう人材がたまたまうまくいるとは限らない。どういう人材を連れてくるか？っていうのがあるかと。

それから4つ目、お金がない、ここは結構共通しているかと思いますが、その中で実際に最も手を入れた方がいいところというのは、多分この2つの部分、何をするか、人材をどうするかです。特に人材をどうするかをやらない限りは、いろいろなものが進まないと考えています。

① 解決したい課題

SLIDE-2

課題は、どこもほぼ共通では？

- ・ 組合員の高齢化、後継者不足
- ・ 何をしたいかわからない
- ・ 動くにも人材が居ない
- ・ お金がない

解決方法は、
 事業名称のとおりでは？

みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業
 みんなでやれば解決が近づくのに、みんなでやれてない

今回のお話の中で冒頭にありました通り、みんなでやるぞ事業というのが、その人材を充てるところに注目してくれていましたので、実はとてもありがたい話だと思っております。この「みんなでやる」というスタンスがないと、結局色々なことが進まないにもかかわらず、「みんなでやれない」ような状況が作られていることを解決しない限り、結局のところは、色々なことをやって、やっていることが良いとしても、その土台になる人材がある程度整っていない限り、砂上の楼閣というか、グラグラした状態で事業を進める話になってしまうのじゃないかということで、実際に色々なことを進める上では、みんなでやる体制をどうやって作るかを強力に進めていかない限りはうまくいかないんじゃないかなというふうに考えています。

① 解決したい課題

SLIDE-3

<根本的な疑問・問題>
企業的に
ヒト・モノ・カネから考える



“コーディネーター齊藤 個人的視点”

1. 「人が居ないんだよ…」
→本当ですか？
私共の小委員会は年齢30～60代
2. 「何やっちゃいいんだろう…」
→（一例）コンテンツ「鮎ルアー」
やりたい人、たくさん居ます
3. 「お金無いです…」
→“みんなでやるぞ” 上限600万
無いのではなく、活用できてない

SLIDE-3：その上で、我々の解決したい課題をざっと考えるのですが、漁協とか漁連の中では、意外なくらい企業目線で見ない部分が多い。その中で、企業でものを考える場合は、大抵の場合はヒトとモノとカネ、それから情報についてを見て、様々なことを検討するのですが、そういう目線を見た場合に、まず人がいないといった話が出ている、それから何やればいいの

か分からない、お金がないって話が出ているのですが、実際やっている内容として、我々は解決できているわけです。

まず一つ、委員会の人間。我々は30代から60代で多様な業種の人間で構成します。それから我々は、スタンスとしては、まずアユルアーを初年度に推す形で事業を組み立てています。それから予算としては、今回の予算、とてもありがたい話で、500万円台の採択を受けて実施できている。じゃあ実際これ、お金が無いって言うてるのですが、これについてもやろうと思えばあるのに、出来てない。出来てない理由は、結局人が居なくて何をやるかを組み立てられない、っていうのが一番の問題であって、そこを解決するっていうのを考えない限りは進まないだろうと思っています。

SLIDE-4：その上でまず、人の問題についての課題ですが、高齢化しているのはここまでの発表の通りだと思います。その中で人をどう生かすか？っていうことを考える上で、我々はまず委員会作ったのですが、年齢が30代から60代なのです。内水面について皆さんご存知の通りで、専業として従事している方はほとんどいない。ただその中で見ても、我々には会社関係、

① 課題1. “ヒト” の問題

SLIDE-4

高齢化しているのは間違いなし
人材をどう活かしていくか



<私共の小委員会は年齢30～60代な件>

内水面では、専業漁師は殆どいません
→兼業(色々な業種の経験者がいるはず)

“人材、いるよね？”

依頼や資料・情報が漁協の事務担当者で止まってしまう事態が頻発します

“表に出すのを止めていませんか？”

私共は、ある程度の裁量をいただいて、“みんなでやった”だけです

大工さん、建設業関係もいます、私はフリーターみたいなものですし、FISHPASSの渡辺さんにも入っていただいておりますように、いろいろな人材がいるのです。じゃあこの漁協でもどうなのか？と聞いたら「いるはず」なんですよ。

いるはずの人材を上げられていない、実はここ。この部分だと思っています。各漁協に、我々の委員会を作るときに文書を回したのですが、文書を流した際に、中にはこういった若手の方が漁協内にも関わらず、声も掛けずに止まっている場合があるのです。文書を出しても、実際は組合長さんとか事務担当者で文書が止まってしまって、本来その下にいる漁協の若い組合員なんかには声をかけてないのです。なので、漁協の中で情報がちゃんと流れるようにしない限りは、人の問題をうまく解決するところに繋がらない！っていうのが一番の問題だと思っています。

そういう中で、我々はある程度声を掛けて人を集めて、その中で好きにやってくれとまでは言われてないですけども、ある程度の裁量を頂いて、事業を進めて「みんなでやった」というのが、実際の我々のスタンスになります。

① 課題2. “モノ” の問題

“モノ” 何が推しなのか
自然、川、釣り、地元の特産etc.



<魅力を“発信”する件>

良いモノは、たくさんあるはずですが、**“発信”“伝達”しない限り、対象ユーザーには届きません**

“魅力を把握できていますか？”

“何を推すか、決めていますか？”

“どうやって伝えていきますか？”

私共は鮎ルアー主体で推すことに
+ SNSインスタを中心に置きました

SLIDE-5

SLIDE-5：次です。モノの話になりますが、大体皆さん、自然環境がいいとか、川がいい、釣りがいい、色々なモノを挙げられると思います。

先ほどの話にも出ていましたが、結局、どんなに良いものがあったって発信しないとどうしようもない。良いものがあったって、何処にその情報があるかもわからなかったら、絶対人の目に触れないし、その情報をホーム

ページに出しても、実はなかなか伝達しない。なので、ホームページに単純に出すというだけじゃなく、どういうふうに伝達されるかということで、我々は一番良さそうなInstagramを使っています。よって、まず発信することは当然大事で、さらに伝達させるためにどうやるか？まで考えないと情報が流通しないので、ヒト・モノ・カネの後に出てくる、情報の伝達を強化しないと、やはり前に進まないなと思っています。というのが2つ目です。

SLIDE-6：3番目、お金の問題です。先ほど申しましたが、みんなでやるその予算をいただきました。ありがとうございます。その中で人件費も出せるし、いろいろなことができるのがこの予算ですので、「どうせならやったほうが良い」というのがある方・ある団体さんは「ぜひともやったほうが良い」んじゃないかと思っています、その中で、

① 課題3. “カネ” の問題

漁連も資金的にはきついです
収入を増やし、支出を減らしたい

“考え方”を整える

あぁ、それやれたらいいよねえ

↓ 後ろ向き

でも〇〇が無い…俺らに無理だな

↑ 前向き

いかにできないか
→何も生まれません

どうやったら実現するか？
何が必要か足りないか？を議論！

SLIDE-6

<各種補助を活用する件>

みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業
かなり強い。人件費も出せます。
やり方がわからん！のであれば、
全内にご相談を！（我々でも可ですw）

“「わからない」で止めてませんか？”
“動かない限り始まりませんよ？”

やったほうがよいか、やらないほうがよいか。
やるか、やらないか。それだけです。

51

先ほど申しました「なんかよくわかんない」ととにかく後ろ向きになって進まないのじゃあ、どうしようもないです。それから、やったらいいことがあるのに動かない、「動かない限り何も進まない」ので、動いていただければと思っております。

実は我々はいろいろなことをやっているのですが、判断基準はとても簡単です。そもそもその内容を「やったほうがいい」のか、それとも「やったらだめ」、やったほうが良ければやればいい、やらないほうがいい話ならやらなきゃいい、っていうだけです。

そういった中で、これよくある話として考え方をしっかりしないと、結局、どこの漁協さんでも聞くような話でうまく進まないことがあります。まず一つは、普段漁協さんの中でもいろいろな話をするわけですが、やったらいいなーってみんなが同意する内容があったとする。その中で結構多いのがこちらです。やろうと思ったときに、まず人がいないとか、金がないとか、何々がないとか、環境が悪いとか、いろいろなことを言う方がいるのですが、これをやっている限り何も進まない。何も進まないっていうのは、とにかくいかにこれが難しいか、といったことをひたすら言う方がいるのですよね。これをやめない限り、これをやっている限りは1ミリも前に進まない。ここの部分を脱却して、ぜひ前向きに何をやればいいのか、どうやったらその問題があったところを解決できるのか？っていうのを、そもそも、やっていくっていうのをしっかりやっていく。また、それができる「体制を作る」ところを抜いてしまうと、いろいろなことをやったところで根付きません。なので、そういった形で問題があるところを解決していくというスタンスを根付かせるように、事業として設計いたしました。

②-1. 活動組織を構成

SLIDE-7

事業組み立ての出来る人材が必要
一人ではなかなか難しいです
チームを作ることにしました

<活動組織の内容>

コーディネーター設置

- ・齊藤 水産行政・研究・民間経験者
- ・新海 獣害対策コンサル、独立

小委員会設置

- ・理事会の下部組織
- ・各漁協に公募、委員輩出
- ・企画立案、実行部隊、橋渡し
必要に応じて助っ人招聘

→ “みんなでやる”組織作り



SLIDE-7：その中での一つ目です。まず活動組織を我々は作ることにしまして、その活動組織として事業の組み立てができる方がいないと、やはりなかなか進まないのですよね。なので、ここの部分はとても大事なのですが、実はこれ、他の県の事例を聞きましたけども、他県に住んでいる方がその活動組織の中に入ってコーディネーターされている例もあるわけですから、

少なくとも自分の県内じゃなくてもいいわけですし、それから先ほど申しました、自分らのところにある漁協の中に若手がいる、それからもともと広告関係やったことがあるとか、そういう方がいれば、そういう方が入ったチームを作れば、まず解決できるはずなのです。

そういった面で私も動いていますけども、FISHPASSの渡辺さんにも入っていただいていますし、あと新海はもともと就職した後に獣害対策をやっていて、その後、三重県に来て独立したという立ち位置で動いてまして、そういう人間が動ける環境を、実は三重県内水面漁連では理事会の下部組織として「小委員会」を作ることで賛同していただきました。各漁協にこういう委員を出してほしい、という依頼をかけて、それで実行部隊として動いたということで、まずそのヒトの問題を、みんなでやる組織づくりをしたということが、我々がやった中で一番大きいことなのじゃないかなと思っています。

SLIDE-8：そういった中でいろいろなことをやりまして、次に各漁協で相談会をしました。県内に14漁協あるのですが、全漁協を回りまして、その中でアユルアーを今後どのようにやっていくか、それから

②-2. ゾーニング推進

SLIDE-8



<相談会を開催>

全漁協と相談会

- ・ 鮎ルアーの取り扱い方針確認
- ・ ゾーニング導入支援
- ・ 広報の方向性整理
- ・ 各種要望の吸い上げ

鮎ルアー導入について (R7現在14漁協中)

- ・ 6漁協が既に導入
- ・ 6漁協が準備中・協議中
- ・ 2漁協が現状では困難 (検討中)

アマゴのゾーニングとかですね、そういったことと合わせて、漁協がそれぞれどのような要望を持っているのか？ということについて話を聞いていきました。

そういったことをする中で、アユルアーの導入については、今のところ三重県内水面 14 漁協のうち 6 漁協はすでに導入済み、さらに、6 漁協はかなり話が進んでいて、今後これからの時期に開催される総会に通れば、

これができるようになる話になっていると。残りの 2 漁協は、話としては上がっているのだけでも、今すぐ入れるのは難しいかなという話になっています。三重県内水面相談会で調整して、最終的には 14 漁協のうち今年の段階で 11 か 12 ぐらいの漁協が実際にアユルアーを導入できるというところまで、体制が整ったというような状況になっております。

それから②-3.として、釣人と連携した漁場管理の部分については、担当しました新海から話をさせていただきます。

SLIDE-9: バトンタッチしまして、コーディネーター新海からお話いたします。具体的に「釣人と連携した漁場管理」の実施内容に関わってくるのですが、三重ではアユルアーを推していくことは、今、齊藤から説明した通りなのですが、「みえアユルアー塾」と言いまして、ちょっとどこかで聞いたネーミングですけども、お隣の和歌山県が行っている友釣り塾と競うというわけではなくて、それぞれの持ち味を生かそうという考えのもと、このような形で三重県でも進めております。

この「みえアユルアー塾」なのですが、今年度は 4 回実施を計画して、まず実施に当たってポスター・チラシ作成して、各釣り具店や漁協さんに配布しております。実際の開催では 4 回中 3 回は開催できたのですが、1 回は台風のため残念ながら中止になってしまいました。

SLIDE-10: 講師は各釣り具メーカーや釣り具店の方に来ていただきました。DAIWA さんの木森テストだったり、デュオさんだったり、フィッシング遊さんだったり、それぞれの会ごとに違って、例えば DAIWA さんが講師の回では、DAIWA のルアーをずらっと持ってきていただいて、参加者はそれぞれのルアーを試し放題のアユルアーテスト会といった要素も含めて開催いたしました。

②-3. 釣り人と連携した漁場管理 <みえ鮎ルアー塾>

SLIDE-9

野鮎の闘争を即発する
釣果が変わる！
鮎の動きを完全再現

みえ鮎ルアー塾
AYU LURE

河川講習 中日程15名

8.03 @ 中村川
8.21 @ 大内山川
8.22 @ 具野川
9.01 @ 青蓮寺川
9.14 @ 大内山川

釣ルアー釣り大会

ポスター・チラシ作成
→釣具店・各漁協に
配布、掲示

河川講習4回計画
→3回実行, 1回中止 (台風)
各参加者数10名、13名、15名

釣り大会1回計画→実行
参加者数15名

講師
ダイワ 木森直樹フィールドテスター
(株)DUO 広報部 萩原 徹 氏
フィッシング遊 佐久間 隆幸 氏
※苦勞した点：最後に入れてあります

DUO × フィッシング遊 × みえ鮎ルアー塾

日程	会場	参加者数
8.03	中村川	15名
8.21	大内山川	13名
8.22	具野川	10名
9.01	青蓮寺川	15名
9.14	大内山川	15名

②-3. 釣り人と連携した漁場管理 <みえ鮎ルアー塾> SLIDE-10



<参加者の声>

“夏場はゴルフよりも川釣りですね！次は友釣りします！”
釣り完全初心者、関係者ゴルフ仲間、女性

“鮎ルアーの全装備を揃えました！”
川釣り初心者、釣具店広告から、男性

“来年は子供と遊びに来ます！”
釣り完全初心者、参加者の紹介、女性

“釣れて楽しかった！”
釣り完全初心者、関係者の子供(中学生)、男性

※苦労した点：最後に入れてあります

ターゲットはもちろん20代、30代。若手の方にとっては、アユルアーということ結構やってみただけけれども、やり方がよくわからないので二の足を踏んでいるという方が多くて、そういった方の潜在的な需要があることに加えて、普段友釣りされている方にもアユルアーに触れていただくのも一つ重要なことだと僕たちは考えております。というのも、アユルアーと

友釣りの共生というのが必要になってくるのです。結構勘違いされているのが、アユルアーの人が入ると場が荒れるとか、そう考えている友釣り士もおりますが、実際はそうではないのです。そういったことも、この塾に参加していただくと理解していただけるのかなと考えています。

実際に参加された方の感想をピックアップしてご紹介しますと「夏場はゴルフよりも川釣りですね。夏めちゃくちゃ暑いので、川に浸かってできるアユルアーは最高のアクティビティだね」「講習会を受けてアユルアー全装備揃えました」という方もいらっしゃいますし、あとは「親子、子連れで参加して楽しかったです」と言ってくれる方もいらっしゃいました。

SLIDE-11：次は、三重県内水面漁連公式 SNS アカウントを作りました。SNSの種類は、実行的な部分、とにかく若年層をまずターゲットにしようということで、コンサル会社と相談した上で、Instagramを採用することに決定しました。サブとしてInstagramの投稿をそのまま共有する形で、Facebookでも公開するというようにしています。このInstagramですが、2月28日時点で投稿数23、フォロワー数は913となっていました。

②-3. 釣り人と連携した漁場管理 <公式SNSアカウントの開設・情報発信> SLIDE-11



メインのSNSとしてInstagram、サブ（Instagramの投稿共有）としてFacebookを開設

Instagram（2月28日時点）
投稿数 : 23
フォロワー数 : 913

Facebook（2月28日時点）
投稿数 : 23
フォロワー数 : 20

公式サイトに釣り人目線の釣行記・動画を掲載

また、内水面漁連の公式WEBサイトには、私の釣行記を掲載しております。私自身、ありとあらゆる釣りをしてきた人間ですが、今年度まで、ほとんどアユ釣りには触れてこなかったという釣り人です。そういった人が、新しくアユ釣りを始めるときに必要なことであったり、こういう面白さがあるんだ？！といった気づきだったり、そういったことがありますので、公式サイトに釣行記という形でご紹介したりしております。

SLIDE-12：これは実際の釣行動画です。ぜひご覧ください。アユルアーってビュンビュン投げるのではなくて、こうやって目の前に、せいぜい十数メートルぐらい投げるのですね。これ、友釣りの範囲よりも狭いですよね。皆さん勘違いしているのが、ルアーをビュンって投げて、何十メートルも引っ張ってくる

②-3. 釣り人と連携した漁場管理 <情報発信動画>

SLIDE-12



令和6年9月、青蓮寺川（名張市）

みたいな釣りをイメージされている。そういうところで友釣りの方との軋轢が生まれてしまうわけです。こういうアユルアーの実際というのを理解していただくことも、友釣りとの共生に必要なことと思います。

SLIDE-13：そして今年2月ですね、フィッシングショー大阪2025です。こちらに三重県内水面漁連として出展しまして、メインイベントとして、フィールドテスターさんと釣りガールを巻き込んでトークショーを開催しております。メインの演者は、DAIWAのフィールドテスターの木森さん、2代目アングラーズアイドルのそらなさゆりさん。1日目と2日目に2回行ったのですが、2日目には飛び入りで友釣りフィールドテスターである有岡さんも参加してトークショーを開催しました。

ブースではInstagramでフォローしていただいた方に三重県内水面漁連オリジナル「LOVE RIVER PROJECT」ステッカーを配布するという形でフォロワー確保に努めました。

それに加えて、結構今までアユルアーをしたことがないルアーマンの方が足を止めてくれることが多くて、その方たちと話している上で「やってみたいんだけどやり方がわからないんだよ」や、例えば「今持っているタックル、釣り竿、アユルアーに流用できますか」といった話もあるので、潜在的にルアーマンからアユルアーへの転向という需要は多いのだなということを確認することができました。

それではここからまた齊藤に変わります。

SLIDE-14：こちら、電子遊漁券のシステムデータの見える化を我々も行っております。やっている内容は他県とかなり似ていると思いますので、要点だけ説明します。我々もマッピングをしまして、実は先ほどお話にありました。釣り場の駐車場とか釣りに入るところを全部載せたいなと思っていたのですが、全漁協に行って、全漁協で2、3カ所くらい、釣り場の地図と、それから駐車場の位置、どこから入ってここで釣れるという情報を出してもらえないかと頼みましたところ、14漁協中、出てきたのは1漁協でした・・・もう1漁協は私がいる漁協です。実際にこれをやってみてわかったこととして、そういった情報を絶対に載せるべきだと思って、各漁協に聞いたらわかるかなと思っていたら、各漁協がそれを出

②-3. 釣り人と連携した漁場管理 <フィッシングショー-OSAKA2025とインスタ>

SLIDE-13



メインイベントとしてトークショーを開催

演者：木森直樹氏 (ダイワフィールドテスター)
そらなさゆり氏 (2代目アングラーズアイドル)
有岡只祐氏 (2日目・ダイワフィールドテスター)

オリジナルステッカーの配布とインスタグラムのフォロワー確保

インスタフォロワー数 (フィッシングショー開催前後)
191 → 928

他魚種ルアーマンからの鮎ルアーへの転向の意思・潜在的な需要の多さを確認

すってということがそもそもできないのです。

まずそこがやはり結構な問題なので、これは来年度の話にはなりますが、じゃあそれを具体的にしようと思っても、手助けしながらやらないとできないので、そういった部分はどちらかというと全漁協にやってもらうよりは、こちらが手助けしながらデータを揃えていかないと無理かなということがあります。

いろいろなデータの中で幾つかをピックアップします。売上は順調に伸びています。年齢構成、ここはとても大事だと思っておりまして、先ほどの話の通り60代70代がメインになる友釣りに対して、電子遊漁券の客層というのはだいたい20代から50代、60代に若干そういう方がいるという状況ですね。これというのは、アユの友釣りだけ見たらこの60代70代の一番割合が大きいことになるので、この部分を要は電子遊漁券のユーザー層をそのまま取り込むことができれば、たぶん20代30代40代は増やしていけるだろうと見ています。それから三重県の中で言いますと、三重県は半分ぐらいが県内で、次に愛知県、次が大阪府という風になっているので、愛知や大阪の方なんかは結構来やすいはずなので、そういった目を考えた上で営業戦略として、愛知、大阪の方にもっと来てもらえるような広報の仕方をしようと考えています。

②-4. 電子遊漁券システムデータの「見える化」
SLIDE-14

デジタル漁場地図
三重県内水面漁業協同組合連合会

マップ公開

<電子遊漁券導入→「見える化」へ>

- ・電子遊漁券購入情報の整理集約
- ・各漁協エリアをホームページで公開
- ・今後もブラッシュアップを進めます
- ・構成比を考慮した営業戦略を進めます

電子遊漁券売上

電子遊漁券年齢構成および購入者都道府県構成

年代 (購入時)	女性	男性	その他	未入力	合計
10代		12			12
20代	7	103		6	116
30代	14	207		3	224
40代	16	229	1	3	249
50代	5	239		2	246
60代	3	149		3	155
70代	1	36			37
未入力		12		12	24
合計	46	1,038	1	29	1,114

全漁協のうち三重県が半数。次いで愛知20%、大阪10%となっている

都道府県	2023年	2024年	割合
三重県	260	542	50%
愛知県	146	209	19%
大阪府	62	105	9%
岐阜県	33	39	4%
奈良県	23	39	4%
京都府	19	34	3%
滋賀県	17	29	3%
兵庫県	9	22	2%

③ 今後の展望
SLIDE-15

本日、ステッカープレゼント！
フォローをお願いします！

“ヒト・モノ・カネから”

1. ヒト
 - ・イベント新規参加漁協を主体に追加
 - ・大学に声を掛けます (10~20代の声)
2. モノ
 - ・鮎ルアー対応漁協が倍増しました
 - ・「みえ鮎ルアー塾」7回やりたい
 - ・各漁協の情報発信を強化します
 - ・友釣り、アマゴ等も推したい
 - ・フィッシングショーOSAKA、出たい
3. カネ ... 引き続きお願いします！

SLIDE-15：ということで最後になります。まず、今日は「LOVE RIVER PROJECT」ステッカーを持ってきておりますので、後で配布いたします。ぜひInstagramに登録していただければと思います。

その中で、まずヒトについてですが、今回いろいろなことを行ったおかげで、アユルアーの対応漁協は倍増しております。

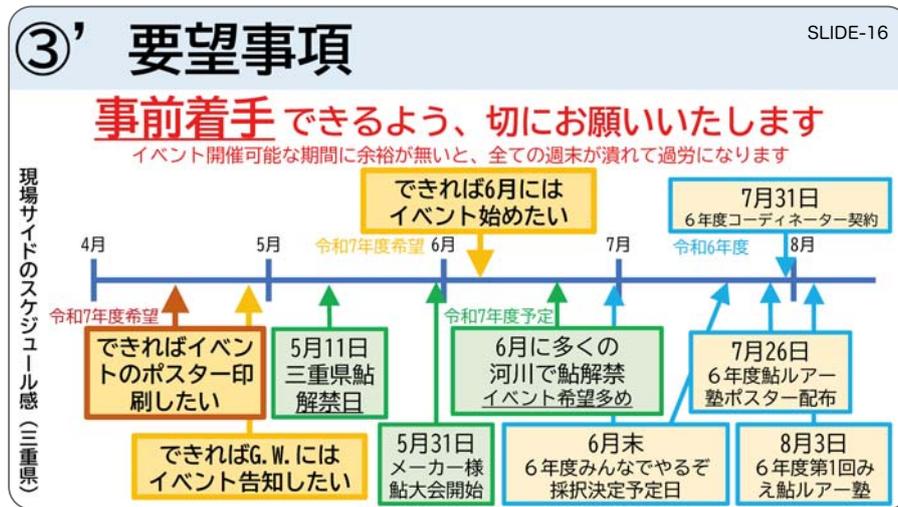
なので、その倍増している漁協を主体に考えて、我々が作った小委員会の中に新しい漁協から入ってもらう。それからこれ、栃木県さんもやられていたのですが、大学にも声をかけております。大学生の釣りサークルの方に、ヒトの部分として委員会に入ってもらおう準備をしています。結局こういった学生のうちに釣りしている方って、将来的にも釣りをするのですよね。なので、そういった方に、より川釣りをアピールできる姿勢を作れたらいいかなと思っています。

2番目、アユルアー塾。先ほどのお話の通りに企画を作ったので、新規の参加漁協もあることから回数を増やしたいと思っています。それから、SNSの体制。これはある程度整備したのですが、漁協単位で「うちの漁協を推したい」という方がいるので、その部分の情報発信を増やしたいと思っています。それか

56

ら、最初の年度ではあまり頑張らなかつた友釣りやアマゴの情報も追加していければと思います。最後にフィッシングショーについては、実はかなり好評でしたので、来年もやりたいと思っております。

3番目、次年度は結構この事業に参加される漁連さんが増えると思うのですが、ぜひとも予算つけていただけるとありがたいと思っております。



SLIDE-16:最後です。実際にやった上で要望をしたい話があります。

1つ目。まず令和6年度についてはもともと6月末の時点で採択決定になる予定だったのですが、我々これを考えた上で8月3日に最初のイベントをしたのです。ですけれども、実際には三重県内では5月11日にアユが解禁し、5月中は2漁協が解禁し、それ以外の漁協はほと

んど6月が解禁です。それであれば6月にイベントをやりたい。6月にイベントをやりたいと思うと、ゴールデンウィークの最初の時点でポスターを貼りたいのです。この時点でポスターを貼りたいということは、4月の中旬にポスターを発注したいのです。こういう手順を汲んでいければ、すごく助かるので、事前着手を、水産多面的機能発揮対策事業と同じように事前着手ができる体制にいただけると大変助かります。

それから結構イベントが沢山あって体を壊すのです。なので、できれば長い期間、この予算で動けるようにしていただけると大変ありがたいです。

ということで終わりたいと思います。ありがとうございます。

~~~~~質疑応答~~~~~

□ 桑田委員

すみません。僕もアユとアユルアー推しなので、非常にシンパシーを感じながら聞かせいただきました。まず、漁連の中に小委員会を立てたのはとても面白いなと思って聞いておりました。

三重県漁連としては、アユルアーと友釣りとの軋轢をみなさん心配されますよね。三重県漁連としてまずアユルアーを推していこうという意思統一ができているのか？というのが1点。

それからもう1点は、実際アユルアーを今回始めたところと始めていないところとはまだ分かれています。アユルアーを始めたところで、遊漁料の方でアユルアーを始めたことの効果、プラスの効果というのが確認できるような状態になっているのか？というのが2点目。

あと、実際僕もいろいろな釣りをやるのですが、夏場の猛烈に暑い時にルアーやるの大変ですよ。やはりアユルアー最高はなんですよ。僕は絶対まだまだ市場が伸びると思っているのですが、まさにこの他魚種ルアーマンからの潜在的な需要について、具体的にどんな感触だったのか教えていただけると助かります。

### ■ 齊藤コーディネーター

まず一つ目は、漁連の中でのコンセンサスはだいぶファジーです。というのは、「やりたい方はやった方がいい」という意見が多い。その中で、「ただし、うちの漁協では無理だぞ」という理事さんもいます。そういった中で、実際には「やった方がいいのじゃないかな」ということで進む形になった、というのが一つですね。

それから二つ目の遊漁料については、実はルアーとアユの友釣りの券を分けていないのが現状です。分けていないので実際のところ効果測定があまり出来ていないですね。

### □ 桑田委員

例えば、前年に比べてアユルアーを開始した以降に伸びているといったことはありますか？基本的には考えれば、アユ釣りのトレンドは減少しているので、伸びていればわかるかなど。

### ■ 新海コーディネーター

私がいる漁協では、全体としては微減でしたね。ですが、アユルアーを解禁したエリアでは、今まで誰もいなかったポイントに毎日必ずアユルアーをやる方がいたのが見られた、ということを実際に観測しております。なので、これは漁協によると思うのですが、年券とか日券の販売が少ないところほど、ドラスティックにダウンと効果が出るのは确实だと思っています。そういった面で、新海が所属している漁協が、今年アユルアーをオープンする準備をしておりますので、そういったところで極力釣れる状況を作りながらアユルアーの導入をしていこうと話しています。

それから3つ目の他魚種ルアーマンからの需要ですが、フィッシングショーの中で一番食いつき良かったジャンルがイカ釣り、いわゆるエギングの人です。まず一つマッチするのが、エギングの竿は一番アユルアー用の竿に向いている、現行で向いていることですね。また、海が荒れているときは川に行ったり、夏の暑い時期は日差しがきついで川に入って釣りしたり、さらにはエギングを夜暗いうちから明け方まで釣って、イカ釣れなくなる日中は何もすることがない、片やアユは日が昇ってから釣れますから、最初は海で朝までイカを釣って、昼からは川でアユを釣って帰る、といった釣行の組み立て方もできるよ！というお話をしたいと思います。

# 山形県内水面漁業協同組合連合会

報告者：コーディネーター・参事 桂和彦



**SLIDE-1：**山形県内水面漁業協同組合連合会の参事の桂です。

山形県内漁連では、ここにありますとおり「組合員賦課金等の徴収の負担軽減」、「ICT遊漁券システムの活用と機能追加による全漁協の情報整理、漁場マップの作成」に加えて、「県の魚サクラマスの漁場管理と遊漁振興」、と手を広げてやっております。

はじめにお話しさせていただきたかったのが、この事業に申請する際、コーディネーターに人件費が出るということで大喜びしたのですが、我々の職場は、私を含めて二人のため、もしコーディネーターに人件費を払うとなると、とても莫大な作業が出来てくるということで、これはコーディネーターを雇うよりは、「今まで水産で世話になったOBをタダで使ってやろう！」(笑)ということで、私も含め県庁退職者、それから財団法人の振興協会の退職者の併せて3名で、要するにボランティアでコーディネーターをやる、ということになり事業を進めました。そのため、実際にやらなければならないことに時間をしっかりと費やできたと考えているところです。

**SLIDE-2：**まず一番初めの「組合員と賦課金徴収の負担軽減」について、やることになった背景ですが、この業務というのは組合にとって負担がものすごく大きい。それは、徴収する人が一件一件訪問するのですが、殆どが総代とか支部長で高齢者の方が多いのが現状です。組合員数の多いところになると、ものすごい負担で大変だということです。

また、留守の場合があるので何回も行かないといけないということもあります。さらに、組合員が減少して行って支部長や総代が減ってきているということ

もあります。このような課題を抱えているため、漁協の事務局の負担を軽減させるため、賦課金や行使料を安定的かつ負担の少ない徴収方法の確立が漁協経営には不可欠だろうという背景のもと、この事業を進めました。

## 《組合員賦課金等徴収の負担軽減について》

### 《本事業を実施するに至った背景》

- 組合運営上で賦課金・行使料の徴収の負担は大きいとの声
- 徴収者は総代や支部長等の高齢者であり、組合員数の多い漁協ほど大きな負担
- 留守の場合など何度も伺う必要があること、組合員の減少による総代の未設置の可能性

漁協事務局の負担が大きいため、賦課金・行使料の安定的かつ負担の少ない徴収方法の確立は漁協運営に不可欠

SLIDE-2

### 本事業の進め方と進捗状況

| 月日         | 具体的な取り組み内容                                              |
|------------|---------------------------------------------------------|
| R6.5       | ◇本事業に興味を示す漁協に対し検討会参加への調査<br>⇒10漁協が興味を示し、第1回検討会への出席を希望   |
| R6.8       | ◇第1回検討会（8漁協が参加）<br>⇒事業者から徴収システムの提案、意見交換の実施              |
| R6.9       | ◇第1回検討会の参加漁協に対し事業参加への意向調査<br>⇒4漁協が支部や准組合員の少数単位で試行的参加を希望 |
| R6.11      | ◇第2回検討会（4漁協が参加）<br>⇒使用システムの紹介、スケジュール、秘密保持契約確認           |
| R6.11<br>~ | ◇4漁協でシステム登録に必要な情報の入力作業等を開始                              |
| R7.2       | ◇第3回検討会（4漁協が参加）<br>⇒1漁協の実施例と具体的な設定方法、組合員への周知方法の説明       |

SLIDE-3

**SLIDE-3**：進め方と進捗状況ですが、ここにありますように令和6年度5月からスタートしております。

まずは、このことに興味がある漁協がどれぐらいあるのかな？と思いました。内水連には17会員あり、そのうち1会員は遊漁料を徴収しない会員なので、16会員にアンケート調査を行った結果、10漁協が興味を示して、第1回目の検討会に出席しますよと意思表示をしましたが、実際には8漁協が参加となりました。この検討会では、つりチケさんからいくつかの徴収システムの提案と意見交換を

実施しております。

9月には、第1回の検討会に参加した漁協に対して、さらに、本当に参加するのか？というアンケートを取ったところ、4漁協が「まずは小さな単位でやりましょう」となりました。それは、全組合員対象が厳しいということで、小さな支部、若い人が多い支部、准組合員だけのように、少数単位での試行的参加の希望がありました。

1月の第2回の検討会は4漁協が参加しての開催となり、この時に実際に使用するシステムが紹介されました。当然個人情報が入ってきますので、つりチケさんと内水連及び、参加する漁協と秘密保持契約をきちんと締結しております。実際に11月から4漁協はシステム登録に必要な情報の入力作業を開始しております。

2月には第3回検討会を開催し、ここにも4漁協が出席し、1漁協の実施例、具体的な設定方法と、組合員に周知する方法などの意見交換しております。

**SLIDE-4**：具体的どのように進めたかという、まずアンケート調査を実施しました。一つは「賦課金の徴収方法について教えてください」という質問に対して、殆どは支部長や総代が徴収するという回答でしたが、1漁協だけが令和6年度から郵便振込による徴収を実施していることが分かりました。

しかし、全組合員に対して「あなたは郵便振込でいいですか？」ということをはがきを出して確認する必要があります。なおかつ、毎年その葉書を出して意思確認をする必要があることに加え、振り込み用紙を別途郵送する必要もあるということで、あまり事務の軽減化にはつながっていないのが現状のようです。

二つ目は「行使料等の徴収方法について教えてください」という質問に対しては、殆どが賦課金を徴収するときに一緒に徴収しますという回答でした。

### アンケートと本事業への参加意向調査

**Q1 現在の賦課金の徴収方法は？**

- ・殆どの漁協で、理事、総代、支部長等が直接訪問・徴収
- ・1漁協のみ令和6年度から郵便振込による徴収を実施

**Q2 現在の行使料の徴収方法は？**

- ・賦課金を徴収する際に一緒に徴収

**Q3 新たな徴収方法に対する意見など？**

- ・総代等が徴収するので高齢者の方も組合員を継続しているが、新たな徴収方法では対応できない高齢者組合員が止める心配
- ・組合員全員が新たな徴収方法を活用しない場合に手間の増加
- ・実施するための経費、組合員情報の取得の困難性
- ・組合員証や行使証を徴収時に一緒に渡すがその対応方法は？
- ・新たな徴収方法に最初は戸惑うが、慣れてもらうことが大切
- ・アナログからデジタルへの切り替えは今後の世代交代に向け良い機会
- ・准組合員や若い方には便利な徴収方法

16組合中4組合で参加希望

SLIDE-4

三つ目は「こういった新たな徴収方法に対する意見がありますか」と自由意見を書いてもらいました。そうしたところ「総代等が徴収に来てくれるので、高齢者の方も今年も組合員を継続していただいています」との回答がありました。それは、「集めに来るからまあいいか、今年もよろしく」となるのですが、こういった新たな徴収方法になったときには、高齢者の組合員がひよっとしたら組合を辞めるかもしれない、という心配があるとのこと。一方で、こういった新たな徴収方法に戸惑いはあるのですが「まず慣れてもらうことが大切でしょう」、という意見や「アナログからデジタルへの切り替えというのはこれからの世代に必要なこと」、「准組合員や若い方には便利な徴収方法である」という意見もあり、最終的には4漁協が参加の意思を示してくれました。

### 使用するシステムの候補リスト

| システム名   | 会費ペイ<br>【つりチケ想定】              | 月額<br>(年額バンド) | サブスクペイ        |
|---------|-------------------------------|---------------|---------------|
| 導入/月額費用 | なし/なし                         | なし/なし         | 39.8万円/月6.5万円 |
| 決済手数料   | 3.5%+100円/1決済                 | 3.5%+100円/1決済 | 3.5%+107円/1決済 |
| その他費用   | 口座引き落とし別途500円~1000円           |               | 同左350円        |
| 決済方法    | クレカ、口座振替(コンビニ)                |               | クレカ、口座振替      |
| 登録作業    | 管理者からメールでURLを送付→組合員が自分で必要情報入力 |               |               |
| コンビニ決済  | 引き落としができない場合の手段として可能          |               | -             |
| システム連携  | LINE連携                        | PayPayも可能     | 機能充実          |



【採用システム】

- ・運営会社  
株式会社メタップスペイメント
- ・資本金  
11億3,478万円

SLIDE-5

**SLIDE-5：**第2回検討会では、つりチケさんから使用するシステムを、いくつか紹介していただきました。この中でつりチケさんが推奨して下さった「会費ペイ」というのが導入月額費用が無料などのメリットに加え、一度登録すると次年度からはもう登録する必要はなくなるということで、今回は「会費ペイ」のシステムを使うことになりました。

**SLIDE-6：**これは最上漁協の実際の入力フォームの例です。名前、メールアドレス、電話番号、郵便番号、住所、どのコースで賦課金申し込みますか？というのを淡々と入力して、最後はクレジットで決済という流れになります、このように誰でもできるようなフォームを採用していただいております。

それから、この事業に対する主な課題と対応策については、こういった電子関係のものを導入する際、組合員には若い人から年寄りまでおり、リテラシーの格差があることから、対面サポートをして

いく必要があります。漁協職員の操作の習熟や情報共有を行うために研修会の開催やマニュアルを整備する必要もあると考えています。そのためには、つりチケさんに来てもらい、漁協の職員に対しても対面サポートを実施していただきたいと考えております。検討すべき対応策としてはこれから入ってくださる組合員はすべてオンラインのみとするとか、それから内水連、漁協、システム事業者が連携して導入への手順書を作っていく必要があります。また、多くの漁協さんが参加してくれるのであれば、導入のハードルが下がってきますので、一定規模になったときには集中的な管理も可能になるのではないかと考えております。

### 事業実施漁協の事例の紹介

2025年度 准組合員 賦課金支払いフォーム

|         |    |                                                                                                                                            |
|---------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 氏名      | 必須 | (姓) _____<br>(名) _____<br>(セイ) _____<br>(メイ) _____                                                                                         |
| メールアドレス | 必須 | soichiro.nishiyama@creato-c.jp                                                                                                             |
| 電話番号    | 必須 | ハイフン無し(半角数字10~11桁)で入力してください                                                                                                                |
| 郵便番号    | 必須 | ハイフン無し(半角数字7桁)で入力してください                                                                                                                    |
| 住所      | 必須 | 都道府県 _____ 市区町村 _____<br>町名以降の住所 _____                                                                                                     |
| コース     | 必須 | 2025年度 准組合員 賦課金 (2025年4月1日~2026年3月31日)<br>- 入会金: 0円<br>- 継続課金: 7,000円(年次)<br>2025年度の准組合員賦課金支払いを行ってください。<br>有効期間は2025年4月1日~2026年3月31日となります。 |

SLIDE-6

## 【主な課題と対応策】

## ◇ICT導入における課題について

- ・組合員のITリテラシー格差  
⇒ 対面サポート
- ・漁協職員の操作習熟・情報共有の不足  
⇒ 研修会やマニュアル整備

## ◇検討すべき対応策について

- ・新規加入はオンラインのみにすることも
- ・内水連・漁協・システム事業者が連携し、導入への手順書作成
- ・参加漁協を再募集し、導入ハードルを下げる  
⇒ 一定規模になれば集中管理も可能に？

## ◇今年度の成果・評価について

- ・4漁協が試行的取組みを実施
- ・漁協によっては、組合員（准組合員）の継続を確認した上で、賦課金、行使料を徴収するため、手続きの時期が遅い漁協では事業終了月日以降に作業を開始

SLIDE-7

**SLIDE-7：**今年度の成果と評価については、まず4漁協が試行的取組みを実施したということです。漁協によっては、これから組合員、准組合員も含めて継続の意思確認をしてから徴収作業に入りますが、意思確認作業が3月以降になる組合が多く、実際には2月17日で事業が終了しましたが、手続きの時期が遅い漁協では、今後の作業になってしまいます。ただ、この部分についてはつりチケさんも責任を持って対応してくださるとのことで、今年度事業が終わっても続けるということになります。

**SLIDE-8：**私どものほうに、全内漁連からこのような質問が来ておりました。回答については、つりチケの西山さんに書いていただきました。

「徴収システムのオーナーは誰か、運用は誰が行うのか、今後、横展開を考えた場合、つりチケが運営するシステムなのか、基本的なサービスを漁協自ら運用するのか？」という結構詳しい質問です。これについては「今年度は「会費ペイ」を採用したうえで、4漁協で試行的運用を開始、または開始予定。システムの利用の申し込みそのものは漁協が行うので、漁協がシステムのアカウントを保有することになる」という回答になります。

それから、「会費ペイ」そのものは、一般的にPTAとかや塾の会費制のサービスにもう既に使われている、入会申込から管理、請求、決済を一元的に管理できるシステムなので、漁協での使用例は今回が初めてになりますが、初期導入費が無料、決済手数料が安い、一度の登録で翌年度も自動決済になるということで、「会費ペイ」を採用させていただきました。

二つ目の質問で、「各漁協にはさまざまな漁法があって、漁法ごとに行使料を払うことになるのですが、どのようにカスタマイズ、整理・調整していくのか？」という質問に対しては、「漁協に応じて複数のメニューの作成は可能である」ということです。例えば、アユの友釣り、雑魚釣り、アユの網というように区分に応じて複数のメニューの作成が可能であるということ。また区分ごとに申し込みウェブページを案内することも可能であるということ。それから、こういうこと（入力フォーム）によって登録間違いを防ぐこともできるということ。なお、現状は、先ほどもご説明しましたように、准組合員だけですか、一部の支部限定だとか、あとは賦課金とか、面倒くさい行使料みたいにバラエティに富むものではなくて、「まずは組合費のみを一括徴収しましょう！」、という試行的な取り組みなので、「まずはこれでやってみましょう！」という考え方です。

## 【全内漁連からの質問について】

**Q：**徴収システムのオーナーは誰か？ 運用は誰が行うのか？ 今後横展開を考えた際、つりチケが運営するシステムなのか、基本的なサービスを漁協自らが運用するのか？

**A：**今年度は「会費ペイ」を採用し4漁協で試行的運用を開始又は開始予定。システム利用の申込みは各漁協が行うため、漁協がシステムのアカウントを保有

**A：**会費ペイはPTAや塾など会費制サービスの運営に必要な「入会申込・会員管理・請求・決済」を一元管理できるシステム。漁協での使用事例はないと思うが幅広い業界・業種で使用。他に会員管理・決済システムは多数あるが、初期導入費が無料、決済手数料が安く、1度の登録で翌年度以降は自動決済になり業務効率化を加味して会費ペイを選択

**Q：**各漁協には様々な漁法があり、漁法ごとに行使料を払うことになるが、どのようにカスタマイズ、調整するのか？

**A：**漁協に応じて複数のメニューの作成は可能。例えば、①アユ友釣り、②雑魚釣り、③アユ網等のように区分に応じて複数のメニューは作製可能。また、区分ごとに申込Webページを案内することも可能。これにより登録間違いを防ぐこともできる。なお、現状は「准組合員のみを対象」「一部の支部限定で、共通の組合費のみ対象」の運用を実施又は実施予定

SLIDE-8

## ICT遊漁券システムの活用と機能追加による全漁協の情報整理・漁場マップ作製

### 《本事業を実施するに至った背景》

- ・漁協・遊漁の振興を進める上で、地域との連携が必要であることから、成功事例等の情報発信は不可欠
- ・漁協では放流・釣り体験、C&R、ゾーニングに加え、アユルアー釣り等に取り組むが、各漁協がバラバラで実施し、情報の整理・発信・共有が不十分のためアピール度は低い。
- ・漁協間の情報共有と連携、地域協働で新たな遊漁者増大につなげ、情報の発信に加え、情報の収集が必要

全会員が導入したICT遊漁券システムの活用と機能追加により内水面情報の集約・整理・発信に加え、遊漁者、市町村、観光業界との連携を深め、漁業と地域振興を図る体制整備を構築

SLIDE-9

**SLIDE-9：**次に2番目の事業、「ICT遊漁券システムの活用と機能追加による全漁協の情報整理、漁場マップの作成」です。山形県の全17漁協のうち、1漁協を除く16漁協すべてにフィッシュパスFISHPASSの電子遊漁券のシステムを導入しています。「全漁協が導入したのなら、それを何か活用する手はないか？」ということで、以下のようなことを考えました。

まず、背景については、漁協の活動、遊漁の振興を進める上で、「地域との連携」、これは絶対必要です。地域によっ

ては「漁協って何してるの?」、と言われるほど、まだまだ内水面漁協が知られていない状況にあります。だからこそ成功事例の情報はどんどん発信！を、まずはしていく必要があると考えています。それから、漁協では釣り体験、放流体験、キャッチ&リリース、ゾーニング、近年はアユのルアー釣り等にも取り組んでいるのですが、各漁協がバラバラな方法でやっていること、やりながらも問題を抱えてしまうこともあるので、こういった情報を整理して発信していく必要があると考えます。まだまだアピール度が低いということです。

それから、漁協間の情報共有と連携、地域協働で新たに遊漁者増大につなげていきたいのですが、そのためには情報の発信に加え、情報の収集も必要であると考えました。全漁協が導入したICTの遊漁券システムの活用と機能を追加、この機能というのはアンケート機能を想定しております。内水面情報の集約、整理、発信、これに加えて遊漁者、市町村、観光業界との連携を図りながら、漁業と地域振興を図る体制整備を構築したいというふうに考えているところです。

**SLIDE-10：**進め方と進捗状況についてですが、8月にボランティアのコーディネーター3人で事前打ち合わせを行いました。このときに役割を分担と年間スケジュールについて、3人で検討を行いました。

9月には、第1回検討会を開催しました。フィッシュパスFISHPASSの黒川さんにも来ていただいて、アンケート機能の導入、構築、運用、デジタルマップの作成についてどのように進めていくか、という細かい説明をしていただきました。さらに、全漁協の組合長や、事務局の情報を一元的に管理するために、LINE

WORKSというビジネスチャットをスマホにインストールしてもらい、何か情報があれば、すぐにそこに記載して情報の発信と共有ができる体制を作りました。

11月には第2回の検討会を開催し、フィッシュパスの黒川さんからは漁場マップ作成の進捗状況を紹介していただき、次回検討会までにその漁場マップに入れてほしい項目を漁協ごとに考えるように依頼し

### 本事業の進め方と進捗状況

| 月日    | 具体的な取り組み内容                                                                                       |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| R6.8  | ◇コーディネーター3人で事前打合せ<br>⇒役割分担、作成資料、年間スケジュールの確認                                                      |
| R6.9  | ◇第1回検討会<br>⇒アンケート機能の導入・構築・運用、デジタルマップの制作・発信の詳細説明。全漁協の職員のスマホに「LINE WORKS」を導入し情報の共有化を開始。            |
| R6.11 | ◇第2回検討会<br>⇒山形県版漁場マップ作成の進捗状況の紹介、次回検討会までに漁協独自のマップ項目の精査を依頼。提案したアンケート項目について、次回検討会までに各漁協に削除・追加・修正を依頼 |
| R7.2  | ◇第3回検討会<br>⇒アンケート機能の事例の紹介、山形県版「漁場マップ」の紹介                                                         |
| R7.2  | ◇「アユルアー釣りの現状と課題」講演会<br>⇒各漁協が手探り状態で取り組む「アユルアー釣り」の現状と課題を前山氏（クロープライドKK）が講演。活発な意見交換                  |

SLIDE-10



だいているのが、紙券の遊漁券を販売している場所もここに入れてもらうようお願いをしているところです。

### 【主な課題と対応策】

- ◇ 漁場マップへの新たな情報掲載について  
⇒ 漁場マップへの掲載にはシステム上、新たに項目別のレイヤーが必要。この対応には別途予算が必要となるため、次年度事業で予算化を検討  
⇒ 新たな項目は、サクラマス釣果、オトリアユ販売、駐車場など。次年度に向けて必要な発信情報の整理と予算化を検討
  - ◇ アンケートの回収方法について  
⇒ 電子遊漁券購入画面の終わりにアンケートを掲載するか、電子遊漁券購入者に電子メールで一斉に送信して回収するか要検討
  - ◇ 回収アンケートの効果的な活用について  
⇒ 回収されたアンケートを効果的に活用するため、全漁協分の取り纏め、重要な意見の抽出、県行政・内水連・漁協の事業に反映させるための検討会が必要
- ◇ 今年度の成果と評価について  
⇒ アンケート機能の追加、漁場マップは運用中、今後、回収したデータの整理と発信、マップの充実が必要。

SLIDE-13

**SLIDE-13：漁場マップを作成するうえで** 様々な課題が出てきます。例えば、漁場マップへ新たな情報、例えば駐車場の位置図、おとりアユ販売所など、新たな情報をどんどん追加していく必要が出てきますが、その場合、新しい項目ごとにレイヤーの追加が必要になります。

このレイヤー1個に経費がかかるということなので、今年度はこのようなことを想定してなかったため、来年度も事業ができるのであれば、別途予算を要求して充実を図っていきたいと考えています。今後、マップに追加する項目の一例

として、次に話しますサクラマスの釣果情報や釣果場所など遊漁者の増加を目指すための情報も考えられます。ただ、遊漁者は「そんな場所を教えたくない」ようなのですが、大雑把な位置は入れることはできるだろうと考えています。さらに、おとりアユの販売所、駐車場なども次年度に向けて整理したい情報と考えております。

アンケートの回収方法については、スマホでするよりも、一斉メールで送信・回収する方が回収率が高いかも知れないので要検討の必要があると考えております。また、ただ回収するのではなくて、アンケート結果を効果的に活用するためには、全漁協分のデータを誰かが取りまとめて、重要な意見を抽出し、県の水産行政や内水連、漁協の事業に反映させるための検討会を設置する必要があるのかなと考えております。

今年度の成果と評価については、アンケート機能はしっかり追加しました。ただし、現在、まだ多くの釣りが始まっていないので、アンケートの回答はありません。それから漁場マップについては、既に、漁連のホームページにはアップしておりますが、まだ、情報としては漁場図とアユのルアー漁場しかないということです。今後は、回収したデータを整理・発信していく必要があります。情報を収集したらきちっと発信すること、さらにマップを充実させていく必要もあると考えております。

**SLIDE-14：**次に県の魚サクラマスの漁場管理です。これだけが、つりチケさんやフィッシュパス FISHPASS さんの力を借りずに、われわれ3人のコーディネーターが一生懸命考えた事業になります。

この事業を必要とする背景について、サクラマスは、ご存じのとおり山形県の魚に指定されております。庄内一円では非常に釣りが盛んで、春の風物詩として有名です。昔は1月1日に赤川で釣り糸

### 《県の魚「サクラマス」の漁場管理と遊漁振興》

#### 《本事業を実施するに至った背景》

- ・ サクラマスは山形県の魚であり、赤川をはじめ庄内一円の河川での釣りは、春の風物詩として有名
- ・ 内水連では資源造成と遊漁人口増大のため、平成18年から漁協に回帰率の高いスモルト幼魚の放流を委託
- ・ これまで効果検証を実施しなかったことから、令和2年から鱧切標識を行い、回帰状況など調査を実施
- ・ 調査手法は内水連HPIに標識部位の記載と釣獲情報提供のお願い程度のため効果は未検証

スモルト幼魚放流の効果検証のため、ICTの活用など遊漁者の協力を積極的に得られる手法の確立と、本県がサクラマス釣りのメッカであるとの遊漁者への再認識と遊漁者人口増大に貢献

SLIDE-14

を垂れるだけでも楽しかったという人がいたぐらいです。残念ながら、今は3月1日解禁になっております。内水連ではこのサクラマス遊漁人口を増加させたいという目的で、平成18年から3漁協に対して回帰率の高いスマルト幼魚の放流を委託しております。

回帰率が高い理由は、今、河川が傷んでいる中、稚魚放流をして1年半も河川で生活をさせてから海に下らすよりは、「放流してすぐに海に下ってもらったほうがサクラマスの回帰率は絶対高いだろう、無駄にはならない」、という考えからスマルト幼魚放流を行っております。それから、今まで継続してきたのに放流の効果検証はしていないということだったので、令和2年に私が内水連の参事になったときから鰭切標識を行い、そして、回帰状況の調査をすることにしました。また、このスマルト幼魚は1匹の単価が非常に高いです。しかし、これまでは、そのスマルト率など魚の状態を全然確認せずに生産者任せで放流してきた様です。私以外の2名のコーディネーターは、このサクラマスのスマルト幼魚を生産している組織の理事と部長でもあるので、彼らに文句を言って、「もっといいスマルトを作れ!」と発破をかけました。彼らもプロであるため、現在では我々もしっかり魚の状態を確認しておりますが、今では非常に状態の良いスマルト幼魚を生産していただき、放流しております。

この調査については、内水連のホームページに目的、標識部位、釣獲情報提供のお願いと発信などはしてきましたが、やはりお願い程度であったため、効果についてはしっかり検証できていないのが現状です。そこで、今回、スマルト放流の効果検証のために遊漁者の協力を積極的に得られる手法の確立と、本県がサクラマス釣りのメッカであると遊漁者に再認識をしてもらうことに加え、遊漁者人口の増大に貢献させる目的でこの事業を始めております。

### 本事業の進め方と進捗状況

| 月日    | 具体的な取り組み内容                                                                                                                                               |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| R6.8  | ◇コーディネーター3人で事前打合せ<br>⇒役割分担、作成資料、年間スケジュール確認、本事業で1河川分の予算を確保（内水連委託3河川+1河川追加で4河川を対象）                                                                         |
| R6.9  | ◇第1回検討会<br>⇒釣獲情報をどこまで求めるか、釣果情報の遊漁者への発信方法、サクラマスバッジの交換場所と方法、釣獲情報からの資源解析方法等について意見交換。この結果を踏まえ、次回検討会までに案を作成                                                   |
| R6.11 | ◇第2回検討会<br>⇒第1回検討会を踏まえ、遊漁者への事業の周知方法、釣果の情報収集方法、スマルト幼魚放流の効果検証方法が示され、漁協と意見交換。この事業を推進するにあたり「ICT遊漁券システムの活用と機能追加による全漁協の情報整理・漁場マップ作製」事業と協働し、漁場マップに情報を提供して遊漁者に周知 |
| R7.2  | ◇第3回検討会<br>⇒釣果情報様式、周知のためのポスター、バッジの配布                                                                                                                     |
| R7.3  | ◇スマルト幼魚の標識作業と放流（放流は3月19日、21日）<br>◇3月1日解禁河川から釣果情報が続々と寄せられる                                                                                                |

SLIDE-15

**SLIDE-15**：進め方としては、昨年8月に再度3人で事前打ち合わせを実施しております。先ほども説明しましたように、既に3河川に7,500尾ずつ、内水連から3漁協に委託してスマルト放流を行ってございました。しかし、もう1河川増やしたい思いがあったので、この事業を活用し、もう1河川増やし、併せて4河川に放流させていただく計画といたしました。

9月に第1回検討会を開催しております。釣果情報をどこまで取るのか?、この情報を遊漁者にどうやって発信するの

か?、お礼にするサクラマスのバッジとの交換場所は?、そして交換する際の手続きはどのようにするのかなど—しっかり考えなければならない等々。さらに、釣獲情報からの資源解析方法等についても意見交換をしております。

第2回の検討会では、第1回の検討会を踏まえて、ICT遊漁券システムの活用と機能追加により全漁協が協同して漁場マップに情報を提供し、遊漁者にも周知してもらうことを検討いたしました。

第3回の検討会では、釣果情報を記入していただく様式、周知のためのポスター、バッジを参加漁協に配布し、漁協を通して釣り具屋等のバッジ交換所に配布することにしました。今日、実際に遊漁者に進呈するバッジを持ってきております。ご覧いただければと思います。少し小さく見えますが、過去に一度試験場でバッジ進呈による釣果情報の収集の取組を行った際、とても多くの情報が集まった経緯があります。

1月に今年度分のスマルト幼魚の標識作業を終え、放流は3月19日と21日に予定しています。これ

から準備です。3月1日に一番早い赤川で解禁しておりますので、すでに釣果情報が続々とバッチがもらえるということで集まっております。なお、現在釣られているサクラマスは昨年度以前に放流したスマルト幼魚や稚魚が対象となっております。

**SLIDE-16：遊漁者が持ち込んだ釣獲サクラマスへの対応**については、バッチ交換所の方々にお願いする項目になります。まず持ち込まれたら、様式1または2を用いて、釣獲時の情報、全長の測定、それから脂鱭を切除の標識の有無の確認をして報告様式に書いていただき、遊漁者がバッチを所望した場合は、右胸鱭をカットして魚体を撮影していただきます。そこまで終われば遊漁者にバッチを進呈して、なおかつ個人情報になりますが、バッチ管理のために名簿に住所と氏名を書いていただきます。得られたデータは、すぐに内水連と内水研に情報をメールで提供してもらうことになっております。

ただ、遊漁者が釣果情報や、魚体の撮影、鱭の切除などどれか一つでも拒否した場合は、バッチは進呈しない取り決めをしています。これは、過去にバッチ進呈を行った際に、釣果を重複報告する方が結構おられたことに起因します。また、カワウ駆除のくちばし持参のときに問題になったこともあり、ここは厳密にすることにしました。店舗において記載拒否があった場合でも、分かる範囲で情報はいただいております。

管轄漁協と内水連の役割としては、報告様式の釣獲場所が誰でも分かる一般的に表現になっているかという確認と速やかにフィッシュパス FISHPASS に情報を送り、ホームページに記載してもらうことです。3月1日解禁後の釣獲情報は既に内水連のホームページで FISHPASS フィッシュパスさんから上げていただいております。将来的には FISHPASS フィッシュパスさんには釣獲データは釣り場マップに適時反映してもらいますが、サクラマスの釣果情報のレイヤーがないために、来年度以降になります。また、釣獲情報は1ヶ月ごとに取りまとめ、内水研で解析を行うという役割分担をしています。

### 遊漁者が持ち込んだ釣獲サクラマスへの対応手順

#### 《バッチ交換について》

- ① サクラマスが持ち込まれたら報告様式（報告様式①又は②）に釣獲時情報と全長測定、標識の有無を確認して報告様式に記入
- ② 遊漁者がバッチを所望した場合、右胸鱭をカットし魚体を撮影
- ③ 遊漁者にバッチを進呈し、名簿に住所・氏名を記入（個人情報：取扱注意）
- ④ 魚体写真と釣獲情報を記載した報告様式は（①又は②）、管轄漁協にFAX、又はメールで送信
- ⑤ 遊漁者が、情報の提供、魚体の写真撮影、鱭カットの一つでも拒否した場合は、バッチは進呈しない（釣果の重複報告防止のため）
- ⑥ 店舗では、⑤に記載拒否があった場合でも、分かる範囲で報告様式に記載し、管轄漁協に情報を送信

#### 《管轄漁協および内水連》

- ① 報告様式の釣獲場所が誰でも分かる一般的な表現になっているか確認
- ② 確認後は速やかにFISH PASSに情報を送り、HP等に記載を依頼

#### 《FISH PASS》

- ① 釣獲データは釣り場マップに適時反映（次年度以降）
- ② 釣獲データは1か月毎に取りまとめ、内水研のサクラマス担当に送付

SLIDE-16

### サクラマススマルト幼魚への標識作業

《R7.1.29～30》

- ・関係4漁協の組合員に協力を得て20g前後のスマルト幼魚に標識
- ・標識魚は3月中旬まで給餌を行い、3月19日に日向川（日向荒瀬漁協）  
鮭川・真室川（最上漁協）、五十川（山戸漁協）、3月21日に赤川  
（赤川漁協）に内水連委託（16,500尾）を併せて24,000尾放流予定



（公財）山形県水産振興協会 内水面センターにて標識作業風景 SLIDE-17

**SLIDE-17：これが実際の幼魚の標識作業の現場です。**鳥海山の中腹にある山形県の内水面水産センターで、この時の気温は0度近くで、風がビュービュー吹いている中、お年寄りの組合員と一緒に手伝ってくれて、このようにサクラマスのスマルト幼魚に油鱭カットの標識をしました。内水連委託分が1万6,500尾、今回事業分の7,500尾に加え、水産振興協会から500尾を供与していただいて、トータル2万4,000尾。それを4漁協に6,000尾ずつ放流することを予定しております。

SLIDE-18,19：これが報告様式の一例です。このようなラベルに情報を書きいただきます。

持ち込まれたサクラマスであることを証明するために右胸鰭の切除をしましたが、その理由は、サクラマスを釣った方は魚拓を作ったり、写真を撮ったりするため、左胸鰭を切ることを嫌がる方が多いため、右側の胸鰭を切るようになりました。

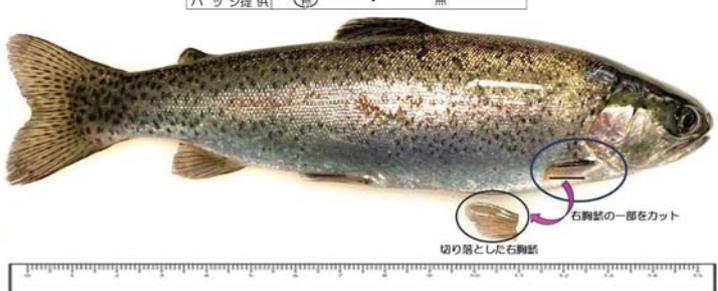
しかし、保有するサクラマスの写真は左向きばかりで、仕方なくニジマスを使わせていただきました。これはあくまでイメージ図であることを理解していただければと思います。

この報告様式1は、ラベルを魚体の上に置き、メジャーとラベルを添えて写真を撮って、その写真をメールで送っていただくという形式です。

報告様式2はA4の紙に情報を入れて、撮った魚の写真を様式に貼り付けて送るという形式です。どうもこちらは面倒であるため、ほとんどの情報は報告様式の1で届いております。

### 報告様式 ①

|                   |                           |
|-------------------|---------------------------|
| 報告者・店舗名 ( ●●釣具店 ) |                           |
| 釣獲日時              | 令和7年3月1日 ( AM ) PM ) 10時頃 |
| 釣獲場所              | 鶴岡市赤川 三段 (●)・地内           |
| 全長                | 60 cm                     |
| 鰭切れ標識の有無          | (●) (部位: 胸鰭) ・ 無          |
| バッジ提供             | (●) ・ 無                   |



◇ 報告ラベルと右胸鰭を切除した魚体とメジャーを並べて写真を撮り、その写真を内水連・内水研にメールで送付

SLIDE-18

### 報告様式 ②

|                 |                                                                                     |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 報告者・店舗名 : ●●釣具店 |                                                                                     |
| 釣獲日時            | 令和7年3月1日 ( AM ) PM ) 11時頃                                                           |
| 釣獲場所            | 鶴岡市 赤川 三段堰堤付近<br>(例: ○○橋直下, ○○堰堤付近, ○○地内)                                           |
| 全長              | 60 cm                                                                               |
| 標識の有無 (鰭切)      | (●) 有 無<br>有の場合標識部位: 胸鰭                                                             |
| 写真              |  |
| バッジ提供           | (●) 有 無                                                                             |

◇ 報告様式に必要事項を記入し、右胸鰭切除の魚体の写真を様式に張り付けて内水連・内水研に送付

SLIDE-19

## 遊 漁 者 へ の 周 知

**求ム！サクラマス**

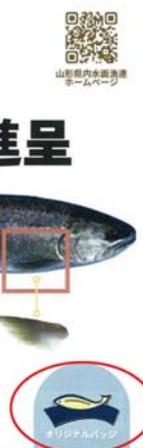
**持ち込み者には  
オリジナルバッジ進呈**

**進呈条件**

交換店舗にて、

1. 報告書の記入
2. 店舗スタッフが右胸鰭の一部をカット
3. 魚体の写真撮影

【山形県の河川でサクラマスを釣った遊漁者のみなさまへ】  
山形県内水面漁業協同組合連合会ではサクラマスの釣果情報を求めています。バッジ交換店舗にて条件を満たした方には、もちろんオリジナルバッジを進呈します。詳細は別紙または山形県内水面漁連のホームページをご覧ください。



SLIDE-20

SLIDE-20：サクラマスのスモルト幼魚を放流していない漁協でも、すべての漁協にはこういったパネルを作製して、遊漁者に対して、このような取組をしているという情報を提供しています。

**求ム！サクラマス**  
**持ち込み先はコチラ**

| バッジ交換所       | 住所                | 電話            | 対応可能日・時間等                 |
|--------------|-------------------|---------------|---------------------------|
| 自然漁師 新庄店     | 新庄市五日町字湧水川1389-23 | 0233-23-3885  | 毎日・10:00～20:00            |
| フレッシュリバー     | 新庄市奥蔵1475-7       | 0233-23-8544  | 毎日・09:00～21:00            |
| 鶴上漁業協同組合     | 鶴上川町大字新町字天神460    | 0233-62-2078  | 平日・09:00～16:00（事前に連絡が必要）  |
| 上州屋 酒田店      | 酒田市にあら二丁目1-1      | 0234-23-7833  | 毎日・10:00～19:00（事前に連絡が必要）  |
| 自然漁師 鶴岡店     | 鶴岡市文下字津72         | 0235-24-2433  | 毎日・10:00～20:00            |
| フレッシュ庄内      | 鶴岡市白山字村北61        | 0235-24-8205  | 不定休・06:00～20:00（事前に連絡が必要） |
| 赤川漁業協同組合     | 鶴岡市本町三丁目3-20      | 0235-22-2077  | 平日・09:00～16:30（事前に連絡が必要）  |
| 三浦酒店         | 鶴岡市山五十川内185       | 0235-45-2811  | 平日・09:00～16:00（事前に連絡が必要）  |
| 五十川館         | 鶴岡市五十川之47         | 0235-45-2129  | 平日・09:00～16:00（事前に連絡が必要）  |
| 山戸漁業協同組合     | 鶴岡市山五十川中268       | 090-4885-5264 | 毎日・09:00～16:00（事前に連絡が必要）  |
| フレッシュハウス タイズ | 鶴岡市島海邑108-1       | 0235-43-2015  | 不定休・07:30～19:30（事前に連絡が必要） |
| 鶴岡漁業センター     | 鶴岡市三瀬字宮の前32-1     | 0235-73-3763  | 平日・08:30～17:00            |

山形県のサクラマス釣果情報、お待ちしております！

- ① バッジ交換所は漁協、釣具店など庄内一円に12カ所
- ② ポスターは全漁協、関係釣具店に掲示。内水連、関係漁協のHPにアップ
- ③ バッジ、報告様式は漁協を通して各交換所に配布

SLIDE-21

SLIDE-21：これはバッジ交換所の情報ですが、交換所の名称、住所、電話番号、持ち込む前に電話での事前連絡が必要であるとか、この時間帯でお願いしますとかを、備考欄に記載しています。

全部で庄内地域一円に12カ所持ち込み先があります。先ほども説明したとおり、ポスターは全漁協及び関係釣り具店に掲示しています。また、内水連と関係漁協のホームページにもこの情報はアップしています。それから、バッジ、報告様式は漁協を通して各交換所にすでに配布しております。

SLIDE-22：これがすでに情報として上がってきたものです。

今年のサクラマスは丸々として非常に良い魚体です。来年度はこの写真をお借りしてポスターに貼り付けたいと思っていますところですが、今回出したのは4枚だけですが、すでに情報がかなり集まってきております。



SLIDE-22

### 【主な課題と対応策】

- ◇ スモルト幼魚放流の効果検証には海面の漁獲量と標識魚のデータが必要なため海面漁業者からのデータ回収を依頼について
  - ⇒ サクラマスの漁獲は主に定置網漁業のため、定置網組合の総会で事業の目的、必要とするデータなどを説明し、協力を依頼
  - ⇒ 海面漁業者の直接出荷分は上記の対応、産地市場への出荷分は水研、水産振興協会の市場調査でデータを回収
- ◇ 漁場マップへの情報掲載について
  - ⇒ 漁場マップへの掲載にはシステム上、サクラマス用のレイヤーが必要になる。この対応には別途予算が必要となるため、次年度の事業で予算化を検討
- ◇ 今年度の成果・評価について
  - ⇒ 今年度放流する魚の回帰率の評価は、来年の3月1日以降となるが内水連では昨年3月に3河川に併せて22,700尾のスモルト幼魚を放流しており、その回帰群のデータ、バッジ進呈による情報収集効果、遊漁振興などの効果を収集

SLIDE-23

SLIDE-23：主な課題と対応策としては、この放流の効果検証をしていくにあたって、海面の漁獲量と標識魚のデータも必要になってきます。内水面の情報だけではサクラマスの全容は分からないため、海面漁業者からもデータを回収する必要があります。

特に定置の方々がサクラマスを獲っていることから、この11日に定置網組合の総会がありますので、コーディネーターの一人がそこに出席して、この事業の目的、必要とするデータを説明して協力を依頼してくるようになっていきます。

サクラマスが定置で漁獲された場合、本来は全部市場に一旦出荷されますが、実は市場に出荷するよりも、血抜きして鮮度保持をしっかりとった魚は高値で取引されるため、直で豊洲市場に出荷している定置の方も

おられるので、そういった直行便のデータもきちんと回収することとしました。ただ、市場に上がる分については、海の試験場と水産振興協会がデータを回収してくださるということです。漁場マップへの情報掲載については、システム上、先ほどもお話ししましたようにサクラマスのレイヤーが来年になりますが、お願いしたいと思います。

今年度の成果と評価については、回帰率の評価は、今年放流した分については、来年の3月1日以降になります。現在釣獲されているサクラマスは、昨年3月に内水連が22,700尾放流し、今年度回帰したサクラマスのデータになります。

終わりになりますが、先ほど三重県内漁連さんが事前に実施できるようにしてほしい旨の発言がありましたが、我々はそちらも必要ですが、サクラマスのデータ収集に関わる肝心な仕事は3月1日以降になるので、2月17日に事業が終了すると、それ以降は自腹で調査などをすることになります。できれば3月の中旬以降までこの事業を継続できるようにしていただけると非常に助かりますので、よろしく願いいたします。

# 米代川サクラマス協議会

報告者：会 長 湊屋啓二  
コーディネーター 田中俊生  
コーディネーター 野宮幸博



(♪～BGM～♪:スパイ大作戦のテーマ)

**SLIDE-1**：私どもは秋田県の米代川水系サクラマス協議会と申します。名付けて「SKY 大作戦」。ミッションインポッシブルですから、不可能を可能にするこの米代川の取り組み、ぜひ聞いていただきたいと思います。

過去には、米代川水系全体のタブレットによる遊漁券システムを、全国でもかなり早い時期に取り入れまして、順調にサクラマスの遊漁券売上げがそれで伸びております。効率化については、先ほどからいろいろありましたが、監視員の高齢化等に伴いましてタブレットによる監視システムの導入。それから、全国初で、遊漁券にタダで保険が付くこともやらせていただき、釣り人から大好評を得ております。他県の漁協の皆様からはどういう方式でやったんですかと？聞かれますが、遊漁者からはお金を1円もいただかず、保険を付けさせていただいております。

**SLIDE-2**：まず、米代川水系サクラマス協議会は7漁協で構成されております。割と米代川って大河なのです。大きい川で、流程が183キロぐらいありまして、支流も80何カ所あります。そのために、アユとサクラマスの天然遡上が圧倒的に多いです。我々漁協は放流もしておりますが、全く放流に頼らずとも、実は魚が豊富でありまして、私も釣りをやるのですが、見た感じアユは99%が天然で、残り1%は放流と感じます。放流もやっていますが、天然によるところが大きいと、そういった状況でございます。



まずこの事業を行うに至った経緯をちょっとご説明させていただきたいと思います。



**SLIDE-3**：これね、仮に「K氏」としておきますけど、実はこの人、熊にやられて大変なことになったのですよ。それでも、ここはこのくらいまで回復しました（注：傷口を指さしながら）。

私に顧問弁護士おりまして、顧問弁護士に野生動物による事件はどうなりますか？」とうかがったところ、「あなた湊屋啓二さんでしょう？」「従って、これは刑事事件である！」というお話を弁護士さんからいただきました。

実際、自宅の車庫を開けたらでっかいクマがいたのですよ！恐ろしかったです

ね、1.7、8メートルもありました。シャッター開けたら1.5メートルのところでお互いにずっと目を見つめあって、それが頭の茶色いでかいクマなので、それはもう恐ろしかったですね。それで、思わず「これはもうやられる！」と思って踵を返して全速力で逃げたんです。

ところが10m行くか行かないかで襲われて、その後ちょっと記憶が飛んでいるんですけども、体を倒されて目を狙ってくる。顔に執着するのですよ。だから顔を伏せたのだけど顔の横が開いているんですね、この開いたところの耳たぶを噛みちぎられて、大変なことになったんです。目を襲ってくるというのは間違いなく、実際、左目をやられたのです。

目がやられてるのわかりますか？ここですよ、ここ。絆創膏貼っていますけど、この上からクマの爪が入っているんです、ここにギュッと。これがあと5ミリずれていると目玉持っていかれて失明していました、と先生に言われたのですが、それが「三苦の1ミリ、湊屋の5ミリ」ということで、今はこのように目も順調に回復しまして、おかげさまで何とかやっているわけでありませう。

そうしたことで、私がクマにやられたのが2022年の秋。2023年は溪流の解禁と同時に秋田県内の30代の方が溪流釣りに行ってクマにやられました。その結果、順調に伸びていた秋田県の溪流魚共通遊漁券の売上が下降気味になりまして、秋田県に行くと、溪流に行くとやられるのじゃないか？っていう不安が全国の方々に広がりました。

そんなことではいけない！と、このクマによる被害、それから米代川では実は水難事故も非常に多くて、サクラマス釣りでは2021年と2022年に一人ずつ他県の方、山形県の30代の方と福島県から来た50代の方が流されて亡くなっております。魚は豊富なだけけどその分、皆さんあまり頑張ってしまうところまで立ち込んで釣ってみたい。去年も米代川水系ではアユ釣りで3人亡くなっているのですよ。そういったことで、今回の作戦は、自然の脅威、つまりクマ被害と水難事故から釣人を守ることが一番大きな目的で始まった事業でございます。

それをどのように守るかということにつきましては、3人のコーディネーターうち2人が来ていますので、詳しい話は後ほど述べていただきたいと思いますと思いますが、一つは、まずクマが出たのだということのをドローンにスピーカーをつけて、「クマが今ここに出没していますよ！」と、まず釣人の皆さんにお知らせする、釣りに川の中に立ち込んでいても、わりと近くで声って聞こえますよ。それを上空からスピーカーで釣り人に注意喚起する、ということを考えております。

また、ドローンが飛ぶのであれば、遊魚券についても考えがあります。現在、秋田県では電子遊魚券の売上が非常に伸びているのですよ。ただ伸びているのだけでも、紙の遊魚券を買う方もまだいらっしゃいます。当然、そういった方々たちが、アユ釣りやサクラマス釣りで、皆さん結構川の深いところまで立ち込んで釣りをしているのです。監視員の方々もそこまで行くとなると、監視員の皆様自体も危険にさらされることとなります。それを防ぐために、ドローンによる監視システムというのを考案しました。じゃあどうやって監視するのか？方法をいろいろ考えた末、水がついてもはがれない布製の素材を探して、釣り人の帽子のつばに貼って貰い、ドローンで確認することを考えました。ドローンによる監視ではズーム付きのドローンを使い、年券につきましては確実に、日釣り券に関しては、使い回しの問題点も実際にやってみて結果わかってきましたが、いろいろと検討しました。

従いまして、今回の事業においては、いわゆる注意喚起のためのスピーカー付きのドローンと、それから望遠レンズが付いたズーム付きのドローンということで2機ドローンを使いまして、今年度の事業を実施いたしました。

そうしたことで、今まで誰もやったことのない事業で、何とか米代川をまた活性化したいと。賛否両論ありますけど「グレート米代アゲイン！」を目指しながら頑張っていきたいと思っています。それではコーディネーターの方にバトンタッチいたします。

03 事業開始と準備

1. キックオフミーティングの開催 (7月)

漁連・漁協・協議会・システム事業者等、事業関係者と今後の事業の流れと、各担当者の役割、スケジュールを確認。

2. 関係機関17機関への協力依頼 (8月)

協力依頼先：行政・警察・消防など（ドローンを使用する上での安全管理のため）

SLIDE-4

**SLIDE-4**：私、今回、サクラマス協議会のコーディネーターとしてドローンの操縦をやっておりました秋田県内水面漁連の事務局をしている野宮と申します。と、同じくコーディネーターの田中と申します。よろしくお願いいたします。

私の方では、湊屋会長みたいに面白い話はできないので、淡々と進めさせていただきます。

最初に、実施状況ということで、まずはオンラインによりキックオフミーティングを開催しました。このミーティングの中で、どのように進めていくのか？流れとかを確認しながら、実際の行動、活動につなげていったわけなのですが、実際にやってみると、話の段階とはまた違いました。

こういことを急に始めると、例えば「ドローンが川の上を飛んでいるよ！」とか、警察や消防に一般市民から連絡が来たら困るので、まずは関係省庁に挨拶して、こういうのをやるので、ということを伝えなければならぬとなりました。調べましたところ、17関係の省庁がありまして、8月中ぐらいから初めてして米代川下流の能代から始まって、上流の阿仁川まで、能代の管理機器担当課や警察等、能代山本、阿仁川のさらに上流の機関など、やっと17箇所を全部回って終わったのはもう8月が終わるぐらいでした。

すると9月からやっと事業をスタートしましたが、9月だとアユしかやっていない時期で、サクラマス協議会なのにアユしかないのか？！という感じになってしまいました。サクラマスは4月1日から始まって7月末までなので、もうすでにスタート時点でサクラマスのシーズンが終わっているわけです。本当はサクラマスと溪流魚に対しての監視をしたかったのですが、スタート時点ではもうアユしか残ってなくて、本当の目的がちょっとズレてしまったところもありました。

それでもまずは一番やりたいこととして、会長が襲われたクマに対する対策は、冬を越すために餌を沢山食べまくる時期の9月からが遭遇が非常に多くなる時期なので、それで田中さんともう一人のコーディネーターの吉田さんと3人で一生懸命クマの情報を収集して廻りました。

あっちこっち歩いて山奥まで行って、民家の戸を叩いて、「ごめんください、ごめんください、クマ、出ませんか？」って、「出るよ、そこにいるよ」とか言われるのですが、現場に行くと出ないのですよ。一生懸命動画も撮ったのですが、一つも撮れませんでした。それでも監視員の方のところや販売所といったところにあっちこっち歩いて情報を集めました。

**SLIDE-5：** こうやってドローンを飛ばしながら回って歩いたのですね。それでスピーカー付きのドローンによる注意喚起として、事前に、本体に音源を録音して、こっちの方でスイッチをオンにすると「クマが出ました、クマが出ました、逃げてください」上で言うのですね。

また、流れが強いところでは「その流れ危険ですよ、もう少し浅いほうに逃げてください」というのを録音しておいて、上から流します。

さっき会長が言った通り、なかなか川の音でドローンの音が聞こえなくて、10

メートルの竿を持ってアユ釣りしている人のそばで、急にドローンからの声が聞こえるところまで降ろしたら、怒られるのじゃないかと心配しました。現場でも実際に釣人はドローンの気配に気づきません。なので、急に上空から釣り人のそばまで下降して音声をオンにするとびっくりするので、ある程度上から、音声を流しながら少しずつ降ろしてくるように操作しないと、釣り人がびっくりして転んでも困るよね、そういうこと気もつけながらやらないといけないよね、という感じでやっていました。

監視にはもう一台シネというタイプで、映画を撮るときに使うような機体を使いました。それはなかなか良くて、ズーム機能もついている。ただし、やはり問題はありまして、釣り人って歩くじゃないですか？それを上からズームしながら追っかけていくのっていうのは相当操縦が難しいのですよ。これはやって慣ればというレベルではないと思います。というのも、私はもともと模型屋でラジコンのヘリコプターを飛ばしていましたが、それでも操縦が難しいのですが、頑張っついでいくことはギリギリついていきました。田中さんもね、やっているうちにだんだんできるようになってきたのだけど、最初は全然できなくて、動く人のドローンで券を確認するのは難しい作業でした。なので、先ほど会長の説明にあったように、青いシールと黄色いシールを作って、これを実際に釣り人の帽子のつばに貼ってもらいました。青は年券、黄色が日券っていう形で、上から見て、多少見えなくても色で判断できるようにしました。

**SLIDE-6：** 次は SNS を活用して、熊出没情報を掲載したクママップを公開しました。

これでクマが出るよという、リアルタイムからはちょっと遅れるかもしれないけど SNS の X の情報を元にして公開するようにしました。時々私もチェックしながら見ていたのですが、いまだにクマは動いていますね。ただ川には出てなくて、山の方において、山の方や街中に出て山に帰らないといった情報が上がっており、気をつけてくださいと注意することができます。



05 クマ出没情報の周知

クマ出没情報のデジタルマップ作成  
<https://yoneshiro.sakura.ne.jp/>

リアルタイムでクマの出没情報を提供

SNS (X) での情報発信  
[https://x.com/yoneshiro\\_river](https://x.com/yoneshiro_river)

米代川水系サクラマス協議会 HPにて掲載中

SLIDE-6

**SLIDE-7：遊漁者の安全管理やドローンによる監視対策については、年配の監視員の方が川の中に入って行って「遊漁券を持っていますか？」って直接確認するのは非常に辛いことから、このドローンによる監視というのを会長がまず考え出したわけです。こういう課題を楽にするようにさせることがまず目標ですね。**

米城川最上流部の鹿角漁協にあるアユのおとり屋さんのところに私と会長が実際にドローンを持って行って、こういう形で監視しますよ！という話をしたんです。そうしたら、非常に喜んでくれました。

というのは、鹿角地区は、鉱山の関係で、漁業権が設定されてない川があって、そこでもアユが釣れる。ズルい人たちは、そっちの川に行くので、おとりだけ買って遊漁券買わないで行くのですが、漁業権のある川でも釣りをすることもあって、それに対して、私たちがドローン飛ばすわけだから、それも、人が隠れることもできないくらい、川の中をドローンで監視して歩くので、そしたら、密漁者も慌てて券買いに行くようなことがあって、密漁の防止にもとても役に立っている、すごい反響がありましたよ！と言われました。

上流部の漁業権が設定されていない川だけではなく、下流域の産卵床のところを網をかけたとかして密漁する輩もいるんです。そういうのもドローンで飛ばしていくと、やはり隠れて網をしまいますね。でもこっちは、映画で使うようなドローンなので、全部見えるのですよ。車の中のバケツとか。でかいバケツがね。なので、全部写真を撮っていますけど、実際に物を盗っているところじゃないし、こっちには捕まえる権限はないので、何もしてないんですけども、いずれはそういうことを警察にプッシュすることも可能ですね。

06 事業成果

遊漁者の安全管理体制の強化

ドローンによる監視体制の強化

・実効性の確認  
 ・継続的な評価

SLIDE-7

**SLIDE-8**：それでは、今後の展望としましては、今、シールによる目視、シールの色で判断するのですが、これにQRコードもつけて読めたら、どこの誰とか分かるのかなど、その先はどうなるか？まだ技術的な問題もいろいろあると思うので技術者とも話をしてないのでまだ分からないのですが、そういうことになっていければ、もし万が一事故が起きた際に、QRコードからどこの誰か分かるとかできるようなになればと思っています。

**07 まとめ**

**取り組み:**

- ・内水面漁場管理の新たな手法を確立
- ・クマ出没情報の発信

**今後の課題:**

- ・データ活用的高度化
- ・監視体制の維持・改善

遊漁者と地域の安全に貢献

SLIDE-8

それから、私たちは事業の開始時期を早めてほしい。サクラマス協議会なので、サクラマスの釣り、漁期に対して合わせる方で対象になることに私たちは一票を入れます。ありがとうございました。

最後にもう一つだけ、米代川水系は180キロ。支流入れて250キロくらいあるのですが、これを去年は3人で回りました。それはかなりハードな作業なのです。本来の目的は、もし僕らが3年間これを行うことができれば、ノウハウを蓄積して、各漁協さんにこういうことをやってもらいたい、それは米代川にとらわれず、秋田県全部やってもらいたいような、そういう事業にしたいと思っています。

でもドローン、このドローンが非常に高価で、今年新しく発売されたドローンは100万円を超える価格なのです。これをどうしてもレンタルだけしか使えないというのが今後重くなってくるので、3年間事業を実施できたとしても、終わった後でも継続してできるかという、なかなか難しいと思うのです。だから、なるべく、こういうものもレンタルではなく、購入してもいいような、そういうものが考えていただければと思っています。

以上です。ありがとうございました。

## 講評

### ○岩下（事務局）

今年度の検討委員の方々に講評をいただきます。

なお、滋賀河川漁連の佐野委員からは先ほど「釣れる川にすることが大切だ！」と言伝を預かっていております。それでは委員の皆様お願いいたします。

### □矢田委員

手短に、今日はいろいろと地域の経済とか、そういうものに対する効果という点でもいろいろお話しあったのですが、中でも最後にもありましたような安全管理とか、そういった点についてもいろいろと取り組みがあることは非常に頼もしいと思いました。川を知っている人からこういった発信をしていただけるといことは、この次年度以降も期待したいと思っております。短いですが、このくらいでお願いします。

### □工藤委員

本日は年度末もお忙しいところご報告いただきまして、本当にありがとうございました。私もいろいろ感じたのですが、究極的に言うと、このみんなで作るぞ事業を使ってコーディネーターの皆さんが、今年度、色んな取り組みをしていただいたおかげで、大げさに言うことではないのですが、国民が内水面の恵沢を享受することができるようになった、と感じていて、やはりこの事業というのは、非常に内水面の振興法と非常にマッチしているのだな、ということを実感しましたし、今後はさらに発展していくような希望が持てましたので、とても感謝しております。どうもありがとうございました。

### □桑田委員

皆さんお疲れ様でした。組織の実情に応じてですね、先端的なチャレンジな取り組みをいくつか聞かせていただき、大変勉強になりました。これは次に続く方々のための事業と思っておりますので、ぜひまとめられる時には、良かったこと・悪かったこと・課題を明確にしながら、できれば取りまとめていただいて、後に続けるものが参考になるような形に取りまとめていただきますよう、お願いいたします。

### □佐藤委員

本日はありがとうございました。もう本当に一つ一つの取り組みについて、いろいろお聞きしたりとか、質問させていただいたりとか、たくさんあるのですが、本当に今後の内水面の方向というか、各漁協とか、内水面に関わる場所が関わる点、関わっていくべき点とか、関わっていかねばならない点とか、そういうことに関する示唆のようなものも感じることができました。この事業を通して、今後の内水面の発展にこういった事例が生かされていけば、とても良いと思っております。ありがとうございました。

### ○岩下（事務局）

委員の皆様、どうもありがとうございます。棟方先生、お願いします。

### □棟方教授

本日はありがとうございました。当然ながらこの段階ではまだ、各取組というのは断片的だと思うのですが、これを共有することによって、例えば増殖して魚を増やして、釣人を呼び込んでということが、サイクルとしてつながり、それを共有できれば、今後明るい未来が待っているのではないかと感じました。

ありがとうございました。

○岩下（事務局）

どうもありがとうございました。それでは水産庁、丸茂課長補佐ならびに鵜澤課長補佐お願いします。

□丸茂課長補佐

時間も押しておりますので、委員の先生方もいろいろ言っていたので、私の方からは本当にもう簡単に。今回、皆さんいろいろな取り組みを発表していただいたので、来年度以降もいろいろ取り組みを考えていらっしゃると思うのですが、他の取組も参考にしながら、こういうのがいいんじゃないかな？という感じで、どんどん相乗的に皆さんが良くなるように、働いていけば良いかと思っております。来年もどんな成果が出るか楽しみにしております。

皆さん、国家公務員は異動早いから、どうせすぐいなくなるのだろうって思われるかもしれないですけども、私、4ヶ月前に内水面になったばかりなので、来年、再来年も恐らくこの場にいると思いますので、また引き続きよろしく願いいたします。

□鵜澤課長補佐

私も去年の9月に内水面に初めて来たばかりですので、あと2年3年いると思います。内水面、正直今まで漁業に関する、漁業です、というポストでなかったのが、去年の9月以降、このみんなでやるぞ事業を中心に勉強させていただいているところで、すごくいろいろな取り組みされているんだなということで、毎回楽しみに事業報告を聞いているところでございます。なので、先ほど皆さんもおっしゃったように、ダメだった事例とかも全部勉強になると思っておりますので、それぞれ詳らかに聞かせていただけることを期待しております。

○岩下（事務局）

どうもありがとうございました。

それでは、本日の令和6年度みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業の報告会を終了いたします。皆さまの今後の内水面での活躍を祈念して終了したいと思います。どうもありがとうございました。

水産庁補助事業

令和6年度みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業

報告会講演録

令和7年3月

みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業 事務局

全国内水面漁業協同組合連合会

公益社団法人日本水産資源保護協会



